

## 別添 6

### <通則>

医科診療報酬点数表に記載する診療等に要する書面等は別紙のとおりである。

なお、当該別紙は、参考として示しているものであり、示している事項が全て記載されていれば、当該別紙と同じでなくても差し支えないものであること。

また、当該別紙の作成や保存等に当たっては、医師事務作業の負担軽減等の観点から各保険医療機関において工夫されたいこと。

自筆の署名がある場合には印は不要であること。

※別紙9、10、11、15、22は欠番である。

別紙1

紹介先医療機関等名

担当医

科

殿

年 月 日

紹介元医療機関の所在地及び名称

電話番号

医師氏名

印

患者氏名	性別	男	・	女
患者住所				
電話番号				
生年月日	年	月	日	( 歳)
職業				

傷病名
紹介目的
既往歴及び家族歴
症状経過及び検査結果
治療経過
現在の処方
備考

- 備考
1. 必要がある場合は続紙に記載して添付すること。
  2. 必要がある場合は画像診断のフィルム、検査の記録を添付すること。
  3. 紹介先が保険医療機関以外である場合は、紹介先医療機関等名の欄に紹介先保険薬局、市町村、保健所名等を記入すること。かつ、患者住所及び電話番号を必ず記入すること。

## 入 院 診 療 計 画 書

(患者氏名) \_\_\_\_\_ 殿

年 月 日

病 棟 （ 病 室 ）	
主治医以外の担当者名	
在宅復帰支援担当者名 *	
病 名 (他に考え得る病名)	
症 状	
治 療 計 画	
検 査 内 容 及 び 日 程	
手 術 内 容 及 び 日 程	
推定される入院期間	
特別な栄養管理の必要性	有 ・ 無 (どちらかに○)
そ の 他 ・ 看 護 計 画 ・ リハビリテーション 等の計画	
在宅復帰支援計画 *	
総合的な機能評価 ◇	

注1) 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わり得るものである。

注2) 入院期間については、現時点で予想されるものである。

注3) \*印は、地域包括ケア病棟入院料（入院医療管理料）を算定する患者にあっては必ず記入すること。

注4) ◇印は、総合的な機能評価を行った患者について、評価結果を記載すること。

注5) 特別な栄養管理の必要性については、電子カルテ等、様式の変更が直ちにできない場合、その他欄に記載してもよい。

(主治医氏名) \_\_\_\_\_ 印

(本人・家族) \_\_\_\_\_

入 院 診 療 計 画 書

(患者氏名) \_\_\_\_\_ 殿  
年 月 日

病 棟 ( 病 室 )	
主治医以外の担当者名	
病 名 (他に考え得る病名)	
症 状 治療により改善 す べ き 点 等	
全 身 状 態 の 評 価 (ADLの評価を含む)	
治 療 計 画 (定期的検査、日常 生活機能の保持・ 回復、入院治療 の目標等を含む)	
リハビリテーションの 計 画 (目 標 を 含 む)	
栄養摂取に関する計画	(特別な栄養管理の必要性： 有 ・ 無 )
感染症、皮膚潰瘍等の 皮膚疾患に関する対策 (予 防 対 策 を 含 む)	
そ の 他 ・ 看護計画 ・ 退院に向けた支援 計画 ・ 入院期間の見込み等	

注) 上記内容は、現時点で考えられるものであり、今後、状態の変化等に応じて変わり得るものである。

(主治医氏名) \_\_\_\_\_ 印

(本人・家族) \_\_\_\_\_

## 入院診療計画書

(患者氏名) 殿

年 月 日

病 棟 ( 病 室 )	
主治医以外の担当者名	
選任された 退院後生活環境相談員の氏名	
病 名 (他に考え得る病名)	
症 状	
治 療 計 画	
検 査 内 容 及 び 日 程	
手 術 内 容 及 び 日 程	
推 定 さ れ る 入 院 期 間 (うち医療保護入院による入院期間)	(うち医療保護入院による入院期間： )
特別な栄養管理の必要性	有 ・ 無 (どちらかに○)
そ の 他 ・看護計画 ・リハビリテーション 等の計画	
退 院 に 向 け た 取 組	
総合的な機能評価 ◇	

注1) 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わり得るものである。

注2) 入院期間については、現時点で予想されるものである。

注3) ◇印は、総合的な機能評価を行った患者について、評価結果を記載すること。

注4) 特別な栄養管理の必要性については、電子カルテ等、様式の変更が直ちにできない場合、その他欄に記載してもよい。

(主治医氏名) 印

(本人・家族)

褥瘡対策に関する診療計画書

氏名  
殿 男 女  
年 月 日 生 ( 歳 )

病棟  
記入医師名  
記入看護師名

計画作成日

褥瘡の有無  
1. 現在 なし あり (仙骨部、坐骨部、尾骨部、腸骨部、大転子部、踵部、その他( ))  
2. 過去 なし あり (仙骨部、坐骨部、尾骨部、腸骨部、大転子部、踵部、その他( ))

褥瘡発生日

＜日常生活自立度の低い入院患者＞						
危険因子の評価	日常生活自立度	J(1, 2)	A(1, 2)	B(1, 2)	C(1, 2)	対処
	・基本的動作能力 (ベッド上 自力体位変換) (イス上 坐位姿勢の保持、除圧)	できる		できない		「あり」もしくは 「できない」が1 つ以上の場 合、看護計画を 立案し実施する
		できる		できない		
	・病的骨突出	なし		あり		
	・関節拘縮	なし		あり		
	・栄養状態低下	なし		あり		
	・皮膚湿潤(多汗、尿失禁、便失禁)	なし		あり		
	・皮膚の脆弱性(浮腫)	なし		あり		
	・皮膚の脆弱性(スキナーケアの保有、既往)	なし		あり		

＜褥瘡に関する危険因子のある患者及びすでに褥瘡を有する患者＞ ※両括弧内は点数

褥瘡の状態の評価 (DESIGNIR)	深さ	(0)皮膚損傷・発赤なし (1)持続する発赤 (2)真皮までの損傷 (3)皮下組織までの損傷 (4)皮下組織をこえる損傷 (5)関節腔、体腔に至る損傷 (U)深さ判定が不能の場合						合計点	
	滲出液	(0)なし (1)少量:毎日の交換を要しない (3)中等量:1日1回の交換 (6)多量:1日2回以上の交換							
	大きさ(cm <sup>2</sup> ) 長径×長径に直交する最大径 (持続する発赤の範囲も含む)	(0)皮膚損傷なし (3)4未満 (6)4以上16未満 (8)16以上36未満 (9)36以上64未満 (12)64以上100未満 (15)100以上							
	炎症・感染	(0)局所の炎症徴候なし (1)局所の炎症徴候あり(創周辺の発赤、腫脹、熱感、疼痛) (3)局所の明らかな感染徴候あり(炎症徴候、膿、悪臭) (9)全身的影響あり(発熱など)							
	肉芽形成 良性肉芽が占める割合	(0)創閉鎖又は創が浅い為評価不可能 (1)創面の90%以上を占める (3)創面の50%以上90%未満を占める (4)創面の10%以上50%未満を占める (5)創面の10%未満を占める (6)全く形成されていない							
	壊死組織	(0)なし (3)柔らかい壊死組織あり (6)硬く厚い密着した壊死組織あり							
	ポケット(cm <sup>2</sup> ) 潰瘍面も含めたポケット全周(ポケットの長径×長径に直交する最大径)－潰瘍面積	(0)なし (6)4未満 (9)4以上16未満 (12)16以上36未満 (24)36以上							

※該当する状態について、両括弧内の点数を合計し、「合計点」に記載すること。ただし、深さの点数は加えないこと。

看護計画	留意する項目		計画の内容
	圧迫、ズレカの排除  (体位変換、体圧分散寝具、頭部挙上方法、車椅子姿勢保持等)	ベッド上	
		イス上	
	スキナーケア		
	栄養状態改善		
	リハビリテーション		

【記載上の注意】  
1 日常生活自立度の判定に当たっては「『障害老人の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準』の活用について」(平成3年11月18日 厚生省大臣官房老人保健福祉部長通知 老健第102-2号)を参照のこと。  
2 日常生活自立度がJ1～A2である患者については、当該評価票の作成を要しないものであること。

## 平均在院日数の算定方法

- 1 入院基本料等の施設基準に係る平均在院日数の算定は、次の式による。

①に掲げる数

②に掲げる数

① 当該病棟における直近 3 か月間の在院患者延日数

② (当該病棟における当該 3 か月間の新入棟患者数＋当該病棟における当該 3 か月間の新退棟患者数) / 2

なお、小数点以下は切り上げる。

- 2 上記算定式において、在院患者とは、毎日24時現在当該病棟に在院中の患者をいい、当該病棟に入院してその日のうちに退院又は死亡した者を含むものである。なお、患者が当該病棟から他の病棟へ移動したときは、当該移動した日は当該病棟における入院日として在院患者延日数に含める。

- 3 上記算定式において、新入棟患者数とは、当該 3 か月間に新たに当該病棟に入院した患者の数（以下「新入院患者」という。）及び他の病棟から当該病棟に移動した患者数の合計をいうが、当該入院における 1 回目の当該病棟への入棟のみを数え、再入棟は数えない。

また、病棟種別の異なる病棟が 2 つ以上ある場合において、当該 2 以上の病棟間を同一の患者が移動した場合は、1 回目の入棟のみを新入棟患者として数える。

当該 3 か月以前から当該病棟に入院していた患者は、新入棟患者数には算入しない。

当該病院を退院後、当該病棟に再入院した患者は、新入院患者として取り扱う。

- 4 上記算定式において、新退棟患者数とは、当該 3 か月間に当該病棟から退院（死亡を含む。）した患者数と当該病棟から他の病棟に移動した患者数をいう。ただし、当該入院における 1 回目の当該病棟からの退棟のみを数え、再退棟は数えないこととする。

病棟種別の異なる病棟が 2 以上ある場合において、当該 2 以上の病棟間を同一の患者が移動した場合は、1 回目の退棟のみを新退棟患者として数えるものとする。

- 5 「基本診療料の施設基準等」の別表第二に規定する入院患者は 1 の①及び②から除く。

- 6 短期滞在手術等基本料 3 を算定した患者及び基本診療料の施設基準等の別表第二の二十三に該当する患者であって 6 日以降も入院する場合は、①及び②に含めるものとし、入院日から起算した日数を含めて平均在院日数を計算すること。

## 看護要員（看護職員及び看護補助者をいう）の配置状況（例）

急性期一般入院基本料の場合の例

【 1 病棟（1 看護単位）入院患者数 40 人で急性期一般入院料 2 の届出を行う場合 】

- 1 勤務帯 8 時間、1 日 3 勤務帯を標準として、月平均 1 日当たり必要となる看護職員の数  
が 12 人以上であること。
- 当該届出区分において、月平均 1 日当たり勤務することが必要となる看護職員（看護師及  
び准看護師をいう）の数に対する実際に勤務した月平均 1 日当たりの看護師の比率が 70% 以  
上であること。
- 当該病棟が交代制の勤務形態であること。
- 夜間勤務の看護職員配置については、看護師 1 人を含む 2 人以上であること。
- 当該病棟の平均在院日数が 21 日以内であること。

## (1) 看護職員配置の算出方法

- ① 各勤務帯に従事している看護職員の 1 人当たりの受け持ち患者数が 10 人以内であること。  
 $(40 \text{ 人} \times 1 / 10) \times 3 = \text{当該病棟に 1 日当たり 12 人（小数点以下切り上げ）以上の看護職員が勤務していること。}$

- ② 月平均 1 日当たり勤務することが必要となる看護職員の数に対する実際に勤務した月平均 1  
日当たりの看護師の比率が 70% を満たすこと。

当該病棟の月平均 1 日当たり勤務することが必要となる看護職員の数 が 12 人の場合、  
実際に勤務する月平均 1 日当たりの看護師は 8.4 人以上であること。

$$12 \text{ 人} \times 70\% = 8.4 \text{ 人}$$

## (2) 看護職員 1 人当たりの月平均夜勤時間数の算出方法

- 各病棟において、夜勤時間帯に従事した看護職員 1 人当たりの月平均夜勤時間数が 72 時間  
以下であること。

$\text{月平均夜勤時間数} = \frac{\text{当該病棟の看護職員の月延夜勤時間数}}{\text{夜勤時間帯の従事者数}}$ <p style="text-align: center;">（夜勤専従者及び夜勤 16 時間未満の看護職員を除く）</p>
---

- ① 当該保険医療機関で夜勤時間帯を設定：16 時から翌朝 8 時まで（16 時間）

- ② 夜勤時間と従事者数：2 人以上の看護職員が配置されている。

16 時～24 時 30 分（看護師 3 人、計 3 人）

0 時～8 時 30 分（看護師 2 人、准看護師 1 人 計 3 人）

- ③ 1 月当たり夜勤時間帯に従事する実人員数：23 人（8 人+11 人+4 人）

8 人×72 時間（夜勤を月 9 日）	= 576 時間	(a)	}	※
11 人×64 時間（夜勤を月 8 日）	= 704 時間	(b)		
4 人×40 時間（夜勤を月 5 日）	= 160 時間	(c)		

※ 夜勤時間帯の中で申し送りに要した時間（24 時から 24 時 30 分）  
は申し送った従事者の夜勤時間及び夜勤帯に病棟以外で勤務した



時間は夜勤時間には含めていない。

④ 月延夜勤時間数：1,440 時間 ((a)～(c)の合計)

⑤ 月平均夜勤時間数：72 時間以下である。

1,440 時間 ÷ 23 人 = 62.6 時間 (小数点 2 位以下切り捨て)

## 入院基本料に係る看護記録

入院基本料の届出を行った病棟においては、看護体制の 1 単位ごとに次に掲げる記録がなされている必要がある。ただし、その様式、名称等は各保険医療機関が適当とする方法で差し支えない。

### 1 患者の個人記録

#### (1) 経過記録

個々の患者について観察した事項及び実施した看護の内容等を看護要員が記録するもの。

ただし、病状安定期においては診療録の温度表等に状態の記載欄を設け、その要点を記録する程度でもよい。

#### (2) 看護計画に関する記録

個々の患者について、計画的に適切な看護を行うため、看護の目標、具体的な看護の方法及び評価等を記録するもの。

### 2 看護業務の計画に関する記録

#### (1) 看護業務の管理に関する記録

患者の移動、特別な問題を持つ患者の状態及び特に行われた診療等に関する概要、看護要員の勤務状況並びに勤務交代に際して申し送る必要のある事項等を各勤務帯ごとに記録するもの。

#### (2) 看護業務の計画に関する記録

看護要員の勤務計画及び業務分担並びに看護師、准看護師の受け持ち患者割当等について看護チームごとに掲げておくもの。看護職員を適正に配置するための患者の状態に関する評価の記録。

一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅰに係る評価票

(配点)

A	モニタリング及び処置等	0点	1点	2点
1	創傷処置 (①創傷の処置(褥瘡の処置を除く)、 ②褥瘡の処置)	なし	あり	
2	呼吸ケア(喀痰吸引のみの場合を除く)	なし	あり	
3	点滴ライン同時3本以上の管理	なし	あり	
4	心電図モニターの管理	なし	あり	
5	シリンジポンプの管理	なし	あり	
6	輸血や血液製剤の管理	なし	あり	
7	専門的な治療・処置 (①抗悪性腫瘍剤の使用(注射剤のみ)、 ②抗悪性腫瘍剤の内服の管理、 ③麻薬の使用(注射剤のみ)、 ④麻薬の内服、貼付、坐剤の管理、 ⑤放射線治療、 ⑥免疫抑制剤の管理(注射剤のみ)、 ⑦昇圧剤の使用(注射剤のみ)、 ⑧抗不整脈剤の使用(注射剤のみ)、 ⑨抗血栓塞栓薬の持続点滴の使用、 ⑩ドレナージの管理、 ⑪無菌治療室での治療)	なし		あり
8	救急搬送後の入院(5日間)	なし		あり
				A得点

B	患者の状況等	患者の状態			×	介助の実施		×	評価
		0点	1点	2点		0	1		
9	寝返り	できる	何かにつかまれば できる	できない					点
10	移乗	自立	一部介助	全介助		実施なし	実施あり		点
11	口腔清潔	自立	要介助			実施なし	実施あり		点
12	食事摂取	自立	一部介助	全介助		実施なし	実施あり		点
13	衣服の着脱	自立	一部介助	全介助		実施なし	実施あり		点
14	診療・療養上の指示が通じる	はい	いいえ						点
15	危険行動	ない		ある					点
									B得点

C	手術等の医学的状況	0点	1点
16	開頭手術(13日間)	なし	あり
17	開胸手術(12日間)	なし	あり
18	開腹手術(7日間)	なし	あり
19	骨の手術(11日間)	なし	あり
20	胸腔鏡・腹腔鏡手術(5日間)	なし	あり
21	全身麻酔・脊椎麻酔の手術(5日間)	なし	あり
22	救命等に係る内科的治療(5日間) (①経皮的血管内治療、 ②経皮的筋焼灼術等の治療、 ③侵襲的な消化器治療)	なし	あり
23	別に定める検査(2日間)	なし	あり
24	別に定める手術(6日間)	なし	あり
		C得点	

注) 一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅰに係る評価にあたっては、「一般病棟用の重症度、医療・看護必要度に係る評価票 評価の手引き」に基づき、以下のとおり記載した点数について、A～Cそれぞれ合計する。  
・A(A7①から④まで及び⑥から⑨までを除く。)については、評価日において実施されたモニタリング及び処置等の点数を記載する。  
・A(A7①から④まで及び⑥から⑨までに限る。)及びCについては、評価日において、別紙1に規定するレセプト電算処理システム用コードのうち、A又はC項目に該当する項目の点数をそれぞれ記載する。  
・Bについては、評価日の「患者の状態」及び「介助の実施」に基づき判断した患者の状況等の点数を記載する。

一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅱに係る評価票

(配点)

A	モニタリング及び処置等	0点	1点	2点
1	創傷処置 (①創傷の処置(褥瘡の処置を除く)、 ②褥瘡の処置)	なし	あり	
2	呼吸ケア(喀痰吸引のみの場合を除く)	なし	あり	
3	点滴ライン同時3本以上の管理	なし	あり	
4	心電図モニターの管理	なし	あり	
5	シリンジポンプの管理	なし	あり	
6	輸血や血液製剤の管理	なし	あり	
7	専門的な治療・処置 (①抗悪性腫瘍剤の使用(注射剤のみ)、 ②抗悪性腫瘍剤の内服の管理、 ③麻薬の使用(注射剤のみ)、 ④麻薬の内服、貼付、坐剤の管理、 ⑤放射線治療、 ⑥免疫抑制剤の管理(注射剤のみ)、 ⑦昇圧剤の使用(注射剤のみ)、 ⑧抗不整脈剤の使用(注射剤のみ)、 ⑨抗血栓塞栓薬の持続点滴の使用、 ⑩ドレナージの管理、 ⑪無菌治療室での治療)	なし		あり
8	緊急に入院を必要とする状態(5日間)	なし		あり
				A得点

B	患者の状況等	患者の状態			×	介助の実施		×	評価
		0点	1点	2点		0	1		
9	寝返り	できる	何かにつかまれば できる	できない	×	<div></div>	<div></div>	×	点
10	移乗	自立	一部介助	全介助		実施なし	実施あり		点
11	口腔清潔	自立	要介助	<div></div>		実施なし	実施あり		点
12	食事摂取	自立	一部介助	全介助		実施なし	実施あり		点
13	衣服の着脱	自立	一部介助	全介助		実施なし	実施あり		点
14	診療・療養上の指示が通じる	はい	いいえ	<div></div>		<div></div>	<div></div>		点
15	危険行動	ない	<div></div>	ある		<div></div>	<div></div>		点
									B得点

C	手術等の医学的状況	0点	1点
16	開頭手術(13日間)	なし	あり
17	開胸手術(12日間)	なし	あり
18	開腹手術(7日間)	なし	あり
19	骨の手術(11日間)	なし	あり
20	胸腔鏡・腹腔鏡手術(5日間)	なし	あり
21	全身麻酔・脊椎麻酔の手術(5日間)	なし	あり
22	救命等に係る内科的治療(5日間) (①経皮的血管内治療、 ②経皮的心筋焼灼術等の治療、 ③侵襲的な消化器治療)	なし	あり
23	別に定める検査(2日間)	なし	あり
24	別に定める手術(6日間)	なし	あり
		C得点	

注) 一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅱに係る評価にあたっては、「一般病棟用の重症度、医療・看護必要度に係る評価票 評価の手引き」に基づき、以下のとおり記載した点数について、A～Cそれぞれ合計する。

- ・A及びCについては、評価日において、別表1に規定するレセプト電算処理システム用コードのうち、A又はC項目に該当する項目の合計点数をそれぞれ記載する。
- ・Bについては、評価日の「患者の状態」及び「介助の実施」に基づき判断した患者の状況等の点数を記載する。

<一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅰ>

アセスメント共通事項

1. 評価の対象

評価の対象は、急性期一般入院基本料（許可病床数400床以上の保険医療機関であつて急性期一般入院基本料（急性期一般入院料7を除く。）の届出を行っている場合を除く。）、7対1入院基本料（結核病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料（結核病棟に限る。）及び専門病院入院基本料）、10対1入院基本料（特定機能病院入院基本料（一般病棟に限る。）及び専門病院入院基本料）、地域一般入院料1、総合入院体制加算（一般病棟入院基本料、特定一般病棟入院料）、看護補助加算1（地域一般入院基本料、13対1入院基本料）、一般病棟看護必要度評価加算（専門病院入院基本料、特定一般病棟入院料）、脳卒中ケアユニット入院医療管理料並びに地域包括ケア病棟入院料（地域包括ケア入院医療管理料及び特定一般病棟入院料（地域包括ケア入院医療管理が行われる場合）を算定する場合も含む。以下「地域包括ケア病棟入院料等」という。）を届け出ている病棟に入院している患者であり、産科患者、15歳未満の小児患者、短期滞在手術等基本料を算定する患者及びDPC対象病院において短期滞在手術等基本料2又は3の対象となる手術、検査又は放射線治療を行った患者（基本診療料の施設基準等第十の三（3）及び四に係る要件以外の短期滞在手術等基本料に係る要件を満たす場合に限る。）は評価の対象としない。

2. 評価日及び評価項目

評価は、患者に行われたモニタリング及び処置等（A項目）、患者の状況等（B項目）並びに手術等の医学的状況（C項目）について、毎日評価を行うこと。

ただし、地域包括ケア病棟入院料等については、A項目及びC項目のみの評価とし、毎日評価を行うこと。

3. 評価対象時間

評価対象時間は、0時から24時の24時間であり、重複や空白時間を生じさせないこと。

外出・外泊や検査・手術等の理由により、全ての評価対象時間の観察を行うことができない患者の場合であっても、当該病棟に在棟していた時間があつた場合は、評価の対象とすること。ただし、評価対象日の0時から24時の間、外泊している患者は、当該外泊日については、評価対象とならない。

退院日は、当日の0時から退院時までを評価対象時間とする。退院日の評価は行うが、基準を満たす患者の算出にあたり延べ患者数には含めない。ただし、入院した日に退院（死亡退院を含む）した患者は、延べ患者数に含めるものとする。

4. 評価対象場所

原則として、当該病棟内を評価の対象場所とし、当該病棟以外で実施された治療、処置、看護及び観察については、評価の対象場所に含めない。ただし、A項目の専門的な治療・処置のうち、放射線治療及びC項目の手術等の医学的状況については、当該医療機関内における治療を評価の対象場所とする。

5. 評価対象の処置・介助等

当該病棟で実施しなければならない処置・介助等の実施者、又は医師の補助の実施者は、当該病棟に所属する看護職員でなければならない。ただし、一部の評価項目におい

て、薬剤師、理学療法士等が当該病棟内において実施することを評価する場合は、病棟所属の有無は問わない。

なお、A項目の評価において、医師が単独で処置等を行った後に、当該病棟の看護職員が当該処置等を確認し、実施記録を残す場合も評価に含めるものとする。

A項目の処置の評価においては、訓練や退院指導等の目的で実施する行為は評価の対象に含めないが、B項目の評価においては、患者の訓練を目的とした行為であっても評価の対象に含めるものとする。

A項目の薬剤の評価については、臨床試験であっても評価の対象に含めるものとする。

## 6. 評価者

評価は、院内研修を受けた者が行うこと。医師、薬剤師、理学療法士等が一部の項目の評価を行う場合も院内研修を受けること。

ただし、A項目及びC項目のうち、別表1に規定する「一般病棟用の重症度、医療・看護必要度A・C項目に係るレセプト電算処理システム用コード一覧」（以下、コード一覧という。）を用いて評価を行う項目については、当該評価者により各選択肢の判断を行う必要はない。

## 7. 評価の判断

評価の判断は、アセスメント共通事項、B項目共通事項及び項目ごとの選択肢の判断基準等に従って実施すること。独自に定めた判断基準により評価してはならない。

## 8. 評価の根拠

評価は、観察と記録に基づいて行い、推測は行わないこと。当日の実施記録が無い場合は評価できないため、A項目では「なし」、B項目では自立度の一番高い評価とする。A項目（A7「専門的な治療・処置等」の⑤、⑩及び⑪に限る。）の評価においては、後日、第三者が確認を行う際に、記録から同一の評価を導く根拠となる記録を残しておく必要があるが、項目ごとの記録を残す必要はない。

記録は、媒体の如何を問わず、当該医療機関において正式に承認を得て保管されているものであること。また、原則として医師及び当該病棟の看護職員による記録が評価の対象となるが、評価項目によっては、医師及び病棟の看護職員以外の職種の記録も評価の根拠となり得るため、記録方法について院内規定を設ける等、工夫すること。

なお、B項目については、「患者の状態」が評価の根拠となることから、重複する記録を残す必要はない。

## A モニタリング及び処置等

### 1 創傷処置

#### 項目の定義

創傷処置は、①創傷の処置（褥瘡の処置を除く）、②褥瘡の処置のいずれかの処置について、看護職員が医師の介助をした場合、あるいは医師又は看護職員が自ら処置を実施した場合に評価する項目である。

#### 選択肢の判断基準

「なし」  
創傷処置のいずれも実施しなかった場合をいう。  
「あり」  
創傷処置のいずれかを実施した場合をいう。

## 判断に際しての留意点

創傷処置に含まれる内容は、各定義及び留意点に基づいて判断すること。

### ① 創傷の処置（褥瘡の処置を除く）

#### 【定義】

創傷の処置（褥瘡の処置を除く）は、創傷があり、創傷についての処置を実施した場合に評価する項目である。

#### 【留意点】

ここでいう創傷とは、皮膚又は粘膜が破綻をきたした状態であり、その数、深さ、範囲の程度は問わない。

縫合創は創傷処置の対象に含めるが、縫合のない穿刺創は含めない。粘膜は、鼻、口腔、膣及び肛門の粘膜であって、外部から粘膜が破綻をきたしている状態であることが目視できる場合に限り含める。気管切開口、胃瘻及びストーマ等については、造設から抜糸までを含め、抜糸後は、滲出液が見られ処置を必要とする場合を含める。

ここでいう処置とは、創傷の治癒を促し感染を予防する目的で、洗浄、消毒、止血、薬剤の注入及び塗布、ガーゼやフィルム材等の創傷被覆材の貼付や交換等の処置を実施した場合をいい、診察、観察だけの場合やガーゼを剥がすだけの場合は含めない。

また、陰圧閉鎖療法、眼科手術後の点眼及び排泄物の処理に関するストーマ処置は含めない。

### ② 褥瘡の処置

#### 【定義】

褥瘡の処置は、褥瘡があり、褥瘡についての処置を実施した場合に評価する項目である。

#### 【留意点】

ここでいう褥瘡とは、NPUAP分類Ⅱ度以上又はDESIGN-R分類d2以上の状態をいう。この状態に達していないものは、褥瘡の処置の対象に含めない。

ここでいう処置とは、褥瘡に対して、洗浄、消毒、止血、薬剤の注入及び塗布、ガーゼやフィルム材等の創傷被覆材の貼付や交換等の処置を実施した場合をいい、診察、観察だけの場合やガーゼを剥がすだけの場合は含めない。また、陰圧閉鎖療法は含めない。

#### 【参考】

NPUAP分類（National Pressure Ulcer of Advisory Panel）Ⅱ度以上  
DESIGN-R分類（日本褥瘡学会によるもの）d2 以上

## 2 呼吸ケア（喀痰吸引のみの場合を除く）

### 項目の定義

呼吸ケアは、酸素吸入、痰を出すための体位ドレナージ、スクウィーピングのいずれかの処置に対して、看護職員等が自ら行うか医師の介助を行った場合、あるいは人工換気が必要な患者に対して、看護職員等が装着中の人工呼吸器の管理を行った場合に評価する項目である。

## 選択肢の判断基準

「なし」  
呼吸ケアを実施しなかった場合をいう。  
「あり」  
呼吸ケアを実施した場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

喀痰吸引のみの場合は呼吸ケアの対象に含めない。  
呼吸ケアにおける時間の長さや回数は問わない。酸素吸入の方法は問わない。  
人工呼吸器の種類や設定内容、あるいは気道確保の方法については問わないが、看護職員等が、患者の人工呼吸器の装着状態の確認、換気状況の確認、機器の作動確認等の管理を実施している必要がある。また、人工呼吸器の使用に関する医師の指示が必要である。  
NPPV（非侵襲的陽圧換気）の実施は人工呼吸器の使用に含める。  
なお、気管切開の患者が喀痰吸引を行っているだけの場合は含めない。また、エアウェイ挿入、ネブライザー吸入は呼吸ケアには含めない。

### 3 点滴ライン同時3本以上の管理 項目の定義

点滴ライン同時3本以上の管理は、持続的に点滴ライン（ボトル、バッグ、シリンジ等から末梢静脈、中心静脈、動静脈シャント、硬膜外、動脈、皮下に対する点滴、持続注入による薬液、輸血・血液製剤の流入経路）を3本以上同時に使用し、看護職員が管理を行った場合に評価する項目である。

#### 選択肢の判断基準

「なし」  
同時に3本以上の点滴の管理を実施しなかった場合をいう。  
「あり」  
同時に3本以上の点滴の管理を実施した場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

施行の回数や時間の長さ、注射針の刺入個所の数は問わない。  
2つのボトルを連結管で連結させて1つのルートで滴下した場合は、点滴ラインは1つとして数える。1カ所に刺入されていても三方活栓等のコネクターで接続された点滴ラインは本数に数える。これら点滴ラインを利用して、側管から持続的に点滴する場合は数えるが、手動で注射を実施した場合は、持続的に使用しているといえないため本数に数えない。  
スワングアンツカテーテルの加圧バッグについては、薬液の注入が目的ではないため本数に数えない。PCA（自己調節鎮痛法）による点滴ライン（携帯用を含む）は、看護職員が投与時間と投与量の両方の管理を行い、持続的に注入している場合のみ本数に数える。

### 4 心電図モニターの管理 項目の定義

心電図モニターの管理は、持続的に看護職員が心電図のモニタリングを実施した場合に評価する項目である。

#### 選択肢の判断基準

「なし」  
持続的な心電図のモニタリングを実施しなかった場合をいう。  
「あり」  
持続的な心電図のモニタリングを実施した場合をいう。



#### 判断に際しての留意点

心電図の誘導の種類や誘導法の種類は問わない。  
機器の設置・準備・後片付けは含めない。心電図モニターの装着時間や回数は問わないが、医師の指示により、心機能や呼吸機能障害を有する患者等に対して常時観察を行っている場合であって、看護職員による心電図の評価の記録が必要である。心電図の機器による自動的な記録のみの場合は心電図モニターの管理の対象に含めない。  
心電図検査として一時的に測定を行った場合は含めない。ホルター心電図は定義に従い、看護職員による持続的な評価の記録がある場合に限り含める。

### 5 シリンジポンプの管理

#### 項目の定義

シリンジポンプの管理は、末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して、静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたりシリンジポンプを使用し、看護職員が使用状況（投与時間、投与量等）を管理している場合に評価する項目である。

#### 選択肢の判断基準

「なし」  
末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたりシリンジポンプの管理をしなかった場合をいう。  
「あり」  
末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたりシリンジポンプの管理をした場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して、静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたりシリンジポンプにセットしていても、作動させていない場合には使用していないものとする。  
携帯用であってもシリンジポンプの管理の対象に含めるが、PCA（自己調節鎮痛法）によるシリンジポンプは、看護職員が投与時間と投与量の両方の管理を行い、持続的に注入している場合のみ含める。

### 6 輸血や血液製剤の管理

#### 項目の定義

輸血や血液製剤の管理は、輸血（全血、濃厚赤血球、新鮮凍結血漿等）や血液製剤（アルブミン製剤等）の投与について、血管を通して行った場合、その投与後の状況を看護職員が管理した場合に評価する項目である。

#### 選択肢の判断基準

「なし」  
輸血や血液製剤の使用状況の管理をしなかった場合をいう。  
「あり」  
輸血や血液製剤の使用状況の管理をした場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

輸血、血液製剤の種類及び単位数については問わないが、腹膜透析や血液透析は輸血や血液製剤の管理の対象に含めない。自己血輸血、腹水を濾過して輸血する場合は含める。

## 7 専門的な治療・処置

### 項目の定義

専門的な治療・処置は、①抗悪性腫瘍剤の使用（注射剤のみ）、②抗悪性腫瘍剤の内服の管理、③麻薬の使用（注射剤のみ）、④麻薬の内服、貼付、坐剤の管理、⑤放射線治療、⑥免疫抑制剤の管理（注射剤のみ）、⑦昇圧剤の使用（注射剤のみ）、⑧抗不整脈剤の使用（注射剤のみ）、⑨抗血栓塞栓薬の持続点滴の使用、⑩ドレナージの管理、⑪無菌治療室での治療のいずれかの治療・処置を実施した場合に評価する項目である。

### 選択肢の判断基準

「なし」

専門的な治療・処置を実施しなかった場合をいう。

「あり」

専門的な治療・処置を一つ以上実施した場合をいう。ただし、①から④まで及び⑥から⑨までについては、評価日において、コード一覧に掲載されているコードが入力されている場合をいう。

### 判断に際しての注意点

専門的な治療・処置に含まれる内容は、各定義及び留意点に基づいて判断すること。

なお、①から④まで及び⑥から⑨までについては、内服薬のコードが入力されていない日に当該コードに該当する内服を指示した場合や、事前に処方や指示を行っており内服当日には当該コードが入力されていない場合等は、評価の対象とはならない。手術や麻酔中に用いた薬剤は評価の対象となる。また、検査や処置等、その他の目的で用いた薬剤については、E F 統合ファイルにおけるデータ区分コードが20番台（投薬）、30番台（注射）、50番（手術）及び54番（麻酔）の薬剤に限り、評価の対象となる。

#### ① 抗悪性腫瘍剤の使用（注射剤のみ）

##### 【留意点】

コード一覧を参照のこと。

#### ② 抗悪性腫瘍剤の内服の管理

##### 【留意点】

コード一覧を参照のこと。

#### ③ 麻薬の使用（注射剤のみ）

##### 【留意点】

コード一覧を参照のこと。

#### ④ 麻薬の内服、貼付、坐剤の管理

##### 【留意点】

コード一覧を参照のこと。

#### ⑤ 放射線治療

##### 【定義】

放射線治療は、固形腫瘍又は血液系腫瘍を含む悪性腫瘍がある患者に対して、病変部にX線、ガンマ線、電子線等の放射線を照射し、そのDNA分子間の結合破壊(電離作用)により目標病巣を死滅させることを目的として実施した場合に評価する項目である。

##### 【留意点】

照射方法は、外部照射と内部照射（腔内照射、小線源治療）を問わない。放射線治療の対象には、エックス線表在治療、高エネルギー放射線治療、ガンマナイフ、直線加速器（リニアック）による定位放射線治療、全身照射、密封小線源治療、放射性同位元素内用療法を放射線治療の対象に含める。

外部照射の場合は照射日のみを含めるが、外部照射の場合であっても、院外での実施は含めない。

外部照射か内部照射かは問わず、継続して内部照射を行なっている場合は、治療期間を通して評価の対象に含める。

放射線治療の実施が当該医療機関内であれば評価の対象場所に含める。

#### ⑥ 免疫抑制剤の管理（注射剤のみ）

##### 【留意点】

コード一覧を参照のこと。

#### ⑦ 昇圧剤の使用（注射剤のみ）

##### 【留意点】

コード一覧を参照のこと。

#### ⑧ 抗不整脈剤の使用（注射剤のみ）

##### 【留意点】

コード一覧を参照のこと。

#### ⑨ 抗血栓塞栓薬の持続点滴の使用

##### 【留意点】

コード一覧を参照のこと。

#### ⑩ ドレナージの管理

##### 【定義】

ドレナージの管理とは、排液、減圧の目的として、患者の創部や体腔に誘導管（ドレーン）を継続的に留置し、滲出液や血液等を直接的に体外に誘導し、排液バッグ等に貯留する状況を看護職員が管理した場合に評価する項目である。

##### 【留意点】

誘導管は、当日の評価対象時間の間、継続的に留置されている場合にドレナージの管理の対象に含める。当日に設置して且つ抜去した場合は含めないが、誘導管を設置した日であって翌日も留置している場合、又は抜去した日であって前日も留置している場合は、当日に6時間以上留置されていた場合には含める。

胃瘻（PEG）を減圧目的で開放する場合であっても定義に従っていれば含める。

体外へ直接誘導する場合のみ評価し、体内で側副路を通す場合は含めない。また、腹膜透析や血液透析は含めない。経尿道的な膀胱留置カテーテルは含めないが、血尿がある場合は、血尿の状況を管理する場合に限り評価できる。陰圧閉鎖療法は、創部に誘導管（パッドが連結されている場合を含む）を留置して、定義に従った処置をしている場合は含める。

定義に基づき誘導管が目的に従って継続的に留置されている場合に含めるものであるが、抜去や移動等の目的で、一時的であればクランプしていても良いものとする。

#### ⑪ 無菌治療室での治療

##### 【定義】

無菌治療室での治療とは、移植後、白血病、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、重症複合型免疫不全症等の患者に対して、無菌治療室での治療が必要であると医師が判断し、無菌治療室での治療を6時間以上行った場合に評価する項目である。

### 【留意点】

無菌治療室とは、室内を無菌の状態に保つために十分な体制が整備されている必要があり、当該保険医療機関において自家発電装置を有していることと、滅菌水の供給が常時可能であること。また、個室であって、室内の空気清浄度が、患者に対し無菌治療室管理を行っている際に、常時ISOクラス7以上であること。

無菌治療室に入室した日及び無菌治療室を退室した日は評価の対象とする。

## 8. 救急搬送後の入院

### 項目の定義

救急搬送後の入院は、救急用の自動車（市町村又は都道府県の救急業務を行うための救急隊の救急自動車に限る）又は救急医療用ヘリコプターにより当該医療機関に搬送され、入院した場合に評価する項目である。

### 選択肢の判断基準

「なし」

救急用の自動車又は救急医療用ヘリコプター以外により搬送され入院した場合をいう。

「あり」

救急用の自動車又は救急医療用ヘリコプターにより搬送され入院した場合をいう。

### 判断に際しての留意点

救急搬送後の患者が、直接、評価対象病棟に入院した場合のみを評価の対象とし、救命救急病棟、ICU等の治療室に一旦入院した場合は評価の対象に含めない。ただし、手術室を経由して評価対象病棟に入院した場合は評価の対象に含める。

入院当日を含めた5日間を評価の対象とする。

## B 患者の状況等

### B項目共通事項

1. 義手・義足・コルセット等の装具を使用している場合には、装具を装着した後の状態に基づいて評価を行う。
2. 評価時間帯のうちに状態が変わり、異なる状態の記録が存在する場合には、自立度の低い方の状態をもとに評価を行うこと。
3. 当該動作が制限されていない場合には、可能であれば動作を促し、観察した結果をもとに「患者の状態」を評価すること。動作の確認をできなかった場合には、通常、介助が必要な状態であっても「できる」又は「自立」とする。
4. 医師の指示によって、当該動作が制限されていることが明確である場合には、各選択肢の留意点を参考に評価する。この場合、医師の指示に係る記録があること。ただし、動作が禁止されているにもかかわらず、患者が無断で当該動作を行ってしまった場合には「できる」又は「自立」とする。
5. B10「移乗」、B11「口腔清潔」、B12「食事摂取」、B13「衣服の着脱」については、「患者の状態」と「介助の実施」とを乗じた点数とすること。

## 9 寝返り

### 項目の定義

寝返りが自分でできるかどうか、あるいはベッド柵、ひも、バー、サイドレール等の何かにつかまればできるかどうかを評価する項目である。

ここでいう『寝返り』とは、仰臥位から（左右どちらかの）側臥位になる動作であ

る。

#### 選択肢の判断基準

「できる」  
何にもつかまらず、寝返り（片側だけでよい）が1人でできる場合をいう。  
「何かにつかまればできる」  
ベッド柵、ひも、バー、サイドレール等の何かにつかまれば1人で寝返りができる場合をいう。  
「できない」  
介助なしでは1人で寝返りができない等、寝返りに何らかの介助が必要な場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

「何かにつかまればできる」状態とは、看護職員等が事前に環境を整えておくことによって患者自身が1人で寝返りができる状態であり、寝返りの際に、ベッド柵に患者の手をつかまらせる等の介助を看護職員等が行っている場合は「できない」となる。  
医師の指示により、自力での寝返りを制限されている場合は「できない」とする。

### 10 移乗 項目の定義

移乗時の介助の必要の有無と、介助の実施状況を評価する項目である。  
ここでいう『移乗』とは、「ベッドから車椅子へ」、「ベッドからストレッチャーへ」、「車椅子からポータブルトイレへ」等、乗り移ることである。

#### 選択肢の判断基準

（患者の状態）  
「自立」  
介助なしで移乗できる場合をいう。這って動いても、移乗が1人でできる場合も含む。  
「一部介助」  
患者の心身の状態等の理由から、事故等がないように見守る必要がある場合、あるいは1人では移乗ができないため他者が手を添える、体幹を支える等の一部介助が必要な場合をいう。  
「全介助」  
1人では移乗が全くできないために、他者が抱える、運ぶ等の全面的に介助が必要な場合をいう。  
（介助の実施）  
「実施なし」  
評価日に看護職員等が介助を行わなかった場合をいう。  
「実施あり」  
評価日に看護職員等が介助を行った場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

患者が1人では動けず、スライド式の移乗用補助具の使用が必要な場合は「全介助」となる。  
車椅子等への移乗の際に、立つ、向きを変える、数歩動く等に対して、患者自身も行うことができる（力が出せる）場合は「一部介助」となる。  
医師の指示により、自力での移乗を制限されている場合は「全介助」とする。また、介助による移乗も制限されている場合は、「全介助」かつ「実施なし」とする。

### 11 口腔清潔

## 項目の定義

口腔内を清潔にするための一連の行為が1人でできるかどうか、1人でできない場合に看護職員等が見守りや介助を実施したかどうかを評価する項目である。

一連の行為とは、歯ブラシやうがい用の水等を用意する、歯磨き粉を歯ブラシにつける等の準備、歯磨き中の見守りや指示、磨き残しの確認等も含む。

口腔清潔に際して、車椅子に移乗する、洗面所まで移動する等の行為は、口腔清潔に関する一連の行為には含まれない。

## 選択肢の判断基準

(患者の状態)

「自立」

口腔清潔に関する一連の行為すべてが1人でできる場合をいう。

「要介助」

口腔清潔に関する一連の行為のうち部分的、あるいはすべてに介助が必要な場合をいう。患者の心身の状態等の理由から見守りや指示が必要な場合も含まれる。

(介助の実施)

「実施なし」

評価日に看護職員等が介助を行わなかった場合をいう。

「実施あり」

評価日に看護職員等が介助を行った場合をいう。

## 判断に際しての留意点

口腔内の清潔には、『歯磨き、うがい、口腔内清拭、舌のケア等の介助から義歯の手入れ、挿管中の吸引による口腔洗浄、ポピドンヨード剤等の薬剤による洗浄』も含まれる。舌や口腔内の硼砂グリセリンの塗布、口腔内吸引のみは口腔内清潔に含まない。

また、歯がない場合は、うがいや義歯の清潔等、口腔内の清潔に関する類似の行為が行われているかどうかに基づいて判断する。

医師の指示により、自力での口腔清潔が制限されている場合は「要介助」とする。また、介助による口腔清潔も制限されている場合は、「要介助」かつ「実施なし」とする。

## 1.2 食事摂取

### 項目の定義

食事介助の必要の有無と、介助の実施状況の評価する項目である。

ここでいう食事摂取とは、経口栄養、経管栄養を含み、朝食、昼食、夕食、補食等、個々の食事単位で評価を行う。中心静脈栄養は含まれない。

食事摂取の介助は、患者が食事を摂るための介助、患者に応じた食事環境を整える食卓上の介助をいう。厨房での調理、配膳、後片付け、食べこぼしの掃除、車椅子への移乗の介助、エプロンをかける等は含まれない。

## 選択肢の判断基準

(患者の状態)

「自立」

介助・見守りなしに1人で食事が摂取できる場合をいう。また、箸やスプーンのほかに、自助具等を使用する場合も含まれる。

「一部介助」

必要に応じて、食事摂取の行為の一部に介助が必要な場合をいう。また、食卓で食べやすいように配慮する行為（小さく切る、ほぐす、皮をむく、魚の骨をとる、蓋をはずす等）が必要な場合をいう。患者の心身の状態等の理由から見守りや指示が必要な場合も含まれる。

「全介助」

1人では全く食べることができず全面的に介助が必要な場合をいい、食事開始から終了までにすべてに介助を要する場合は「全介助」とする。

(介助の実施)

「実施なし」

評価日に看護職員等が介助を行わなかった場合をいう。

「実施あり」

評価日に看護職員等が介助を行った場合をいう。

判断に際しての留意点

食事の種類は問わず、一般（普通）食、プリン等の経口訓練食、水分補給食、経管栄養すべてをさし、摂取量は問わない。経管栄養の評価も、全面的に看護職員等が行う必要がある場合は「全介助」となり、患者が自立して1人で行うことができる場合は「自立」となる。ただし、経口栄養と経管栄養のいずれも行っている場合は、「自立度の低い方」で評価する。

家族が行った行為、食欲の観察は含めない。また、看護職員等が、パンの袋切り、食事の温め、果物の皮むき、卵の殻むき等を行う必要がある場合は「一部介助」とする。

。医師の指示により、食止めや絶食となっている場合は、「全介助」かつ「実施なし」とする。セッティングしても患者が食事摂取を拒否した場合は「実施なし」とする。

1.3 衣服の着脱

項目の定義

衣服の着脱について、介助の必要の有無と、介助の実施状況の評価する項目である。衣服とは、患者が日常生活上必要とし着用しているものをいう。パジャマの上衣、ズボン、寝衣、パンツ、オムツ等を含む。

選択肢の判断基準

(患者の状態)

「自立」

介助なしに1人で衣服を着たり脱いだりすることができる場合をいう。

自助具等を使って行うことができる場合も含む。

「一部介助」

衣服の着脱に一部介助が必要な場合をいう。例えば、途中までは自分で行っているが、最後に看護職員等がズボン・パンツ等を上げる必要がある場合等は、「一部介助」に含む。看護職員等が手を出して介助する必要はないが、患者の心身の状態等の理由から、転倒の防止等のために、見守りや指示を行う必要がある場合等も「一部介助」とする。

「全介助」

衣服の着脱の行為すべてに介助が必要な場合をいう。患者自身が、介助を容易にするために腕を上げる、足を上げる、腰を上げる等の行為を行うことができても、着脱行為そのものを患者が行うことができず、看護職員等がすべて介助する必要がある場合も「全介助」とする。

(介助の実施)

「実施なし」

評価日に看護職員等が介助を行わなかった場合をいう。

「実施あり」

評価日に看護職員等が介助を行った場合をいう。

判断に際しての留意点

衣服の着脱に要する時間の長さは判断には関係しない。

通常は自分で衣服の着脱をしているが、点滴が入っているために介助を要している場合は、その介助の状況で評価する。  
靴や帽子は、衣服の着脱の評価に含めない。

#### 1 4 診療・療養上の指示が通じる 項目の定義

指示内容や背景疾患は問わず、診療・療養上の指示に対して、指示通りに実行できるかどうかを評価する項目である。

##### 選択肢の判断基準

「はい」  
診療・療養上の指示に対して、指示通りの行動が常に行われている場合をいう。  
「いいえ」  
診療・療養上の指示に対して、指示通りでない行動が1回でもみられた場合をいう。

##### 判断に際しての留意点

精神科領域、意識障害等の有無等、背景疾患は問わない。指示の内容は問わないが、あくまでも診療・療養上で必要な指示であり、評価日当日の指示であること、及びその指示が適切に行われた状態で評価することを前提とする。  
医師や看護職員等の話を理解したように見えても、意識障害等により指示を理解できない場合や自分なりの解釈を行い結果的に、診療・療養上の指示から外れた行動をした場合は「いいえ」とする。

#### 1 5 危険行動 項目の定義

患者の危険行動の有無を評価する項目である。  
ここでいう「危険行動」は、「治療・検査中のチューブ類・点滴ルート等の自己抜去、転倒・転落、自傷行為」の発生又は「そのまま放置すれば危険行動に至ると判断する行動」を過去1週間以内の評価対象期間に看護職員等が確認した場合をいう。

##### 選択肢の判断基準

「ない」  
過去1週間以内に危険行動がなかった場合をいう。  
「ある」  
過去1週間以内に危険行動があった場合をいう。

##### 判断に際しての留意点

危険行動の評価にあたっては、適時のアセスメントと適切な対応、並びに日々の危険行動への対策を前提としている。この項目は、その上で、なお発生が予測できなかった危険行動の事実とその対応の手間を評価する項目であり、対策をもたない状況下で発生している危険行動を評価するものではない。対策がもたれている状況下で発生した危険行動が確認でき、評価当日にも当該対策がもたれている場合に評価の対象に含める。  
認知症等の有無や、日常生活動作能力の低下等の危険行動を起こす疾患・原因等の背景や、行動の持続時間等の程度を判断の基準としない。なお、病室での喫煙や大声を出す・暴力を振るう等の、いわゆる迷惑行為は、この項目での定義における「危険行動」には含めない。  
他施設からの転院、他病棟からの転棟の際は、看護職員等が記載した記録物により評価対象期間内の「危険行動」が確認できる場合は、評価の対象に含める。



## C 手術等の医学的状況

### C 項目共通事項

1. コード一覧に掲載されているコードについて、評価日における入力の有無及び当該コードに係る手術等の実施当日からの日数によって判断すること。
2. 各選択肢の判断基準に示された手術等の実施当日からの日数については、実施当日を含む日数であること。

#### 1 6 開頭手術 選択肢の判断基準

評価日においてコード一覧に掲載されているコードが入力されている場合又は当該コードに係る手術の実施当日から 13 日間の場合、「あり」とする。

#### 1 7 開胸手術 選択肢の判断基準

評価日においてコード一覧に掲載されているコードが入力されている場合又は当該コードに係る手術の実施当日から 12 日間の場合、「あり」とする。

#### 1 8 開腹手術 選択肢の判断基準

評価日においてコード一覧に掲載されているコードが入力されている場合又は当該コードに係る手術の実施当日から 7 日間の場合、「あり」とする。

#### 1 9 骨の手術 選択肢の判断基準

評価日においてコード一覧に掲載されているコードが入力されている場合又は当該コードに係る手術の実施当日から 11 日間の場合、「あり」とする。

#### 2 0 胸腔鏡・腹腔鏡手術 選択肢の判断基準

評価日においてコード一覧に掲載されているコードが入力されている場合又は当該コードに係る手術の実施当日から 5 日間の場合、「あり」とする。

#### 2 1 全身麻酔・脊椎麻酔の手術 選択肢の判断基準

評価日においてコード一覧に掲載されているコードが入力されている場合又は当該コードに係る手術の実施当日から 5 日間の場合、「あり」とする。

#### 2 2 救命等に係る内科的治療 選択肢の判断基準

①から③の各項目について、評価日においてコード一覧に掲載されているコードが入力されている場合又は当該コードに係る治療の実施当日から 5 日間の場合、「あり」とする。

#### 2 3 別に定める検査 選択肢の判断基準

評価日においてコード一覧に掲載されているコードが入力されている場合又は当該コードに係る検査の実施当日から2日間の場合、「あり」とする。

## 2.4 別に定める手術

### 選択肢の判断基準

評価日においてコード一覧に掲載されているコードが入力されている場合又は当該コードに係る手術の実施当日から6日間の場合、「あり」とする。

## <一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅱ>

### アセスメント共通事項

#### 1. 評価の対象

評価の対象は、急性期一般入院基本料、7対1入院基本料（結核病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料（一般病棟、結核病棟に限る。）及び専門病院入院基本料）、10対1入院基本料（特定機能病院入院基本料（一般病棟に限る。）及び専門病院入院基本料）、地域一般入院料1、総合入院体制加算（一般病棟入院基本料、特定一般病棟入院料）、看護補助加算1（地域一般入院基本料、13対1入院基本料）、一般病棟看護必要度評価加算（専門病院入院基本料、特定一般病棟入院料）、脳卒中ケアユニット入院医療管理料並びに地域包括ケア病棟入院料（地域包括ケア入院医療管理料及び特定一般病棟入院料（地域包括ケア入院医療管理が行われる場合）を算定する場合も含む。以下「地域包括ケア病棟入院料等」という。）を届け出ている病棟に入院している患者であり、産科患者、15歳未満の小児患者、短期滞在手術等基本料を算定する患者及びDPC対象病院において短期滞在手術等基本料2又は3の対象となる手術、検査又は放射線治療を行った患者（基本診療料の施設基準等第十の三（3）及び四に係る要件以外の短期滞在手術等基本料に係る要件を満たす場合に限る。）は評価の対象としない。また、歯科の入院患者（同一入院中に医科の診療も行う期間については除く。）についても評価の対象としない。

#### 2. 評価日及び評価項目

一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅰ（以下「必要度Ⅰ」という。）における記載内容を参照のこと。

#### 3. 評価対象時間

必要度Ⅰにおける記載内容を参照のこと。

#### 4. 評価対象場所

必要度Ⅰにおける記載内容を参照のこと。

#### 5. 評価者

B項目の評価は、院内研修を受けた者が行うこと。医師、薬剤師、理学療法士等が一部の項目の評価を行う場合も院内研修を受けること。

#### 6. 評価の判断

評価の判断は、アセスメント共通事項、A・B・Cの各項目の共通事項及び項目ごとの選択肢の判断基準等に従って実施すること。独自に定めた判断基準により評価してはならない。

#### A モニタリング及び処置等

1. 評価日において、各選択肢のコード一覧に掲載されているコードが入力されている場合を「あり」とする。ただし、A 8「緊急に入院を必要とする状態」については、評価日においてコード一覧に掲載されているコードが入力されている場合に、入院当日を含めた5日間を「あり」とする。なお、地域包括ケア病棟入院料及び地域包括ケア入院医療管理料においては、当該コードを評価対象に含めない。
2. 内服薬のコードが入力されていない日に当該コードに該当する内服を指示した場合や、事前に処方や指示を行っており内服当日には当該コードが入力されていない場合等は、評価の対象とはならない。
3. 手術や麻酔中に用いた薬剤は評価の対象となる。また、検査や処置等、その他の目的で用いた薬剤については、E F 統合ファイルにおけるデータ区分コードが 20 番台（投薬）、30 番台（注射）、50 番（手術）及び 54 番（麻酔）の薬剤に限り、評価の対象となる。
4. 臨床試験で用いた薬剤は評価の対象となる。
5. A 3「点滴ライン同時3本以上の管理」及びA 6「輸血や血液製剤の管理」で共通するコードが入力されている場合には、それぞれの選択肢において評価の対象としてよい。

#### B 患者の状況等

必要度 I における記載内容を参照のこと。

#### C 手術等の医学的状況

必要度 I における記載内容を参照のこと。

一般病棟用の重症度、医療・看護必要度A・C項目に係るレセプト電算処理システム用コード一覧

	重症度、医療・看護必要度の項目	レポート電算処理システム用コード	診療行為名称	
A 1 創傷処置（①創傷の処置（褥瘡の処置を除く））		140000610	創傷処置（1 0 0 c m 2 未満）	
		140000710	創傷処置（1 0 0 c m 2 以上 5 0 0 c m 2 未満）	
		140000810	創傷処置（5 0 0 c m 2 以上 3 0 0 0 c m 2 未満）	
		140000910	創傷処置（3 0 0 0 c m 2 以上 6 0 0 0 c m 2 未満）	
		140001010	創傷処置（6 0 0 0 c m 2 以上）	
		140032010	熱傷処置（1 0 0 c m 2 未満）	
		140032110	熱傷処置（1 0 0 c m 2 以上 5 0 0 c m 2 未満）	
		140032210	熱傷処置（5 0 0 c m 2 以上 3 0 0 0 c m 2 未満）	
		140036510	熱傷処置（3 0 0 0 c m 2 以上 6 0 0 0 c m 2 未満）	
		140036610	熱傷処置（6 0 0 0 c m 2 以上）	
		140034830	電撃傷処置（1 0 0 c m 2 未満）	
		140034930	電撃傷処置（1 0 0 c m 2 以上 5 0 0 c m 2 未満）	
		140035030	電撃傷処置（5 0 0 c m 2 以上 3 0 0 0 c m 2 未満）	
		140035130	電撃傷処置（3 0 0 0 c m 2 以上 6 0 0 0 c m 2 未満）	
		140035230	電撃傷処置（6 0 0 0 c m 2 以上）	
		140035430	凍傷処置（1 0 0 c m 2 未満）	
		140035530	凍傷処置（1 0 0 c m 2 以上 5 0 0 c m 2 未満）	
		140035630	凍傷処置（5 0 0 c m 2 以上 3 0 0 0 c m 2 未満）	
		140035730	凍傷処置（3 0 0 0 c m 2 以上 6 0 0 0 c m 2 未満）	
		140035830	凍傷処置（6 0 0 0 c m 2 以上）	
		140036030	凍傷処置（1 0 0 c m 2 未満）	
		140036130	凍傷処置（1 0 0 c m 2 以上 5 0 0 c m 2 未満）	
		140036230	凍傷処置（5 0 0 c m 2 以上 3 0 0 0 c m 2 未満）	
		140036330	凍傷処置（3 0 0 0 c m 2 以上 6 0 0 0 c m 2 未満）	
		140036430	凍傷処置（6 0 0 0 c m 2 以上）	
	A 1 創傷処置（②褥瘡の処置）		140048610	重度褥瘡処置（1 0 0 c m 2 未満）
			140048710	重度褥瘡処置（1 0 0 c m 2 以上 5 0 0 c m 2 未満）
	A 2 呼吸ケア（喀痰吸引のみの場合を除く）		140048810	重度褥瘡処置（5 0 0 c m 2 以上 3 0 0 0 c m 2 未満）
			140048910	重度褥瘡処置（3 0 0 0 c m 2 以上 6 0 0 0 c m 2 未満）
	A 3 点滴ライン同時3本以上の管理		140049010	重度褥瘡処置（6 0 0 0 c m 2 以上）
			140700110	長期療養患者褥瘡等処置
			140005610	酸素吸入
			140005750	気管気管嚥にに対する酸素療法
		140005810	酸素 Tent	
		140005910	閉鎖的陽圧吸入療法	
		140037810	鼻マスク補助簡易気	
		140006050	体外式陰圧人工呼吸器治療	
		140057410	ハイフローセラピー（1 5 歳以上）	
		140009310	人工呼吸	
		140023510	人工呼吸（5 時間組）	
		140039850	閉鎖循環式麻酔器使用気管内挿管下酸素吸入	
		140039950	閉鎖循環式麻酔器使用気管内挿管下酸素吸入（5 時間組）	
		140004450	無水アルコール吸入療法	
		140023650	無水アルコール吸入療法（5 時間組）	
		140009550	人工呼吸（閉鎖循環式麻酔装置）	
		140023750	人工呼吸（閉鎖循環式麻酔装置）（5 時間組）	
		140009650	酸素吸入（マイクログラフター）	
		140023850	酸素吸入（マイクログラフター）（5 時間組）	
		140009950	酸素加圧（気管内挿管下に閉鎖循環式麻酔器）	
		140024150	酸素加圧（気管内挿管下に閉鎖循環式麻酔器）（5 時間組）	
		140009750	人工呼吸（半閉鎖式循環麻酔器）	
		140023950	人工呼吸（半閉鎖式循環麻酔器）（5 時間組）	
		140039550	人工呼吸（鼻マスク人工呼吸器）	
		140039650	人工呼吸（鼻マスク人工呼吸器）（5 時間組）	
		140009850	レスピトール療法	
		140024050	レスピトール療法（5 時間組）	
A 4 心電図モニターの管理			130004410	中心静脈注射
			130010670	血管カテーテル加算（中心静脈注射）
			150247310	硬膜外麻酔後における局所麻酔剤の持続的注入
			150252570	持続的持続的注入加算（硬膜外麻酔後における局所麻酔剤の持続的注入）
			150224810	自己採血輸血（1 回目）
			150289210	自家採血輸血（2 回目以降）
		150224910	保存血液輸血（1 回目）	
		150286310	保存血液輸血（2 回目以降）	
		150327510	自己血貯血（6 歳以下）（液状保存）	
		150327610	自己血貯血（6 歳以上）（凍結保存）	
		150247010	自己血輸血（6 歳以下）（液状保存）	
		150254910	自己血輸血（6 歳以上）（凍結保存）	
		150309610	希釈式自己血輸血（6 歳以上）	
		150225010	交換輸血	
		150225210	骨髄内輸血加算（その他）	
		150225110	骨髄内輸血加算（褥瘡）	
		150366370	血管露出術加算	
		150225310	血液透析加（A B O 式及び R h 式）	
		150225410	不規則抗体加算	
		150247110	H L A 管検査クラス 1 加算（A、B、C）	
		150278910	H L A 型検査クラス 2 加算（D R、D Q、D P）	
		150225510	血液交叉試験加算	
		150225610	閉鎖式カテーテル加算	
		150404970	コンピュータクロスマッチ加算	
		150366470	血小板洗浄加算	
		150225890	自家製した血液成分製剤を用いた注射の手法料（1 回目）	
		150287480	自家製した血液成分製剤を用いた注射の手法料（2 回目以降）	
	A 5 シリンジポンプの管理		160073510	呼吸心拍監視
			160102510	呼吸心拍監視（3 時間組）（7 日以内）
			160165510	呼吸心拍監視（7 日超 1 4 日以内）
			160165610	呼吸心拍監視（1 4 日組）
			160073750	カルジオスコープ（ハートスコープ）
			160102750	カルジオスコープ（ハートスコープ・3 時間組）（7 日以内）
		160165950	カルジオスコープ（ハートスコープ）（7 日超 1 4 日以内）	
		160166050	カルジオスコープ（ハートスコープ）（1 4 日組）	
		160073850	カルジオタコスコープ	
		160102850	カルジオタコスコープ（3 時間組）（7 日以内）	
		160166150	カルジオタコスコープ（7 日超 1 4 日以内）	
		160166250	カルジオタコスコープ（1 4 日組）	
A 6 輸血や血液製剤の管理			130000210	精製持続点滴注射加算
			620004744	人全血液－L R（自赤）
			620004745	人全血液－L R（自赤）
			620004679	照射人全血液－L R（自赤）
			620004680	照射人全血液－L R（自赤）
			621609201	濃厚血小板－L R（自赤）
			621609301	濃厚血小板－L R（自赤）
			621609401	濃厚血小板－L R（自赤）
			621609501	濃厚血小板－L R（自赤）
			621609601	濃厚血小板－L R（自赤）
			621609701	濃厚血小板－L R（自赤）
			622191301	合成血液－L R（自赤）
			622191401	合成血液－L R（自赤）
			622191101	解凍赤血球液－L R（自赤）
			622191201	解凍赤血球液－L R（自赤）
			621772801	赤血球液－L R（自赤）
			621772901	赤血球液－L R（自赤）
			621772601	新鮮凍結血漿－L R（自赤）1 2 0
			621772701	新鮮凍結血漿－L R（自赤）2 4 0
			622192101	新鮮凍結血漿－L R（自赤）4 8 0
			622190901	洗浄赤血球液－L R（自赤）
		622191001	洗浄赤血球液－L R（自赤）	
		621609801	濃厚血小板 H L A－L R（自赤）	
		621609901	濃厚血小板 H L A－L R（自赤）	
		621610001	濃厚血小板 H L A－L R（自赤）	
		621772001	照射赤血球液－L R（自赤）	
		621772101	照射赤血球液－L R（自赤）	
		621602201	照射濃厚血小板－L R（自赤）	
		621602301	照射濃厚血小板－L R（自赤）	
		621602401	照射濃厚血小板－L R（自赤）	
		621602501	照射濃厚血小板－L R（自赤）	
		621602601	照射濃厚血小板－L R（自赤）	
		621602701	照射濃厚血小板－L R（自赤）	
	621602801	照射濃厚血小板 H L A－L R（自赤）		
	621602901	照射濃厚血小板 H L A－L R（自赤）		
	621603001	照射濃厚血小板 H L A－L R（自赤）		
	622191701	照射解凍赤血球液－L R（自赤）		
	622191801	照射解凍赤血球液－L R（自赤）		
	622191901	照射合成血液－L R（自赤）		
	622192001	照射合成血液－L R（自赤）		
	622191501	照射洗浄赤血球液－L R（自赤）		
	622191601	照射洗浄赤血球液－L R（自赤）		
	622487001	照射洗浄血小板－L R（自赤）		
	622487101	照射洗浄血小板 H L A－L R（自赤）		
	621151301	献血ベニロン－I 静注用 5 0 0 m g		
	621151601	献血ベニロン－I 静注用 1 0 0 0 m g		
	621151701	献血ベニロン－I 静注用 2 5 0 0 m g		
	621449901	献血ベニロン－I 静注用 5 0 0 0 m g		
	621152901	献血クロベニン－I 静注用 5 0 0 m g		
	621153301	献血クロベニン－I 静注用 2 5 0 0 m g		
	621450001	献血クロベニン－I 静注用 5 0 0 0 m g		
	646340035	抗 H B s 人免疫グロブリン		
	621153508	抗 H B s 人免疫グロブリン稀注 1 0 0 0 単位／5 m L「J B」		
	646340065	抗 H B s 人免疫グロブリン		
	621153607	抗 H B s 人免疫グロブリン稀注 2 0 0 単位／1 m L「J B」		
	646340492	乾燥濃縮人血液凝固剤調剤		
	621153804	コンファクト F 注射用 2 5 0		
	621153808	クロスエイト M C 静注用 2 5 0 単位		
	646340493	乾燥濃縮人血液凝固剤調剤		
	6463401015	コンコレント－II 片		
	621153904	コンファクト F 注射用 5 0 0		
	621153909	クロスエイト M C 静注用 5 0 0 単位		
	646340494	乾燥濃縮人血液凝固剤調剤		
	646340495	乾燥濃縮人血液凝固剤調剤		
	621154003	コンファクト F 注射用 1 0 0 0		
	621154006	クロスエイト M C 静注用 1 0 0 0 単位		
	622453900	乾燥濃縮人血液凝固剤調剤		

重症度、医療・看護必要度の項目	レセプト収算処理システム用コード	診療行為名称
	6224549601	クロスエイトMC静注用2000単位
	646340510	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン
	621154101	抗Dグロブリン筋注用1000倍「ニチヤク」
	621154105	抗D人免疫グロブリン筋注用1000倍「J.B」
	646340451	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン
	621154207	デタノプリン筋注用250単位
	621154201	破傷風グロブリン筋注用250単位「ニチヤク」
	646340500	乾燥人血液凝固第IX因子複合体
	621154301	PPSB-HIT静注用200単位「ニチヤク」
	646340501	乾燥人血液凝固第IX因子複合体
	646340502	乾燥人血液凝固第IX因子複合体
	621154501	PPSB-HIT静注用200単位「ニチヤク」
	646340503	乾燥人血液凝固第IX因子複合体
	621356303	献血アルブミン5%静注5g/100mL「J.B」
	620009135	アルブミン5%静注12.5g/250mL
	621755301	献血アルブミン5%静注12.5g/250mL「ニチヤク」
	621755403	献血アルブミン5%静注12.5g/250mL「J.B」
	621155501	献血アルブミン20%静注4g/20mL「ニチヤク」
	621155202	献血アルブミン20%静注4g/20mL「J.B」
	621155307	献血アルブミン20 KMBJ
	620008814	献血アルブミン25%静注5g/20mL「ベネシス」
	620008815	献血アルブミン25%静注12.5g/50mL「ベネシス」
	620009136	アルブミン25%静注12.5g/50mL
	621450201	赤十字アルブミン25%静注12.5g/50mL
	621645901	献血アルブミン25%静注12.5g/50mL「ニチヤク」
	621156607	献血アルブミン25 KMBJ
	620009137	アルブミンベベリン20%静注10.0g/50mL
	621157401	献血アルブミン20%静注10g/50mL「ニチヤク」
	621157401	献血アルブミン20%静注10g/50mL「ニチヤク」
	621157202	献血アルブミン20%静注10g/50mL「J.B」
	621154407	献血アルブミン20 KMBJ
	646340028	乾燥人フィブリノゲン
	621157504	フィブリノゲンHIT静注用1g「J.B」
	646340054	人免疫グロブリン
	621157601	ガンマグロブリン筋注450mg/3mL「ニチヤク」
	621157602	ガンマグロブリン筋注1500mg/10mL「ニチヤク」
	621157617	グロブリン筋注450mg/3mL「J.B」
	621157604	グロブリン筋注1500mg/10mL「J.B」
	621384801	ファイバ静注用500
	621384901	ファイバ静注用1000
	620007377	フィクスト筋注250
	646340456	乾燥抗風人免疫グロブリン
	646340188	人ハプトグロビン
	621158404	ハプトグロビン静注2000単位「J.B」
	622601401	ガンベグール静注50
	621158701	献血アルブミン4.4%静注4.4g/100mL
	621500801	献血アルブミン4.4%静注11g/250mL
	646340261	乾燥抗HBs人免疫グロブリン
	621159004	ヘパリン筋注用200単位
	621159001	乾燥HBグロブリン筋注用200単位「ニチヤク」
	646340262	乾燥抗HBs人免疫グロブリン
	621159104	ヘパリン筋注用1000単位
	621159101	乾燥HBグロブリン筋注用1000単位「ニチヤク」
	646340491	乾燥濃縮人アンチDロビン重
	620001350	献血スレンスロ500注射用
	621159206	アンスロビンP500注射用
	621159207	ノイアード静注用500単位
	640453060	乾燥濃縮人アンチDロビン重
	620001351	献血スレンスロ1500注射用
	620003071	ノイアード静注用1500単位
	620003432	アンスロビンP1500注射用
	620009201	ベリナードP静注用500
	621758802	献血ボリグロビンN5%静注0.5g/10mL
	621758102	献血ボリグロビンN5%静注2.5g/50mL
	621758202	献血ボリグロビンN5%静注5g/100mL
	622162602	献血ボリグロビンN10%静注5g/50mL
	621162602	献血ボリグロビンN10%静注10g/100mL
	622523501	献血ボリグロビンN10%静注2.5g/25mL
	622683601	ピリワイジェン10%点滴静注5g/50mL
	622683701	ピリワイジェン10%点滴静注10g/100mL
	622683801	ピリワイジェン10%点滴静注20g/200mL
	621159901	献血ウェノグロブリンIH5%静注0.5g/10mL
	621160201	献血ウェノグロブリンIH5%静注2.5g/50mL
	621160501	献血ウェノグロブリンIH5%静注1g/50mL
	621490001	献血ウェノグロブリンIH5%静注5g/100mL
	622236601	献血ウェノグロブリンIH5%静注10g/200mL
	622534401	献血ウェノグロブリンIH10%静注0.5g/5mL
	622534501	献血ウェノグロブリンIH10%静注2.5g/25mL
	622534601	献血ウェノグロブリンIH10%静注5g/50mL
	622534701	献血ウェノグロブリンIH10%静注10g/100mL
	622534801	献血ウェノグロブリンIH10%静注20g/200mL
	646340497	乾燥濃縮人血液凝固第IX因子
	620009263	クリスマシンM静注用400単位
	624062601	ノバドM静注用5000単位
	646340499	乾燥濃縮人血液凝固第IX因子
	620009264	クリスマシンM静注用1000単位
	622408201	ノバドM静注用1000単位
	620241000	乾燥濃縮人血液凝固第IX因子
	620241200	乾燥濃縮人血液凝固第IX因子
	622408401	ノバドM静注用2000単位
	620009198	ワイロダシM静注用
	621769701	アドベイト静注用250
	621769801	アドベイト静注用500
	621769901	アドベイト静注用1000
	621984102	アドベイト静注用2000
	622440101	アドベイト静注用1500
	622623801	アドベイト静注用3000
	620603301	アドベイト静注用キット50
	620603401	アドベイト静注用キット500
	620603501	アドベイト静注用キット1000
	620603601	アドベイト静注用キット1500
	620603701	アドベイト静注用キット2000
	620603801	アドベイト静注用キット3000
	640412173	ボリネチレングリコール処理乾燥風人免疫グロブリン
	621161703	ボリネチレングリコール処理乾燥風人免疫グロブリン
	640412174	ボリネチレングリコール処理乾燥風人免疫グロブリン
	621161803	デタノプリンH1静注1500単位
	622366301	ノボセプンH1静注用1mg シリンジ
	622366401	ノボセプンH1静注用2mg シリンジ
	622366501	ノボセプンH1静注用5mg シリンジ
	622366601	ノボセプンH1静注用8mg シリンジ
	640443038	注射用アクトC2.500単位
	640453153	ボリネチレングリコール処理乾燥風人免疫グロブリン
	621450602	ヘスプリンH1静注1000単位
	620006788	メドウェイ注25%
	621971601	ベネフィクス静注500
	621971701	ベネフィクス静注1000
	621971801	ベネフィクス静注2000
	622273601	ベネフィクス静注3000
	622288001	ハイゼントラ20%度下注1g/5mL
	622288101	ハイゼントラ20%度下注2g/10mL
	622288201	ハイゼントラ20%度下注4g/20mL
	622333001	ノボエイト静注用500
	622333101	ノボエイト静注用500
	622333201	ノボエイト静注用1000
	622333301	ノボエイト静注用1500
	622333401	ノボエイト静注用2000
	622333501	ノボエイト静注用3000
	622364101	オルプロリクス静注用500
	622364201	オルプロリクス静注用1000
	622364301	オルプロリクス静注用2000
	622364401	オルプロリクス静注用3000
	622428501	オルプロリクス静注用250
	62268701	オルプロリクス静注用400
	622402801	イロクタイト静注用250
	622402901	イロクタイト静注用500
	622403001	イロクタイト静注用750
	622403101	イロクタイト静注用1000
	622403201	イロクタイト静注用1500
	622403301	イロクタイト静注用2000
	622403401	イロクタイト静注用3000
	622682501	イロクタイト静注用4000
	622424901	ノボサートイン静注用2500
	622443001	アコララン静注用600
	622685801	アコララン静注用1800
	622473101	リクスビス静注用1000
	622473201	リクスビス静注用2000
	622473301	リクスビス静注用3000
	622629201	アディノベイト静注用キット250
	622629301	アディノベイト静注用キット500
	622629401	アディノベイト静注用キット1000
	622629501	アディノベイト静注用キット2000
	622646001	アディノベイト静注用キット1500
	622646101	アディノベイト静注用キット3000
	622489801	コバールトリエ静注用500
	622489901	コバールトリエ静注用500
	6224899501	コバールトリエ静注用1000
	6224899601	コバールトリエ静注用2000
	6224899701	コバールトリエ静注用3000
	622526101	イダルビオン静注用250
	622526201	イダルビオン静注用500
	622526301	イダルビオン静注用1000
	622526401	イダルビオン静注用2000
	620000101	イダルビオン静注用3500
	622682801	ヘムライブラ度下注30mg
	622683001	ヘムライブラ度下注60mg
	622683401	ヘムライブラ度下注90mg
	622683501	ヘムライブラ度下注105mg
	622683601	ヘムライブラ度下注150mg

重症度、医療・看護必要度の項目	レセプト集算処理システム用コード	診療行為名称
	622647001	レフィキシブ静注用500
	622647101	レフィキシブ静注用1000
	622647201	レフィキシブ静注用2000
	622658001	ジビ静注用500
	622658101	ジビ静注用1000
	622658201	ジビ静注用2000
	622658301	ジビ静注用3000
	6226965101	イスバロクト静注用500
	6226965201	イスバロクト静注用1000
	6226965301	イスバロクト静注用1500
	6226965401	イスバロクト静注用2000
	6226965501	イスバロクト静注用3000
	6223967201	バクタロクト配合静注用
A 7 専門的な治療・処置 (① 抗悪性腫瘍剤の使用 注射剤のみ)	622250701	ノーモザンブ点滴静注250mg
	623009132	サントスタチン皮下注用50μg
	622507301	オクトレオチド皮下注50μg「SUN」
	622504701	オクトレオチド皮下注50μg「あすか」
	622522901	オクトレオチド前触地皮下注50μg「サンド」
	623009133	サントスタチン皮下注用100μg「SUN」
	622507401	オクトレオチド皮下注100μg「SUN」
	622504801	オクトレオチド皮下注100μg「あすか」
	622522001	オクトレオチド前触地皮下注100μg「サンド」
	622332101	サントスタチンLAR結注用キット10mg
	622335201	サントスタチンLAR結注用キット20mg
	622335301	サントスタチンLAR結注用キット30mg
	644400106	ゾラデックス3.6mgデポ
	640413027	ゾラデックス1.8mgデポ
	640462004	ゾラデックスLA10.8mgデポ
	620555101	リュープリン注射用3.75mg
	620555201	リュープリン注射用1.88mg
	622298301	リュープロレリン前触地注射用キット1.88mg「NP」
	622266501	リュープロレリン前触地注射用キット1.88mg「あすか」
	620555301	リュープリン注射用キット1.88mg
	622298401	リュープロレリン前触地注射用キット3.75mg「NP」
	622266601	リュープロレリン前触地注射用キット3.75mg「あすか」
	620555401	リュープリン注射用キット3.75mg
	621406301	リュープリンSR注射用キット1.25mg
	622444001	リュープリンPRO注射用キット2.5mg
	620005691	バミドロン酸-Na点滴静注用15mg「F」
	620008225	バミドロン酸-Na点滴静注用15mg「サワイ」
	620005692	バミドロン酸-Na点滴静注用30mg「F」
	620008226	バミドロン酸-Na点滴静注用30mg「サワイ」
	621657601	ゾメタ点滴静注4mg/5mL「F」
	622331301	ゾレドロン酸点滴静注4mg/5mL「F」
	622334701	ゾレドロン酸点滴静注4mg/5mL「NK」
	622336301	ゾレドロン酸点滴静注4mg/5mL「サワイ」
	622335401	ゾレドロン酸点滴静注4mg/5mL「サウド」
	622304001	ゾレドロン酸点滴静注4mg/5mL「日医工」
	622338301	ゾレドロン酸点滴静注4mg/5mL「ニプロ」
	622344201	ゾレドロン酸点滴静注4mg/5mL「フアイザー」
	622337201	ゾレドロン酸点滴静注4mg/5mL「ヤクルト」
	622388201	ゾレドロン酸点滴静注4mg/5mL「SN」
	622342601	ゾレドロン酸点滴静注4mg/5mL「デバ」
	622216901	ゾメタ点滴静注4mg/100mL
	622334601	ゾレドロン酸点滴静注4mg/100mLバッグ「NK」
	622331401	ゾレドロン酸点滴静注4mg/100mLバッグ「サノフィ」
	622338001	ゾレドロン酸点滴静注4mg/100mLバッグ「トーワ」
	622300301	ゾレドロン酸点滴静注4mg/100mLバッグ「日医工」
	622338401	ゾレドロン酸点滴静注4mg/100mLバッグ「ニプロ」
	622344301	ゾレドロン酸点滴静注4mg/100mLバッグ「フアイザー」
	622337301	ゾレドロン酸点滴静注4mg/100mLバッグ「ヤクルト」
	622331501	ゾレドロン酸点滴静注4mg/100mLバッグ「サワイ」
	622342701	ゾレドロン酸点滴静注4mg/100mLバッグ「デバ」
	622518601	リクナスト点滴静注5mg
	622136501	シメオロニド皮下注20mg
	622239101	フラリイ皮下注60mg「モンジ」
	640453101	注射用エンドキサン100mg
	644210037	注射用エンドキサン500mg
	641210058	注射用ヒロキソ1g
	620009116	アスルフェクス点滴静注用60mg
	644210020	ニドラン注射用25mg
	644210021	ニドラン注射用50mg
	620003750	ダカルバジン注用100
	644210065	注射用サイメリン50mg
	644210066	注射用サイメリン100mg
	640411066	アレクザン静注用50mg
	621982101	デモタール点滴静注用100mg
	622041101	トリアキシン点滴静注用100mg
	622348901	トリアキシン点滴静注用25mg
	622374501	サノキ点滴静注用1g
	620007515	メフトレキセート点滴静注200mg
	622221301	メフトレキセート点滴静注200mg
	644210049	注射用メフトレキセート50mg
	644210048	注射用メフトレキセート50mg
	620004748	フトラフルン注400mg
	644210046	注射用フトラフルン400
	622047901	S-F-U注1000mg
	622412601	フルオロウラシル注1000mg「トーワ」
	622229101	S-F-U注250mg
	622412501	フルオロウラシル注250mg「トーワ」
	620003714	キロサイド注20mg
	620003715	キロサイド注40mg
	620003716	キロサイド注60mg
	620003717	キロサイド注100mg
	620003718	キロサイド注200mg
	620003713	キロサイドN注400mg
	641972001	キロサイドN注1g
	622253001	シタラビン点滴静注1g「デバ」
	622282901	シタラビン点滴静注400mg「デバ」
	620914301	サンラビン点滴静注用150mg
	620914401	サンラビン点滴静注用200mg
	620914501	サンラビン点滴静注用250mg
	622202401	ゲムシタビン点滴静注200mg/5mL「サンド」
	622487701	ゲムシタビン点滴静注200mg/5mL「NK」
	622202501	ゲムシタビン点滴静注1g/2.5mL「サンド」
	622487801	ゲムシタビン点滴静注1g/2.5mL「NK」
	622460401	ゲムシタビン点滴静注200mg/5.3mL「ホスビーラ」
	622460501	ゲムシタビン点滴静注1g/2.6.3mL「ホスビーラ」
	640454013	ジェムザール注射用200mg
	621970201	ゲムシタビン点滴静注用200mg「タイホウ」
	621973401	ゲムシタビン点滴静注用200mg「ヤクルト」
	622026801	ゲムシタビン点滴静注用200mg「NK」
	622019601	ゲムシタビン点滴静注用200mg「ホスビーラ」
	622089601	ゲムシタビン点滴静注用200mg「サワイ」
	622062103	ゲムシタビン点滴静注用200mg「TYK」
	622293901	ゲムシタビン点滴静注用200mg「日医工」
	640454012	ジェムザール注射用1g
	621973501	ゲムシタビン点滴静注用1g「タイホウ」
	621973601	ゲムシタビン点滴静注用1g「ヤクルト」
	622028701	ゲムシタビン点滴静注用1g「NK」
	622019701	ゲムシタビン点滴静注用1g「ホスビーラ」
	622099601	ゲムシタビン点滴静注用1g「サワイ」
	622062203	ゲムシタビン点滴静注用1g「TYK」
	622393101	ゲムシタビン点滴静注用1g「日医工」
	623002600	ゾラグラ静注用50mg
	620048501	アリタ注射用300mg
	621932601	アリタ注射用100mg
	620005897	アラジン静注用250mg
	622256601	ニボトナ点滴静注20mg
	620000328	マイトマイシン注用20mg
	620000329	マイトマイシン注用10mg
	620007299	コスマグ静注用0.5mg
	620013799	グレイ注射用5mg
	620003800	グレオ注射用15mg
	620005223	ベパロ注射用5mg
	620005224	ベパロ注射用10mg
	620005148	ベクサシン注射用20mg
	620005176	ダウノマイシン静注用20mg
	620004851	ドキシル注20mg
	621995401	ドキシルビン塩酸塩注射液10mg「サンド」
	621995401	ドキシルビン塩酸塩注射液50mg「サンド」
	620003675	アドリアシン注用10
	621983201	ドキシルビン塩酸塩注射液10mg「NK」
	621983301	ドキシルビン塩酸塩注射液50mg「NK」
	622014001	アドリアシン注用50
	620003762	ゲムラビン注射用10mg
	620005296	ピノルビン注射用10mg
	620003763	ゲムラビン注射用20mg
	620005207	ピノルビン注射用20mg
	6225318101	ピノルビン注射用30mg
	620003790	フルオロピリジンR-T1注射用10mg「NK」
	620009523	エビルビン塩酸塩注射液10mg/5mL「NK」
	621966401	フルオロピリジンR-T1注射液50mg
	620009526	エビルビン塩酸塩注射液50mg/5mL「NK」
	621966501	エビルビン塩酸塩注射液50mg/2.5mL「サワイ」
	620003792	フルオロピリジン注射用10mg
	620007224	エビルビン塩酸塩注射用10mg「NK」
	620008174	エビルビン塩酸塩注射用10mg「サワイ」
	620003793	フルオロピリジン注射用50mg
	620007225	エビルビン塩酸塩注射用50mg「NK」
	620008175	エビルビン塩酸塩注射用50mg「サワイ」
	620008800	イダマイシン静注用5mg
	640462038	カルセド注射用20mg
	640462039	カルセド注射用50mg
	620007499	マイロターグ点滴静注用5mg
	640454006	オンコピン注射用1mg
	644240002	注射用ビンプラスチン塩酸塩

重症度、医療・看護必要度の項目	レセプト記載処理システム用コード	診療行為名称
	620001335	エタザール注射用10mg
	644210059	注射用フィルグリン1mg
	644210060	注射用フィルグリン3mg
	620004777	フラット注100mg/5mL
	620001760	パンプド注100mg
	620006173	エトゾシド点滴静注100mg「サンド」
	622101701	エトゾシド点滴静注100mg「タイヨー」
	622220201	エトゾシド点滴静注100mg「SN」
	620007257	カンフト点滴静注140mg
	620009515	イリノダカン塩酸塩点滴静注40mg「NK」
	620009516	イリノダカン塩酸塩点滴静注40mg「サワイ」
	620009518	イリノダカン塩酸塩点滴静注40mg「タイホウ」
	620919501	トホテシン点滴静注40mg
	622019401	イリノダカン塩酸塩点滴静注40mg「ホスビーラ」
	622020701	イリノダカン塩酸塩点滴静注40mg「タイヨー」
	622228801	イリノダカン塩酸塩点滴静注40mg「NP」
	622236901	イリノダカン塩酸塩点滴静注40mg「トロー」
	622220201	イリノダカン塩酸塩点滴静注40mg「日医工」
	622410401	イリノダカン塩酸塩点滴静注40mg「ハシムイ」
	620007258	カンフト点滴静注100mg
	620009519	イリノダカン塩酸塩点滴静注100mg「NK」
	620009520	イリノダカン塩酸塩点滴静注100mg「サワイ」
	620009522	イリノダカン塩酸塩点滴静注100mg「タイホウ」
	620919701	トホテシン点滴静注100mg
	622019501	イリノダカン塩酸塩点滴静注100mg「ホスビーラ」
	6220209801	イリノダカン塩酸塩点滴静注100mg「タイヨー」
	622229001	イリノダカン塩酸塩点滴静注100mg「NP」
	622237001	イリノダカン塩酸塩点滴静注100mg「トロー」
	622220201	イリノダカン塩酸塩点滴静注100mg「日医工」
	622410501	イリノダカン塩酸塩点滴静注100mg「ハシムイ」
	620919801	タキソール点滴静注用20mg
	622295501	ドセタキセル点滴静注用20mg「サワイ」
	620919901	タキソール点滴静注用80mg
	622295601	ドセタキセル点滴静注用80mg「サワイ」
	620008501	ウンタキソール点滴静注20mg/1mL
	622294901	ドセタキセル点滴静注20mg/1mL「ケミファ」
	622295101	ドセタキセル点滴静注20mg/1mL「テバ」
	622272001	ドセタキセル点滴静注20mg/1mL「トロー」
	622354801	ドセタキセル点滴静注20mg/1mL「NK」
	622356401	ドセタキセル点滴静注20mg/1mL「サワイ」
	622423201	ドセタキセル点滴静注20mg/1mL「E.E」
	622435002	ドセタキセル点滴静注20mg/1mL「ニプロ」
	622488501	ドセタキセル点滴静注20mg/1mL「ヤクルト」
	622088601	ウンタキソール点滴静注80mg/4mL
	622295001	ドセタキセル点滴静注80mg/4mL「ケミファ」
	622295301	ドセタキセル点滴静注80mg/4mL「テバ」
	622272101	ドセタキセル点滴静注80mg/4mL「トロー」
	622354901	ドセタキセル点滴静注80mg/4mL「NK」
	622356501	ドセタキセル点滴静注80mg/4mL「サワイ」
	622429401	ドセタキセル点滴静注80mg/4mL「E.E」
	622435102	ドセタキセル点滴静注80mg/4mL「ニプロ」
	622408901	ドセタキセル点滴静注80mg/4mL「ヤクルト」
	622215301	ドセタキセル点滴静注20mg/2mL「サンド」
	622285201	ドセタキセル点滴静注20mg/2mL「ホスビーラ」
	622215401	ドセタキセル点滴静注80mg/8mL「サワイ」
	622285301	ドセタキセル点滴静注80mg/8mL「ホスビーラ」
	622285401	ドセタキセル点滴静注120mg/12mL「ホスビーラ」
	620003751	タキソール注射30mg
	620004170	バクリタキセル30mg/5mL「NK」
	620005688	バクリタキセル注射30mg「サワイ」
	620820001	バクリタキセル点滴静注30mg「サンド」
	622299101	バクリタキセル注射30mg「NP」
	622375001	バクリタキセル点滴静注30mg/5mL「ホスビーラ」
	620003752	タキソール注射100mg
	620004171	バクリタキセル100mg/16.7mL「NK」
	620005689	バクリタキセル注射100mg「サワイ」
	622082101	バクリタキセル点滴静注100mg「サンド」
	622229201	バクリタキセル注射100mg「NP」
	622375101	バクリタキセル点滴静注100mg/16.7mL「ホスビーラ」
	620005690	バクリタキセル注射150mg「サワイ」
	640432004	ナバルペン注10
	621954401	ロゼリン静注10mg
	640432005	ナバルペン注40
	621954501	ロゼリン静注40mg
	620005197	ハバカムチン注射用1.1mg
	621970101	アバキサチン点滴静注100mg
	622064601	ジェブタナ点滴静注60mg
	620003247	ロイネーゼ用5000
	620003248	ロイネーゼ用10000
	620004129	シスプラチン注100mg「日医工」
	620008946	ランダ注10mg/20mL
	620923301	シスプラチン点滴静注10mg「マルコ」
	620923202	シスプラチン点滴静注10mg「ファイザー」
	620004130	シスプラチン注25mg「日医工」
	620008947	ランダ注25mg/50mL
	620923701	シスプラチン点滴静注15mg「マルコ」
	620923602	シスプラチン点滴静注25mg「ファイザー」
	620004131	シスプラチン注50mg「日医工」
	620008948	ランダ注50mg/100mL
	620924101	シスプラチン点滴静注50mg「マルコ」
	620924002	シスプラチン点滴静注50mg「ファイザー」
	620001919	動注用アイニューコール100mg
	620002591	動注用アイニューコール50mg
	640454002	ノバントクロン注20mg
	644200005	ノバントクロン注10mg
	620004117	カルボプラチン点滴静注50mg「サワイ」
	620004118	カルボプラチン点滴静注50mg「サンド」
	620004122	カルボプラチン注射50mg
	620007254	カルボプラチン点滴静注50mg「NK」
	622098103	カルボプラチン点滴静注50mg「TYK」
	621754602	カルボプラチン注射50mg「日医工」
	620004119	カルボプラチン点滴静注150mg「サワイ」
	620004120	カルボプラチン点滴静注150mg「サンド」
	620004733	カルボプラチン注射150mg
	620007255	カルボプラチン点滴静注150mg「NK」
	622098203	カルボプラチン点滴静注150mg「TYK」
	621754602	カルボプラチン注射150mg「日医工」
	620004121	カルボプラチン点滴静注450mg「サワイ」
	620004122	カルボプラチン点滴静注450mg「サンド」
	620004734	カルボプラチン注射450mg
	620007256	カルボプラチン点滴静注450mg「NK」
	622098303	カルボプラチン点滴静注450mg「TYK」
	621754702	カルボプラチン注射450mg「日医工」
	620007300	コソリン静注用7.5mg
	640407072	アクブラ静注100mg
	640407073	アクブラ静注50mg
	640407074	アクブラ静注100mg
	6200080801	ハートブチン注射用6
	6220090801	ハートブチン注射用150
	640462007	ロイスタチン注8mg
	620002417	トセノックス注10mg
	622017800	オキリプラチン50mg/10mL注射液
	621952201	エルフラット点滴静注50mg
	622388601	オキリプラチン点滴静注50mg/10mL「ケミファ」
	622388301	オキリプラチン点滴静注50mg/10mL「サンド」
	622374801	オキリプラチン点滴静注50mg/10mL「ホスビーラ」
	622371101	オキリプラチン点滴静注50mg「DSEP」
	622373201	オキリプラチン点滴静注50mg「FEP」
	622385701	オキリプラチン点滴静注50mg「NK」
	622389801	オキリプラチン点滴静注50mg「サワイ」
	622394701	オキリプラチン点滴静注50mg「テバ」
	622371801	オキリプラチン点滴静注50mg「トロー」
	622424301	オキリプラチン点滴静注50mg「日医工」
	622392001	オキリプラチン点滴静注50mg「ニプロ」
	622437201	オキリプラチン点滴静注50mg/10mL「KCC」
	622470900	オキリプラチン100mg/20mL注射液
	621952301	エルフラット点滴静注100mg
	622388701	オキリプラチン点滴静注100mg/20mL「ケミファ」
	622383301	オキリプラチン点滴静注100mg/20mL「サンド」
	622374901	オキリプラチン点滴静注100mg/20mL「ホスビーラ」
	622371201	オキリプラチン点滴静注100mg「DSEP」
	622373301	オキリプラチン点滴静注100mg「FEP」
	622383801	オキリプラチン点滴静注100mg「NK」
	622389901	オキリプラチン点滴静注100mg「サワイ」
	622394801	オキリプラチン点滴静注100mg「テバ」
	622371901	オキリプラチン点滴静注100mg「トロー」
	622394301	オキリプラチン点滴静注100mg「日医工」
	622392101	オキリプラチン点滴静注100mg「ニプロ」
	622437301	オキリプラチン点滴静注100mg/20mL「KCC」
	622017900	オキリプラチン200mg/40mL注射液
	6220198401	エルフラット点滴静注200mg
	622437401	オキリプラチン点滴静注200mg/40mL「KCC」
	622428001	オキリプラチン点滴静注200mg/40mL「ケミファ」
	622438801	オキリプラチン点滴静注200mg「DSEP」
	622414601	オキリプラチン点滴静注200mg「FEP」
	622434901	オキリプラチン点滴静注200mg「NK」
	622431101	オキリプラチン点滴静注200mg「サワイ」
	622432401	オキリプラチン点滴静注200mg「テバ」
	622411901	オキリプラチン点滴静注200mg「トロー」
	622437001	オキリプラチン点滴静注200mg「日医工」
	622439101	オキリプラチン点滴静注200mg「ニプロ」
	622461701	オキリプラチン点滴静注200mg/40mL「サンド」
	622460601	オキリプラチン点滴静注200mg/40mL「ホスビーラ」
	620004428	ベルグイド注射用3mL
	620004572	アバスタチン点滴静注用100mg/4mL
	620004873	アバスタチン点滴静注用400mg/16mL
	620006086	ゼヴァリン イットリウム(90Y) 静注用セット
	620008443	アービタックス注射用100mg

重症度、医療・看護必要度の項目	レセプト収算処理システム用コード	診療行為名称
	621964601	ミリブラ動注用 7 0 m g
	621985901	ベクティビックス点滴静注 1 0 0 m g
	622086201	ベクティビックス点滴静注 4 0 0 m g
	622093801	トールセル点滴静注液 2 5 m g
	622045001	ビクター注射用 1 0 0 m g
	622085201	ハラヴェン静注 1 m g
	622101401	フェゾテックス結注 2 5 0 m g
	622149401	ボラジジオ点滴静注 2 0 m g
	622244301	アーゼラ点滴静注液 1 0 0 m g
	622244401	アーゼラ点滴静注液 1 0 0 0 m g
	622255101	パルフェタ点滴静注 4 0 m g / 1 4 m L
	622235601	アドネトリス点滴静注用 5 0 m g
	622264401	カドサイタ点滴静注用 1 0 0 m g
	622264501	カドサイタ点滴静注用 1 6 0 m g
	622264801	オプジーホ点滴静注 2 0 m g
	622264901	オプジーホ点滴静注 1 0 0 m g
	622662201	オプジーホ点滴静注 2 4 0 m g
	622388101	マブキャンパス点滴静注 3 0 m g
	622417901	サイラムサ点滴静注液 1 0 0 m g
	622418001	サイラムサ点滴静注液 5 0 0 m g
	622440501	ヤーボイ点滴静注液 5 0 m g
	622449301	ヨシクリス点滴静注用 0 . 2 5 m g
	622449401	ヨシクリス点滴静注用 1 m g
	622489201	ノーウィグ静注
	622509501	カイボロリス点滴静注用 1 0 m g
	622509601	カイボロリス点滴静注用 4 0 m g
	622514701	エムブリンシイ点滴静注用 3 0 0 m g
	622514801	エムブリンシイ点滴静注用 4 0 0 m g
	622515801	キイトルーダ点滴静注 1 0 0 m g
	622526401	パベンチ点滴静注 2 0 0 m g
	622594601	デセントリタ点滴静注 1 2 0 0 m g
	622590601	デセントリタ点滴静注 8 4 0 m g
	622628901	トラスツスマブ B S 点滴静注用 6 0 m g 「 C T H 」
	622630701	トラスツスマブ B S 点滴静注用 6 0 m g 「 N K 」
	622629001	トラスツスマブ B S 点滴静注用 1 5 0 m g 「 C T H 」
	622630801	トラスツスマブ B S 点滴静注用 1 5 0 m g 「 N K 」
	622633201	イミフィンジ点滴静注 1 2 0 m g
	622633301	イミフィンジ点滴静注 5 0 0 m g
	622659701	トラスツスマブ B S 点滴静注用 6 0 m g 「第一三共」
	622659801	トラスツスマブ B S 点滴静注用 1 5 0 m g 「第一三共」
	622670201	トラスツスマブ B S 点滴静注用 6 0 m g 「ファイザー」
	622679301	トラスツスマブ B S 点滴静注用 1 5 0 m g 「ファイザー」
	622991901	ボートラザ点滴静注液 8 0 0 m g
	622995901	ベバシスマブ B S 点滴静注 1 0 0 m g 「ファイザー」
	622996001	ベバシスマブ B S 点滴静注 4 0 0 m g 「ファイザー」
	622994901	ベバシスマブ B S 点滴静注 1 0 0 m g 「第一三共」
	622995001	ベバシスマブ B S 点滴静注 4 0 0 m g 「第一三共」
	623004740	ビシバニール注射用 0 . 2 K E
	623004741	ビシバニール注射用 0 . 5 K E
	623004742	ビシバニール注射用 1 K E
	623004743	ビシバニール注射用 5 K E
	623003934	レンチナン静注用 1 m g 「味の素」
	623007468	フォトプリン静注用 7 5 m g
	623001918	注射用レザイオン 1 0 0 m g
	621162801	フェロン注射用 1 0 0 方
	621163001	フェロン注射用 3 0 0 方
	621163701	スミジェロン注 D S 3 0 0 万 1 U
	621163801	スミジェロン注 D S 6 0 0 万 1 U
	640453025	イムノマックスーヰ注 1 0 0
	640453024	イムノマックスーヰ注 5 0
	646300065	イムネース注 3 方
	621186201	ベクティビックス点滴静注用 9 6 0 万国際単位
A 7 専門的な治療・処置（②抗悪性腫瘍剤の内服の管理）	621997701	レナデックス錠 4 m g
	621460005	メチルテストステロン錠
	610407152	メチルテストステロン錠
	612470088	エチルテストラソール錠
	620009249	プロセキゾール錠 0 . 5 m g
	623005136	ルトゲル錠 2 m g
	610461132	クロルマジン酢酸エステル錠 2 5 m g 錠
	612470037	プロスターール錠 2 5
	620004573	プロスタット錠 2 5 m g
	620057001	ロシタロン錠 2 5 m g
	620053612	クロルマジン酢酸エステル錠 2 5 m g 「タイヨー」
	620053656	クロルマジン酢酸エステル錠 2 5 m g 「 Y D 」
	620053659	クロルマジン酢酸エステル錠 2 5 m g 「日医工」
	620053654	クロルマジン酢酸エステル錠 2 5 m g 「 K N 」
	6200537101	プロスターール L 錠 5 0 m g
	6200537302	クロルマジン酢酸エステル徐放錠 5 0 m g 「 K N 」
	610454075	プロスターン錠 2 . 5 m g
	6200537801	プロセキゾール錠 0 . 5 m g
	621285301	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル錠 2 . 5 m g 「トーワ」
	620057802	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル錠 2 . 5 m g 「 F 」
	612470039	ヒスロン錠
	610454076	プログステン錠 5 m g
	6200538201	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル錠 5 m g 「 F 」
	610433122	プログステン錠 4 0 0
	620088665	ヒスロン錠 2 0 0 m g
	6200538401	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル錠 2 0 0 m g 「 F 」
	620006975	チザロンカプセル 5 m g
	612490339	セマリム
	620005941	エンドキサン錠 5 0 m g
	622181601	経口用エンドキサン原末 1 0 0 m g
	623094101	サブリン散 1 %
	620005912	アルゲン錠 2 m g
	620004909	エストラサイトカプセル 1 5 6 . 7 m g
	622576801	デモゾミド錠 2 0 m g 「 N K 」
	622576901	デモゾミド錠 1 0 0 m g 「 N K 」
	620004353	デモダールカプセル 2 0 m g
	620004354	デモダールカプセル 1 0 0 m g
	620008778	ロイラリン散 1 0 %
	614210598	イソトレキマー錠 2 . 5 m g
	620005087	フトラフルカプセル 5 0 %
	620004566	フトラフルカプセル 2 0 0 m g
	614210094	S - F U 錠 5 0 錠箱
	614210093	S - F U 錠 1 0 0 錠箱
	614210128	フルツロンカプセル 1 0 0
	614210129	フルツロンカプセル 2 0 0
	610470069	セロラダ錠 3 0 0
	622656401	カベンタピン錠 3 0 0 m g 「サワイ」
	622677701	カベンタピン錠 3 0 0 m g 「トーワ」
	622674301	カベンタピン錠 3 0 0 m g 「日医工」
	622674901	カベンタピン錠 3 0 0 m g 「サワイ」
	622706101	カベンタピン錠 3 0 0 m g 「 J G 」
	622665801	カベンタピン錠 3 0 0 m g 「 N K 」
	614220911	スタラシドカプセル 5 0
	614220912	スタラシドカプセル 1 0 0
	614220910	ハイドレアカプセル 5 0 0 m g
	620004870	フルブラ錠 1 0 m g
	621929601	ユネーブ A E 配合顆粒 T 1 0 0
	621930001	ユネーブ A E 配合顆粒 T 1 5 0
	621930101	ユネーブ A E 配合顆粒 T 2 0 0
	620915901	ユネーブ A E 配合カプセル T 1 0 0
	620009353	ディーエスワン配合顆粒 T 2 0
	622430801	エスエーワン配合顆粒 T 2 0
	622434701	エスケーエスワン配合顆粒 T 2 0
	620009354	ディーエスワン配合顆粒 T 2 5
	622430901	エスエーワン配合顆粒 T 2 5
	622434801	エスケーエスワン配合顆粒 T 2 5
	622434901	ディーエスワン配合 O D 錠 T 2 0
	622497901	エスエーワン配合 O D 錠 T 2 0
	622487301	エスケーエスワン配合 O D 錠 T 2 0
	622527501	エスワンタイボク配合 O D 錠 T 2 0
	622531101	ディーエスワン配合 O D 錠 T 2 5
	622498001	エスエーワン配合 O D 錠 T 2 5
	622487401	エスケーエスワン配合 O D 錠 T 2 5
	622537601	エスワンタイボク配合 O D 錠 T 2 5
	622397101	E E ススワン配合錠 T 2 0
	622397301	エスワンケーケー配合錠 T 2 0
	622397201	E E ススワン配合錠 T 2 5
	622397401	エスワンケーケー配合錠 T 2 5
	620911501	ディーエスワン配合カプセル T 2 0
	622256001	エスエーワン配合カプセル T 2 0
	622254901	エスケーエスワン配合カプセル T 2 0
	622255701	エスワンメイジ配合カプセル T 2 0
	622275701	メタール配合カプセル T 2 0
	620915601	ディーエスワン配合カプセル T 2 5
	622256101	エスエーワン配合カプセル T 2 5
	622255001	エスケーエスワン配合カプセル T 2 5
	622265801	エスワンメイジ配合カプセル T 2 5
	622275801	メタール配合カプセル T 2 5
	620003642	タズデット S カプセル 2 5 m g
	620006119	ペプシドカプセル 2 5 m g
	620003643	タズデット S カプセル 5 0 m g
	620006120	ペプシドカプセル 5 0 m g
	620002680	塩酸プロカルバジンカプセル 5 0 m g 「中友」
	620020403	塩酸プロカルバジンカプセル 5 0 m g 「 T Y P 」
	620001885	タモキシフェン錠 1 0 m g 錠
	620003593	フルバランカプセル 1 0 m g
	620921501	タモキシフェン錠 1 0 m g 「明治」
	620920504	タモキシフェン錠 1 0 m g 「日医工」
	620921701	タモキシフェン錠 1 0 m g 「サワイ」
	620921005	タモキシフェン錠 1 0 m g 「 M Y L 」
	622671201	タモキシフェン錠 1 0 m g 「 D S E P 」
	622317900	タモキシフェン錠 2 0 m g 錠
	620003594	フルバランカプセル 2 0 m g
	620053001	タモキシフェン錠 2 0 m g 「サワイ」
	622075101	タモキシフェン錠 2 0 m g 「日医工」
	622041701	タモキシフェン錠 2 0 m g 「明治」



重症度、医療・看護必要度の項目	レセプト収算処理システム用コード	診療行為名称
	620901905	タモキシフェン錠2.0mg「MYL」
	620911301	タモキシフェン錠2.0mg「DSEF」
	620007083	ベラゾリン細粒4.00mg
	620007084	ベラゾリン細粒8.00mg
	610463172	フルタミド錠12.5「KN」
	620006876	オダイン錠12.5mg
	621484703	フルタミド錠12.5mg「ファイザー」
	620061501	ベサロイドカプセル1.0mg
	610467022	フェナストン錠4.0
	620004006	トレミフェン錠4.0mg「サワイ」
	610407023	フェナストン錠6.0
	6221090901	トレミフェン錠6.0mg「サワイ」
	620003534	カンテックス錠8.0mg
	620009414	ビカルタミド錠8.0mg「F」
	620009415	ビカルタミド錠8.0mg「KN」
	620009417	ビカルタミド錠8.0mg「NK」
	620009413	ビカルタミド錠8.0mg「NP」
	620009411	ビカルタミド錠8.0mg「SN」
	620009420	ビカルタミド錠8.0mg「TCK」
	620009409	ビカルタミド錠8.0mg「あすか」
	620009410	ビカルタミド錠8.0mg「アメル」
	620009416	ビカルタミド錠8.0mg「サワイ」
	620009417	ビカルタミド錠8.0mg「サント」
	620009421	ビカルタミド錠8.0mg「日医工」
	620009422	ビカルタミド錠8.0mg「マイラン」
	620009423	ビカルタミド錠8.0mg「明治」
	621028701	ビカルタミド錠8.0mg「IG」
	621927301	ビカルタミド錠8.0mg「オーハラ」
	621979301	ビカルタミド錠8.0mg「トーワ」
	621912301	ビカルタミド錠8.0mg「ケミファ」
	622087501	ビカルタミド錠8.0mg「ファイザー」
	621897501	ビカルタミド錠8.0mg「デバ」
	622671501	ビカルタミド錠8.0mg「DSEF」
	622283601	ビカルタミドOD錠8.0mg
	622492601	ビカルタミドOD錠8.0mg「KN」
	622467201	ビカルタミドOD錠8.0mg「NK」
	622552901	ビカルタミドOD錠8.0mg「あすか」
	622482001	ビカルタミドOD錠8.0mg「ケミファ」
	622498101	ビカルタミドOD錠8.0mg「サワイ」
	622501501	ビカルタミドOD錠8.0mg「日医工」
	622507101	ビカルタミドOD錠8.0mg「ニプロ」
	622502701	ビカルタミドOD錠8.0mg「明治」
	622513701	ビカルタミドOD錠8.0mg「トーワ」
	622671401	ビカルタミドOD錠8.0mg「DSEF」
	622089100	アナストロゾール1mg錠
	620003507	アリミデックス錠1mg
	622192901	アナストロゾール錠1mg「EE」
	622213401	アナストロゾール錠1mg「F」
	622204401	アナストロゾール錠1mg「IG」
	622262701	アナストロゾール錠1mg「KN」
	6222286701	アナストロゾール錠1mg「NK」
	622211201	アナストロゾール錠1mg「NP」
	622229301	アナストロゾール錠1mg「SN」
	6221198501	アナストロゾール錠1mg「ケミファ」
	6222118501	アナストロゾール錠1mg「サワイ」
	6222115501	アナストロゾール錠1mg「サント」
	6221095501	アナストロゾール錠1mg「デバ」
	6221096001	アナストロゾール錠1mg「トーワ」
	6222289401	アナストロゾール錠1mg「日医工」
	622222701	アナストロゾール錠1mg「マイラン」
	622109501	アナストロゾール錠1mg「明治」
	622228501	アナストロゾール錠1mg「アメル」
	622671101	アナストロゾール錠1mg「DSEF」
	622610600	イマチニブミシル細塩1.00mg錠
	620002511	グリセツド錠1.00mg
	622231601	イマチニブ錠1.00mg「EE」
	6222292801	イマチニブ錠1.00mg「KN」
	622287101	イマチニブ錠1.00mg「NK」
	6222288801	イマチニブ錠1.00mg「セキルト」
	622348701	イマチニブ錠1.00mg「DSEF」
	622337601	イマチニブ錠1.00mg「ニプロ」
	622340201	イマチニブ錠1.00mg「明治」
	622380201	イマチニブ錠1.00mg「オーハラ」
	622388501	イマチニブ錠1.00mg「ケミファ」
	622389601	イマチニブ錠1.00mg「サワイ」
	622414301	イマチニブ錠1.00mg「IG」
	622437501	イマチニブ錠1.00mg「TCK」
	622411601	イマチニブ錠1.00mg「トーワ」
	622436901	イマチニブ錠1.00mg「日医工」
	622411501	イマチニブ錠1.00mg「ファイザー」
	622496001	イマチニブ錠1.00mg「デバ」
	622368682	イマチニブ錠1.00mg「KMP」
	622337701	イマチニブ錠2.00mg「ニプロ」
	622340301	イマチニブ錠2.00mg「明治」
	622375401	イマチニブ錠2.00mg「セキルト」
	622411701	イマチニブ錠2.00mg「トーワ」
	622436601	イマチニブ錠2.00mg「日医工」
	622457401	イマチニブ錠2.00mg「サワイ」
	610404206	アロピシン錠2.5mg
	622115801	エキセメスタン錠2.5mg「NK」
	622118801	エキセメスタン錠2.5mg「マイラン」
	622158301	エキセメスタン錠2.5mg「デバ」
	610403267	イレチニブ錠2.50
	622668901	グフィチニブ錠2.50mg「DSEF」
	622684501	グフィチニブ錠2.50mg「IG」
	622672301	グフィチニブ錠2.50mg「NK」
	622629701	グフィチニブ錠2.50mg「サワイ」
	622682601	グフィチニブ錠2.50mg「サント」
	622674401	グフィチニブ錠2.50mg「日医工」
	622679101	グフィチニブ錠2.50mg「セキルト」
	620002491	アムレイレブ錠2.5mg
	622475600	レトロゾール錠2.5mg錠
	620003467	フェモゾール錠2.5mg
	622427401	レトロゾール錠2.5mg「DSEF」
	622429201	レトロゾール錠2.5mg「EE」
	622429901	レトロゾール錠2.5mg「F」
	622413201	レトロゾール錠2.5mg「FFFP」
	622421201	レトロゾール錠2.5mg「IG」
	622433901	レトロゾール錠2.5mg「KN」
	622435201	レトロゾール錠2.5mg「NK」
	622418401	レトロゾール錠2.5mg「アメル」
	622427901	レトロゾール錠2.5mg「ケミファ」
	622431001	レトロゾール錠2.5mg「サワイ」
	622423001	レトロゾール錠2.5mg「デバ」
	622412801	レトロゾール錠2.5mg「トーワ」
	622436701	レトロゾール錠2.5mg「日医工」
	622438901	レトロゾール錠2.5mg「ニプロ」
	622417401	レトロゾール錠2.5mg「ファイザー」
	622420001	レトロゾール錠2.5mg「明治」
	622411401	レトロゾール錠2.5mg「セキルト」
	622418402	レトロゾール錠2.5mg「サント」
	620003899	タルセバ錠2.50mg
	620006891	タルセバ錠1.00mg
	620005892	タルセバ錠1.50mg
	620006778	ネチザル錠2.00mg
	620006801	ネチザルカプセル12.5mg
	620006558	サレドカプセル1.0
	621984001	サレドカプセル5.0
	622267801	サレドカプセル2.5
	620009095	スプリセル錠2.0mg
	620009096	スプリセル錠5.0mg
	620009097	タンダナカプセル2.00mg
	622081801	タンダナカセル1.50mg
	622585501	タンダナカセル5.0mg
	621911601	タイケルブ錠2.50mg
	621980901	アフィニール錠5mg
	622108001	アフィニール錠2.5mg
	622226301	アフィニール分散錠2mg
	622229401	アフィニール分散錠3mg
	621927401	レブナミドカプセル5mg
	622456401	レブナミドカプセル2.5mg
	622087401	ブリンザカプセル1.00mg
	622109601	サニリカプセル2.00mg
	622109701	サニリカプセル2.50mg
	622183301	インタキタ錠1mg
	622183401	インタキタ錠5mg
	622201801	プレリニント錠2.00mg
	622225801	スチバール錠4.0mg
	622307101	ジオトリブ錠2.0mg
	622307201	ジオトリブ錠3.0mg
	622307301	ジオトリブ錠4.0mg
	622307401	ジオトリブ錠5.0mg
	622623001	イクスタンジ錠4.0mg
	622623101	イクスタンジ錠8.0mg
	622443801	アレセンザカプセル1.50mg
	6223633801	ザイディア錠2.50mg
	622365001	ジャガビ錠5mg
	622456301	ジャガビ錠1.0mg
	622363701	ラバリムス錠1mg
	622374701	ボシニリブ錠1.00mg
	622394901	セルネウブ錠2.40mg
	622415001	ボマリストカプセル1.1mg
	622415101	ボマリストカプセル2.2mg
	622415201	ボマリストカプセル3.3mg
	622415301	ボマリストカプセル4.4mg
	622416001	レンデマカセル4.4mg
	622416101	レンデマカセル1.0mg
	622441601	フアラータックカプセル1.0mg



重症度、医療・看護必要度の項目	レセプト集算処理システム用コード	診療行為名称
	622303501	オキシコドン徐放カプセル5mg（テルモ）
	622303601	オキシコドン徐放カプセル10mg（テルモ）
	622303701	オキシコドン徐放カプセル20mg（テルモ）
	622303801	オキシコドン徐放カプセル40mg（テルモ）
	622350201	ナルタジン錠1mg
	622350301	ナルタジン錠2mg
	622350501	ナルタジン錠4mg
	622350901	ナルタジン錠2mg
	622350901	ナルタジン錠4mg
	622350901	ナルタジン錠6mg
	622350901	ナルタジン錠12mg
	622350101	ナルタジン錠24mg
	618110001	アヘン・トコシ散
	618110027	ドーフル散
	618210001	ベチジン塩酸塩
	622263501	アブストラール下錠100μg
	622263601	アブストラール下錠200μg
	622263701	アブストラール下錠400μg
	622264901	イーブエンパッカル錠50μg
	622265801	イーブエンパッカル錠100μg
	622265101	イーブエンパッカル錠200μg
	622265201	イーブエンパッカル錠400μg
	622265301	イーブエンパッカル錠600μg
	622265401	イーブエンパッカル錠800μg
	622215701	メサペイン錠5mg
	622212801	メサペイン錠10mg
	622230601	タベンタ錠5mg
	622230601	タベンタ錠50mg
	622230701	タベンタ錠100mg
	568110001	アンペック坐剤10mg
	698110002	アンペック坐剤20mg
	698420005	アンペック坐剤30mg
	618120001	コカイン塩酸塩
	620009281	コカイン塩酸塩（タケダ）原末
	620007078	デュロテップMTパッチ2、4mg
	622177901	フェンタニル3日用テープ2、4mg（HMT）
	622228201	フェンタニル3日用テープ2、4mg（明治）
	622628101	フェンタニル3日用テープ2、4mg（トーワ）
	622305202	フェンタニル3日用テープ2、4mg（タイコク）
	620007679	デュロテップMTパッチ4、2mg
	622178001	フェンタニル3日用テープ4、2mg（HMT）
	622228301	フェンタニル3日用テープ4、2mg（明治）
	622628301	フェンタニル3日用テープ4、2mg（トーワ）
	622305302	フェンタニル3日用テープ4、2mg（タイコク）
	620007680	デュロテップMTパッチ8、4mg
	622178101	フェンタニル3日用テープ8、4mg（HMT）
	622228401	フェンタニル3日用テープ8、4mg（明治）
	622628301	フェンタニル3日用テープ8、4mg（トーワ）
	622305402	フェンタニル3日用テープ8、4mg（タイコク）
	620007681	デュロテップMTパッチ12、6mg
	622178201	フェンタニル3日用テープ12、6mg（HMT）
	622228501	フェンタニル3日用テープ12、6mg（明治）
	622628401	フェンタニル3日用テープ12、6mg（トーワ）
	622305502	フェンタニル3日用テープ12、6mg（タイコク）
	620007682	デュロテップMTパッチ16、8mg
	622178301	フェンタニル3日用テープ16、8mg（HMT）
	622228601	フェンタニル3日用テープ16、8mg（明治）
	622628501	フェンタニル3日用テープ16、8mg（トーワ）
	622305602	フェンタニル3日用テープ16、8mg（タイコク）
	620041901	ワンデュロパッチ0、84mg
	622505001	フェンタニル1日用テープ0、84mg（明治）
	620420201	ワンデュロパッチ1、7mg
	622505101	フェンタニル1日用テープ1、7mg（明治）
	62042101	ワンデュロパッチ3、4mg
	622505201	フェンタニル1日用テープ3、4mg（明治）
	62042201	ワンデュロパッチ5mg
	622505301	フェンタニル1日用テープ5mg（明治）
	62042301	ワンデュロパッチ6、7mg
	622505401	フェンタニル1日用テープ6、7mg（明治）
	622702001	ラフエンタテープ1、38mg
	622702001	ラフエンタテープ2、75mg
	622701001	ラフエンタテープ5、5mg
	622701101	ラフエンタテープ8、5mg
	622701201	ラフエンタテープ11mg
	621988502	フェントステープ1mg
	622643101	フェンタニルエン酸塩1日用テープ1mg（第一三共）
	622698801	フェンタニルエン酸塩1日用テープ1mg（タイコク）
	621988802	フェントステープ2mg
	622643201	フェンタニルエン酸塩1日用テープ2mg（第一三共）
	622698901	フェンタニルエン酸塩1日用テープ2mg（タイコク）
	621988702	フェントステープ4mg
	622643301	フェンタニルエン酸塩1日用テープ4mg（第一三共）
	622697001	フェンタニルエン酸塩1日用テープ4mg（タイコク）
	621988802	フェントステープ6mg
	622643401	フェンタニルエン酸塩1日用テープ6mg（第一三共）
	622697101	フェンタニルエン酸塩1日用テープ6mg（タイコク）
	621988902	フェントステープ8mg
	622643501	フェンタニルエン酸塩1日用テープ8mg（第一三共）
	622697201	フェンタニルエン酸塩1日用テープ8mg（タイコク）
	622643601	フェントステープ0、5mg
A 7 専門的な治療・処置 (⑤ 放射線治療)	180008810	体外照射（エクス線表在治療）（1回目）
	180019410	体外照射（エクス線表在治療）（2回目）
	180020710	体外照射（高エネルギー放射線治療）（1回目）（1門照射）
	180020810	体外照射（高エネルギー放射線治療）（1回目）（対向2門照射）
	180020910	体外照射（高エネルギー放射線治療）（1回目）（非対向2門照射）
	180021010	体外照射（高エネルギー放射線治療）（1回目）（3門照射）
	180021110	体外照射（高エネルギー放射線治療）（1回目）（4門以上の照射）
	180021210	体外照射（高エネルギー放射線治療）（1回目）（運動照射）
	180021310	体外照射（高エネルギー放射線治療）（1回目）（密着照射）
	180021410	体外照射（高エネルギー放射線治療）（2回目）（1門照射）
	180021510	体外照射（高エネルギー放射線治療）（2回目）（対向2門照射）
	180021610	体外照射（高エネルギー放射線治療）（2回目）（非対向2門照射）
	180021710	体外照射（高エネルギー放射線治療）（2回目）（3門照射）
	180021810	体外照射（高エネルギー放射線治療）（2回目）（4門以上の照射）
	180021910	体外照射（高エネルギー放射線治療）（2回目）（運動照射）
	180022010	体外照射（高エネルギー放射線治療）（2回目）（密着照射）
	180021910	体外照射（IMRT）
	180025270	照射基準不適合減量（放射線）（100分の70）
	180043270	1回減量増加減量（全身体照射）
	180054970	1回減量増加減量（前立腺照射）
	180009270	術中照射療法増量
	180016970	体外照射前増量増量
	180054870	画像誘導放射線治療増量（腫瘍の位置情報）
	180054770	画像誘導放射線治療増量（骨構造の位置情報）
	180054670	画像誘導放射線治療増量（体表凸凹の位置情報）
	180053270	体外照射呼吸性移動増量
	180018910	ガンマナイフによる定位放射線治療
	180019710	直線加速器による放射線治療（定位放射線治療）
	180053210	直線加速器による放射線治療（1以外）
	180006720	呼吸運動による放射線治療（定位放射線治療・体幹部に対する）
	180053470	定位放射線治療呼吸性移動増量（動体追従法）
	180003570	定位放射線治療呼吸性移動増量（その他）
	180053110	粒子線治療（希少な疾病）（重粒子線治療）
	180055010	粒子線治療（希少な疾病）（重粒子線治療）
	180055310	粒子線治療（1以外の特定の疾病）（重粒子線治療）
	180055210	粒子線治療（1以外の特定の疾病）（重粒子線治療）
	180046970	粒子線治療増量増量
	180047070	粒子線治療後学管理増量
	180012710	全身照射
	180009410	密閉小線源治療（外部照射）
	180017010	密閉小線源治療（腔内照射）（高線量率イリジウム照射）
	180032110	密閉小線源治療（腔内照射）（新型コバルト小線源治療装置）
	180009610	密閉小線源治療（腔内照射）（その他）
	180018610	密閉小線源治療（組織内照射）（前立腺癌に対する永久挿入療法）
	180032310	密閉小線源治療（組織内照射）（新型コバルト小線源治療装置）
	180009610	密閉小線源治療（組織内照射）（その他）
	180009710	密閉小線源治療（放射線治療）（その他）
	180027270	線源使用増量（密閉小線源治療）（前立腺癌に対する永久挿入療法）
	180018770	食道用アプリーケーター増量（密閉小線源治療）
	180018870	食道、気管支用アプリーケーター増量（密閉小線源治療）
	180047170	画像誘導密閉小線源治療増量
A 7 専門的な治療・処置 (⑥ 免疫抑制剤の管理 注射剤のみ)	620007335	ソル・コープラ注射用100mg
	620008818	サリシゾン注射用100mg
	620007332	ソル・コープラ静注用50mg
	620008819	サリシゾン注射用300mg
	620007333	ソル・コープラ静注用50mg
	620008816	サリシゾン静注500mg
	620007334	ソル・コープラ静注用1000mg
	620008817	サリシゾン静注用1000mg
	620004661	ケナルトールA及内用剤錠腔内用水懸液50mg/5mL
	620004660	ケナルトールA腔内用剤錠腔内用水懸液40mg/1mL
	620002613	リンデロン注2mg（0、4%）
	620003829	リンデロン注4mg（0、4%）
	620002614	リンデロン注4mg（0、4%）
	620003830	リンデロン注4mg（0、4%）
	620002615	リンデロン注20mg（0、4%）
	620003831	リンデロン注20mg（0、4%）
	620002616	リンデロン注20mg（2%）
	620002617	リンデロン注100mg（2%）
	620007336	ゾルコート静注用100mg
	620525001	デキサメタゾン注射用1、6mg
	620525101	デキサメタゾン注射用1、6mg
	620525201	オルガドロン注射用1、9mg
	620525201	オルガドロン注射用3、3mg
	620525401	デキサメタゾン注射用3、3mg
	620525801	オルガドロン注射用3、8mg
	620525601	オルガドロン注射用6、6mg
	620525701	デキサメタゾン注射用6、6mg

重症度、医療・看護必要度の項目	レセプト収算処理システム用コード	診療行為名称
A 7 専門的な治療・処置 (㉔ 昇圧剤の使用 注射剤のみ)	620053901	オルガドン注射液 10 mg
	620003832	リメタゾン静注 5 mg
	624240087	リンデロン軟膏注
	6240454024	注射用ソル・メルコート 4.0
	620007356	ソル・メドロール静注用 4.0 mg
	6240454025	注射用ソル・メルコート 1.25
	620007357	ソル・メドロール静注用 1.25 mg
	6240454026	注射用ソル・メルコート 5.0 0
	620007358	ソル・メドロール静注用 5.0 0 mg
	620001310	注射用ソル・メルコート 1.0 0 0
	620007359	ソル・メドロール静注用 1.0 0 0 mg
	620007381	デボ・メドロール水懸注 2.0 mg
	620007382	デボ・メドロール水懸注 4.0 mg
	6242450115	注射用ブレデニゾンコハク酸エステルナトリウム
	6242450169	水溶性ブレデニシ 1.0 mg
	620039402	ブレデニゾンコハク酸エステルNa 注射用 1.0 mg 「F」
	6242450116	注射用ブレデニゾンコハク酸エステルナトリウム
	6242450170	水溶性ブレデニシ 2.0 mg
	620039562	ブレデニゾンコハク酸エステルNa 注射用 2.0 mg 「F」
	6242450171	注射用ブレデニゾンコハク酸エステルナトリウム
	6242450172	水溶性ブレデニシ 5.0 mg
	6200894001	サリシイミン点滴静注用 2.5 0 mg
	624390141	プロクラフ注射液 5.0 mg
	622047401	プロクラフ注射液 2 mg
	620008850	スバシジン点滴静注用 1.0 0 mg
	620008829	シムレタクト静注用 2.0 mg
	620008445	シムレタクト小児用静注用 1.0 mg
	620009011	スタロネマ注腸 3 mg
	620009010	スタロネマ注腸 1.5 mg
	620008805	エピチール注 1.0 mg
	6240461008	ドバミン塩酸塩 1.0 0 mg 5 mL 注射液
	620002175	イノバシ注 1.0 0 mg
	620003427	カゴージン注 1.0 0 mg
	620003404	ドバミン塩酸塩点滴静注 1.0 0 mg 「アイロム」
	620005858	ドバミン塩酸塩点滴静注 1.0 0 mg 「タイヨー」
	620008381	ドバミン塩酸塩点滴静注 1.0 0 mg 「KN」
	620244722	ウルバミス点滴静注 1.0 0 mg 「NP」
	620244718	ドバミン塩酸塩点滴静注 1.0 0 mg 「NP」
	620244732	ドバミン塩酸塩点滴静注 1.0 0 mg 「ファイザー」
	620244701	ドバミン塩酸塩点滴静注 1.0 0 mg 「イセイ」
	620002174	イノバシ注 5.0 mg
	621399008	ドバミン塩酸塩点滴静注 5.0 mg 「タイヨー」
	621399011	ウルバミス点滴静注 5.0 mg
	621399010	カゴージン注 5.0 mg
	621399013	ドバミン塩酸塩点滴静注 5.0 mg 「NP」
	6240401010	ドバミン塩酸塩 2.0 0 mg 1.0 mL 注射液
	620245102	ウルバミス点滴静注 2.0 0 mg
	622084701	カゴージン注 2.0 0 mg
	622000501	ドバミン塩酸塩点滴静注 2.0 0 mg 「タイヨー」
	622023662	ドバミン塩酸塩点滴静注 2.0 0 mg 「NP」
	620002179	塩酸ドバミンスキット 2.0 0
	620003205	カゴージンD注 0. 1%
	620002180	塩酸ドバミンスキット 6.0 0
	620003207	カゴージンD注 0. 3%
	620001194	イノバシ注 0. 1% シリジ
	620003195	イノバシ注 0. 3% シリジ
	620004105	イノバシ注 0. 6% シリジ
	624110084	ドブレックス注射液 1.0 0 mg
	620005187	ドブタミン点滴静注 1.0 0 mg 「アイロム」
	621365314	ドブタミン塩酸塩点滴静注 1.0 0 mg 「サワイ」
	621365306	ドブタミン点滴静注 1.0 0 mg 「AEP」
	621365316	ドブタミン点滴静注 1.0 0 mg 「F」
	621365321	ドブタミン点滴静注 1.0 0 mg 「ラタイザー」
	620005188	ドブレックススキット点滴静注用 2.0 0 mg
	620005189	ドブレックススキット点滴静注用 6.0 0 mg
	620003225	ドブガシ注 0. 1% シリジ
	620003226	ドブガシ注 0. 3% シリジ
	620004161	ドブガシ注 0. 6% シリジ
	620002593	ネオシネジローフ注 1 mg
	620002594	ネオシネジローフ注 5 mg
	6242450005	アドレナリン注射液
	6200517902	ボスミン注 1 mg
	6242450071	ノルアドレナリン注射液
	620008384	ノルアドレナリン注 1 mg
	621371901	アドレナリン注 0. 1% シリジ 「テルモ」
	628704702	エピベン注射液 0. 15 mg
	628704802	エピベン注射液 0. 3 mg
A 7 専門的な治療・処置 (㉕ 抗不整脈剤の使用 注射剤のみ)	621210020	リドカイン注射液
	621210093	キシロカイン注射液 0. 5%
	621210094	リドカイン注 (NM) 0. 5%
	621210021	リドカイン注射液
	621210096	キシロカイン 0. 5% 経注用添剤液
	621210022	リドカイン注射液
	621210099	キシロカイン注射液 1%
	621210100	リドカイン注 (NM) 1%
	621210023	リドカイン注射液
	621210102	キシロカイン注射液 2%
	621210103	リドカイン注 (NM) 2%
	621210024	リドカイン注射液
	621210105	静注用キシロカイン 2%
	620146503	リドカイン注射液 2% 「タカタ」
	621210025	リドカイン注射液
	621670602	リドカイン点滴静注 1% 「タカタ」
	621210014	プロカイナミド塩酸塩注射液
	620008355	アミヤリン注 1.0 mg
	621210015	プロカイナミド塩酸塩注射液
	620008356	アミヤリン注 2.0 mg
	6242120006	インテラル注射液 2 mg
	621494801	オノアクト点滴静注用 5.0 mg
	622094701	コナベータ静注用 1.2. 5 mg
	622422801	オノアクト点滴静注用 5.0 mg
	6240462042	ブレドフロック注 1.0 0 mg
	620004782	リスネダンF静注 5.0 mg
	620006243	ワルサン注 5 mg
	620009290	ベラバシ点滴静注 5 mg 「タイヨー」
	620008940	メキシチール点滴静注 1.2 5 mg
	620004636	アスベリン静注用 1.0 0
	620082301	シベチール静注 7.0 mg
	620007301	タンボコール静注 5.0 mg
	620002384	シンピット静注用 5.0 mg
	624043003	サリズム注射液 5 0
	620002610	リドカイン注射液 2% シリジ 「テルモ」
	620004876	アンカロン注 1.5 0
	622609302	アミタダロン塩酸塩静注 1.5 0 mg 「TE」
	620032902	ジルチアゼム塩酸塩静注用 1.0 mg 「日医工」
	620333102	ジルチアゼム塩酸塩静注用 5.0 mg 「日医工」
	6240407031	ヘルベッサー注射液 2.5 0
	620332401	ジルチアゼム塩酸塩注射液 2.5 0 mg 「サワイ」
	621463002	ジルチアゼム塩酸塩注射液 2.5 0 mg 「日医工」
	621958501	ヘルベッサー注射液 1.0
	620333301	ジルチアゼム塩酸塩注射液 1.0 mg 「サワイ」
	621388601	ヘルベッサー注射液 5.0
	620333301	ジルチアゼム塩酸塩注射液 5.0 mg 「サワイ」
A 7 専門的な治療・処置 (㉖ 抗血栓塞栓薬の持続点滴の使用)	621406001	アルガトロバン注射液 1.0 mg 「サワイ」
	621267001	アルガトロバン注射液 1.0 mg 「日医工」
	621465904	アルガトロバン注射液 1.0 mg 「SN」
	620002948	スロノンH1注 1.0 mg / 2 mL
	620002974	バスタンH1注 1.0 mg / 2 mL
	620003192	アルガトロバン注射液 2.0 mg 「NP」
	621724701	アルガトロバン注 1.0 mg シリジ 「SN」
	620002252	チルトミン液 「フソー」 - 4%
	620812203	ヘパリンCa 皮下注 2 万単位 / 0. 8 mL 「サワイ」
	621814702	ヘパリンCa注射液 1 万単位 / 1.0 mL 「AY」
	621824802	ヘパリンCa 注射液 2 万単位 / 2.0 mL 「サワイ」
	621825002	ヘパリンCa注射液 5 万単位 / 5.0 mL 「AY」
	621824902	ヘパリンCa 注射液 5 万単位 / 5.0 mL 「サワイ」
	621825102	ヘパリンCa 注射液 1.0 万単位 / 1.0 mL 「サワイ」
	622458001	ヘパリンCa 皮下注 1 万単位 / 0. 4 mL 「サワイ」
	621933401	ヘパリンCa注射液 度下注 5 千単位 / 0. 2 mL シリジ 「モチダ」
	624330011	ヘパリンナトリウム注射液
	620812504	ヘパリンナトリウム注N 5 千単位 / 5 mL 「AY」
	620006725	ヘパリンナトリウム注射液
	621825202	ヘパリンNa 注 5 千単位 / 5 mL 「モチダ」
	620006728	ヘパリンナトリウム注射液
	621825802	ヘパリンナトリウム注 1 万単位 / 1.0 mL 「AY」
	621825602	ヘパリンナトリウム注N 1 万単位 / 1.0 mL 「AY」
	621825704	ヘパリンナトリウム注 5 千単位 / 1.0 mL 「ニプロ」
	621825502	ヘパリンNa 注 1 万単位 / 1.0 mL 「モチダ」
	620006734	ヘパリンナトリウム注射液
	621826102	ヘパリンナトリウム注 5 万単位 / 5.0 mL 「AY」
	621826004	ヘパリンナトリウム注 5 万単位 / 5.0 mL 「ニプロ」
	620006739	ヘパリンナトリウム注射液
	621826402	ヘパリンナトリウム注 1 万単位 / 1.0 mL 「AY」
	620006312	ヘパリンNa 注射液 2.5 0 単位 / mL 「アール」
	621823801	ヘパリンNa 注射液 2.5 0 単位 / mL 「NS」 2.0 mL
	621701902	ダルテパリンNa 静注 5.0 0.0 単位 / 5 mL 「日新」
	621699702	ダルテパリンNa 静注 5.0 0.0 単位 / 5 mL 「KCC」
	620005328	リサリス点滴静注 5.0 0.0 単位 / 5 mL
	621757301	ダルテパリンNa 静注 5 千単位 / 5 mL 「HK」
	621673901	ダルテパリンNa 静注 5.0 0.0 単位 / 5 mL 「日医工」
	621757401	ダルテパリンNa 静注 5.0 0.0 単位 / 5 mL 「日本臓器」
	620812701	フラタシン静注 5.0 0.0 単位 / 5 mL
	621702702	ダルテパリンNa 静注 5.0 0.0 単位 / 5 mL 「サワイ」
	621673102	ダルテパリンNa 静注 5.0 0.0 単位 / 5 mL 「AEP」
	620007360	ダルテパリンNa 静注 5 千単位 / 5 mL シリジ 「HK」
	621994801	ダルテパリンNa 静注 2.5 0.0 単位 / 1.0 mL シリジ 「ニプロ」
	621994901	ダルテパリンNa 静注 3.0 0.0 単位 / 1.2 mL シリジ 「ニプロ」
	621995001	ダルテパリンNa 静注 4.0 0.0 単位 / 1.6 mL シリジ 「ニプロ」

重症度、医療・看護必要度の項目	レポート記載処理システム用コード	診療行為名称
A ? 専門的な治療・処置 (⑧ ドレナージの管理)	621965101	グルテパリンNa静注5000単位/20mLシリンジ「ニプロ」
	620006789	リコジェリン点滴静注用12800
	621373901	オルガラン静注1250単位
	620006203	ウロナーゼ静注用6万単位
	620006202	ウロナーゼ点滴用12万単位
	620006204	ウロナーゼ静注用2.4万単位
	620006267	デフィブラーゼ点滴静注用10単位
	643950056	アクナバシシ注600万
	643950059	グルトバ注600万
	643950057	アクナバシシ注1200万
	643950060	グルトバ注1200万
	643950058	アクナバシシ注2400万
	643950061	グルトバ注2400万
	620007270	クリアクター静注用40万
	620007271	クリアクター静注用80万
	140052310	ドレーン法(ドレナージ) (持続的吸引)
	140052410	ドレーン法(ドレナージ) (その他)
	140051810	局所陰圧吸引処置(入院) (100cm2未満)
	140051910	局所陰圧吸引処置(入院) (100cm2以上)
	140052010	局所陰圧吸引処置(入院) (200cm2以上)
	140052170	初回加算(局所陰圧吸引処置)(入院) (100cm2未満)
	140052270	初回加算(局所陰圧吸引処置)(入院) (100cm2以上)
	140052370	初回加算(局所陰圧吸引処置)(入院) (200cm2以上)
	140004110	持続的胸腔ドレナージ
	140004310	持続的ドレナージ
	140004510	持続的胸腔ドレナージ
	140052710	持続的経法性下胸壁ドレナージ
	140007010	イレウス用ロングチューブ挿入法
A ? 専門的な治療・処置 (⑨ 無菌治療室での治療)	100106570	無菌治療室管理加算1
	100146510	無菌治療室管理加算2
C 16 開頭手術 (13日間)	150067010	頭蓋開露術
	150067210	試験開頭術
	150335610	減圧開頭術(キアリ奇形、空嚢空嚢症)
	150067410	減圧開頭術(その他)
	150397510	後頭蓋高減圧術
	150067510	脳腫瘍切除術
	150291010	広範囲頭蓋硬膜切除・再建術
	150008010	機能的位置脳手術(片側)
	150314910	機能的位置脳手術(両側)
	150291110	顕微鏡使用によるてんかん手術(集束切除術)
	150291210	顕微鏡使用によるてんかん手術(開頭室切除術)
	150291310	顕微鏡使用によるてんかん手術(脳室嚢腫術)
	150008310	脳切除術(開頭)
	150008910	脳切除手術(開頭)
	150009050	頭蓋内微小血管減圧術
	150009110	頭蓋骨腫瘍摘出術
	150009210	頭皮・頭蓋骨悪性腫瘍手術
	150009410	頭蓋骨腫瘍切除術
	150009510	頭蓋内血腫除去術(開頭)(硬膜外)
	150009610	頭蓋内血腫除去術(開頭)(硬膜下)
	150009710	頭蓋内血腫除去術(開頭)(脳内)
	150009850	脳血管造影摘出術
	150009950	脳血管造影摘出術
	150070010	脳内腫瘍摘出術
	150070110	脳腫瘍全摘術
	150070210	頭蓋内腫瘍摘出術
	150070310	脳切除術
	150070510	頭蓋内腫瘍摘出術(松果体部腫瘍)
	150284510	頭蓋内腫瘍摘出術(その他)
	150372470	脳腫瘍造影ドマッピング加算
	150370470	脳血管造影加算(脳腫瘍造影加算)
	150071110	脳動脈瘤手術
	150071310	脳・脳腫瘍手術
	150243410	脳動脈瘤摘出術(1箇所)
	150243510	脳動脈瘤摘出術(2箇所以上)
	150243610	脳動脈瘤成人血管クリッピング(開頭)(1箇所)
	150243710	脳動脈瘤成人血管クリッピング(開頭)(2箇所以上)
	150243810	脳動脈瘤前部クリッピング(1箇所)
	150243910	脳動脈瘤前部クリッピング(2箇所以上)
	150344370	ローフローバイパス術併用加算
	150397670	ハイフローバイパス術併用加算
	150072010	腫瘍摘出術
	150072210	頭蓋骨形成手術(腫瘍形成を伴う)
	150335810	頭蓋骨形成手術(骨移動を伴う)
	150067710	耳性頭蓋内合併症手術
	150067850	耳性頭蓋内合併症手術
	150008410	延髄における脊髄視床路切除術
	150008510	三叉神経後根神経切除術
	150008610	視神経管開放術
	150008710	歯槽神経減圧手術(乳突突起経由)
	150008850	顔面神経管開放術
	150150301	動脈瘤形成術、吻合術(頭蓋内動脈)
	150092950	脳脊髄血管造影術
	150152510	血管移植術、バイパス移植術(頭、頸部動脈)
	150123810	胸壁悪性腫瘍摘出術(胸壁形成手術を併施)
	150123910	胸壁悪性腫瘍摘出術(その他)
	150124100	胸壁悪性腫瘍摘出術(胸壁形成手術を併施)
	150124250	胸壁悪性腫瘍摘出術(その他)
	150124410	胸壁悪性腫瘍手術
	150124510	乳がん手術(乳房全摘)
	150124610	乳がん手術(乳房部分切除)
	150124710	試験開胸術
	150127350	試験開胸術
	150125910	肺がん(胸膜)血腫除去術
	150126610	肺腫瘍、肺腫瘍切除術(1肺葉に相当する範囲以内)
	150126710	肺腫瘍、肺腫瘍切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150310810	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲以内)
	150310910	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150127210	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150357110	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150127510	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150127610	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150127810	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150128210	乳がん手術
	150208550	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150128310	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150292710	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150294710	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150374110	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150128510	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150128610	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150357410	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150129010	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150129310	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150374410	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150129710	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150129810	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150129910	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150130010	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150130110	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150371110	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150357510	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150357910	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150358010	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150358110	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150358210	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150358310	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150358410	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150358510	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150374510	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150396610	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150317510	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150392210	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150336510	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150336610	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150336710	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150131210	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150131310	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150131610	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150131710	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150131810	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150253410	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150132210	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150132410	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150132510	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150132610	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150346310	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150133110	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150133710	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150133810	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150133910	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150253610	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150134110	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150134210	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150135010	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150399010	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150135110	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150135210	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150136610	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150136810	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150136980	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150137150	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150137210	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150137410	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150137510	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150138110	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150138210	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)
	150138310	肺がん切除術(1肺葉に相当する範囲を超える)

重症度、医療・看護必要度の項目	レセプト収算処理システム用コード	診療行為名称
	150138410	心臓切開術
	150138510	心臓義腔、心臓腫瘍切除術
	150138710	収縮性心臓炎手術
	150140510	拡張性心臓
	150140610	心腔内異物除去術
	150140710	心房内血栓除去術
	150140810	心臓腫瘍摘出術（単独）
	150318010	心腔内血栓摘出術（単独）
	150317810	心臓腫瘍摘出術（冠動脈血行再建術（1吻合）を伴う）
	150318110	心腔内血栓摘出術（冠動脈血行再建術（1吻合）を伴う）
	150317910	心臓腫瘍摘出術（冠動脈血行再建術（2吻合以上））
	150318210	心腔内血栓摘出術（冠動脈血行再建術（2吻合以上））
	150140010	開胸心臓マニピュレーション
	150145710	冠動脈形成術（血栓内臓摘除）（1箇所）
	150145810	冠動脈形成術（血栓内臓摘除）（2箇所以上）
	150145910	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心臓不使用）（1吻合）
	150146010	冠動脈、大動脈バイパス移植術（2吻合以上）
	150302770	冠動脈形成術（血栓内臓摘除）併発加算
	150318410	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心臓不使用）（1吻合）
	150318510	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心臓不使用）（2吻合以上）
	150143010	心室縮小術（単独）
	150143110	心室縮小術（冠動脈血行再建術（1吻合）を伴う）
	150318610	心室縮小術（冠動脈血行再建術（2吻合以上）を伴う）
	150318710	左室形成術（単独）
	150319010	左室中隔穿孔閉鎖術（単独）
	150319310	左室自由壁破裂修復術（単独）
	150318810	左室形成術（冠動脈血行再建術（1吻合）を伴う）
	150319110	左室中隔穿孔閉鎖術（冠動脈血行再建術（1吻合）を伴う）
	150319410	左室自由壁破裂修復術（冠動脈血行再建術（1吻合）を伴う）
	150319210	左室形成術（冠動脈血行再建術（2吻合以上）を伴う）
	150319210	左室中隔穿孔閉鎖術（冠動脈血行再建術（2吻合以上）を伴う）
	150319510	左室自由壁破裂修復術（冠動脈血行再建術（2吻合以上）を伴う）
	150141010	弁形成術（1弁）
	150279610	弁形成術（2弁）
	150279610	弁形成術（3弁）
	150141410	弁置換術（1弁）
	150141610	弁置換術（2弁）
	150141710	弁置換術（3弁）
	15039470	心臓弁置換術加算（弁置換術）
	150387210	経カテーテル大動脈弁置換術（経心尖大動脈弁置換術）
	150143610	大動脈弁狭窄症下切開術
	150143710	大動脈弁上狭窄手術
	150143810	大動脈弁下狭窄切開術
	150141510	弁輪に太針を伴う大動脈弁置換術
	150375570	心臓弁置換術加算（弁輪に太針を伴う大動脈弁置換術）（1弁）
	150375670	心臓弁置換術加算（弁輪に太針を伴う大動脈弁置換術）（2弁）
	150375770	心臓弁置換術加算（弁輪に太針を伴う大動脈弁置換術）（3弁）
	150319610	トラス動脈を伴う大動脈弁置換術（3弁）
	150292910	ロス手術（自己肺動脈弁組織による大動脈基部置換術）
	150193910	閉鎖式僧帽弁交換切開術
	150294910	大動脈縮小術（上行）（弁置換術又は形成術）
	150395910	大動脈縮小術（上行）（人工弁置換を伴う基部置換術）
	150396910	大動脈縮小術（上行）（自己弁置換型基部置換術）
	150245010	大動脈縮小術（上行）（その他）
	150150010	大動脈縮小術（弓部）
	150399710	大動脈縮小術（上行・弓部同時）（弁置換術又は形成術）
	150398810	大動脈縮小術（上行・弓部同時）（人工弁置換を伴う基部置換術）
	150399910	大動脈縮小術（上行・弓部同時）（自己弁置換型基部置換術）
	150275910	大動脈縮小術（上行・弓部同時）（その他）
	150190110	大動脈縮小術（下行）
	150294810	大動脈縮小術（縦横部大動脈）
	150375870	心臓弁置換術加算（大動脈縮小切開術（吻合又は移植含む））（1弁）
	150375970	心臓弁置換術加算（大動脈縮小切開術（吻合又は移植含む））（2弁）
	150376070	心臓弁置換術加算（大動脈縮小切開術（吻合又は移植含む））（3弁）
	150381580	オーブン胸スタンダードグラフト内挿術（弓部）
	150381650	オーブン胸スタンダードグラフト内挿術（上行・弓部同時、弁置換・形成）
	150381750	オーブン胸スタンダードグラフト内挿術（上行・弓部同時、弁・基部置換）
	150381850	オーブン胸スタンダードグラフト内挿術（上行・弓部同時、弁置換置換術）
	150381950	オーブン胸スタンダードグラフト内挿術（上行・弓部同時、その他）
	150382050	オーブン胸スタンダードグラフト内挿術（下行）
	150151810	動脈管閉存症手術（動脈管閉存閉鎖術（直視下））
	150139110	動脈管閉鎖術
	150319810	動脈管又は重複大動脈弓閉鎖手術
	150319910	巨大動脈血管手術（肺内肺動脈結紮術）
	150138810	体動脈肺動脈短絡手術（フリップ手術、ウォーターストン手術）
	150151910	大動脈縮窄（離断）症手術（単独）
	150320010	大動脈縮窄（離断）症手術（心室中隔欠損症手術を伴う）
	150320110	大動脈縮窄（離断）症手術（複雑心奇形手術を伴う）
	150144110	大動脈肺動脈中隔欠損症手術（単独）
	150320210	大動脈肺動脈中隔欠損症手術（心内血管手術を伴う）
	150320310	三尖弁手術（エプスタイン氏奇形、ウォル氏奇形手術）
	150199410	肺動脈狭窄症手術（肺動脈弁切開術（単独））
	150320410	肺動脈狭窄症手術（肺動脈弁切開術（単独））
	150142910	肺動脈狭窄症手術（右室流出路形成又は肺動脈形成を伴う）
	150320510	肺動脈狭窄症手術（右室流出路形成又は肺動脈形成を伴う）
	150145110	肺動脈狭窄症手術（部分肺動脈置換術）
	150376210	肺動脈狭窄症手術（肺動脈置換術）
	150376310	肺動脈狭窄症手術（肺動脈置換術）（その他）
	150144910	肺動脈形成術
	150142410	心房内瘻大動脈形成術（心房内瘻大動脈形成術）
	150141810	心房中隔欠損閉鎖術（単独）
	150141910	心房中隔欠損閉鎖術（肺動脈弁狭窄を合併する）
	150142080	心房内閉塞手術
	150142110	心室中隔欠損閉鎖術（単独）
	150142210	心室中隔欠損閉鎖術（肺動脈絞扼術後肺動脈形成を伴う）
	150142310	心室中隔欠損閉鎖術（大動脈弁形成を伴う）
	150142810	心室中隔欠損閉鎖術（右室流出路形成を伴う）
	150144010	バルサルバ動脈閉鎖手術（単独）
	150320710	バルサルバ動脈閉鎖手術（大動脈閉鎖不全症手術を伴う）
	150144550	右室－肺動脈手術
	150147410	不完全型房室中隔欠損症手術（心房中隔欠損パッチ閉鎖術（単独））
	150147510	不完全型房室中隔欠損症手術（心房中隔欠損パッチ閉鎖術及び弁形成術）
	150320810	完全型房室中隔欠損症手術（心房及び心室中隔欠損パッチ閉鎖術）
	150320910	完全型房室中隔欠損症手術（フロロ－因瘻症手術を伴う）
	150146510	フロロ－因瘻症手術（右室流出路形成を伴う）
	150146610	フロロ－因瘻症手術（左肺動脈形成を伴う）
	150321010	肺動脈閉鎖症手術（単独）
	150321110	肺動脈閉鎖症手術（カテーテル手術を伴う）
	150376470	人工血管等再置換術加算（肺動脈閉鎖症手術）
	150321210	肺動脈閉鎖症手術（巨大動脈血管術を伴う）
	150146910	両大血管右室起陥症手術（単独）
	150146810	両大血管右室起陥症手術（右室流出路形成を伴う）
	150321310	両大血管右室起陥症手術（タウジッヒ－ビンダ奇形手術）
	150142510	大血管転位症手術（マスタード－セニグ手術）
	150145310	大血管転位症手術（ジャコブ手術）
	150139510	大血管転位症手術（心室中隔欠損閉鎖術を伴う）
	150147010	大血管転位症手術（カテーテル手術を伴う）
	150376570	人工血管等再置換術加算（大血管転位症手術）
	150321410	修正大血管転位症手術（心室中隔欠損パッチ閉鎖術）
	150321510	修正大血管転位症手術（肺動脈手術（ダブルスウィッチ手術））
	150376670	人工血管等再置換術加算（修正大血管転位症手術）
	150147310	肺動脈閉鎖手術
	150321810	単心室症手術（両方向性グレン手術）
	150141310	三尖弁閉鎖症手術（両方向性グレン手術）
	150321910	単心室症手術（フォントラン手術）
	150321710	人工血管等再置換術加算（単心室症又は三尖弁閉鎖症手術）
	150321610	三尖弁閉鎖症手術（フォントラン手術）
	150146710	単心室症手術（心室中隔造形成術）
	150321710	三尖弁閉鎖症手術（心室中隔造形成術）
	150292010	左心形成術後肺動脈手術（ルラッド手術）
	150145510	冠動脈静脈開胸術の補助術
	150145410	冠動脈起陥異常症手術
	150322010	心室室縮小術
	150322110	心臓閉手術
	150144310	肺動脈血管切除術
	150346610	肺動脈血栓内臓摘除術
	150144810	肺動脈血栓除去術
	150253810	不整脈手術（前伝導路切断術）
	150253910	不整脈手術（心室細動症手術）
	150275610	不整脈手術（メイス手術）
	150322310	経導管心臓閉鎖術
	150322410	同種心臓移植術
	150322510	移植心臓移植術
	150322610	同種心臓移植術
	150387710	骨格系由末梢部シート心表面移植術
	150175810	肝腫瘍摘出術（開胸）
	150107210	気管支切除術（開胸手術）
	150109910	気管形成手術（開胸又は胸骨正中切開）
	150287750	肺結核手術（肺動脈に対する正中切開）（機体部分切除）
	150147610	人工心臓（初回）
	150296110	補助人工心臓（初回）
	150360110	複次型補助人工心臓（非拍動型）（初回）
	150148310	動脈結紮術（開胸を伴う）
	150149010	動脈結紮術（開胸を伴う）
	150150410	動脈形成術、吻合術（胸腔内動脈）（大動脈を除く）
	150152210	血管移植術、バイパス移植術（大動脈）
	150152310	血管移植術、バイパス移植術（胸腔内動脈）
	150154610	肺動脈内静脈吻合術
	1501490510	肺静脈摘出術
	150158010	腹壁瘻手術（腹腔に達する）
	150158410	腹壁瘻ヘルニア手術
	150158510	半月状瘻ヘルニア手術
	150158610	白線ヘルニア手術
	150158810	腹ヘルニア手術
	150158910	腹ヘルニア手術
	150159010	腹ヘルニア手術
	150159110	大腸ヘルニア手術
	150159210	腹ヘルニア手術
C 18 開腹手術（7日間）		

重症度、医療・看護必要度の項目	レセプト集算処理システム用コード	診療行為名称
	150109010	閉鎖ヘルニア手術
	150251110	単骨ヘルニア手術
	150251210	会陰ヘルニア手術
	150159410	内ヘルニア手術
	150160010	2次腸疝手術
	150347410	ダミーコントロール手術
	150160110	胆局性腹腔腫瘍手術（横隔膜下腫瘍）
	150160210	胆局性腹腔腫瘍手術（ダグラス窩腫瘍）
	150160310	胆局性腹腔腫瘍手術（右大腸周囲腫瘍）
	150160410	胆局性腹腔腫瘍手術（その他）
	150160610	骨盤腹膜外腫瘍切開排膿術
	150160810	急性汎毒性腹膜炎手術
	150160950	結核性腹膜炎手術
	150161110	腸間膜損傷手術（縫合、修復のみ）
	150161310	腸間膜損傷手術（腸管切除を伴う）
	150161410	大腸切除術
	150161510	大腸、腸間膜、後腹膜腫瘍摘出術（腸切除を伴わない）
	150161610	大腸、腸間膜、後腹膜腫瘍摘出術（腸切除を伴う）
	150162310	後腹膜腔内腫瘍手術
	150162610	網膜血管手術（腸管切除を伴わない）
	150162710	網膜血管手術（腸管切除を伴う）
	150245310	胃漿膜全摘術
	150162910	胃血管結紮術（急性胃出血手術）
	150163010	胃縫合術（大腸充満症又は腹膜炎を含む）
	150163110	胃切除術
	150163710	胃造口胃固定術（胃下垂症手術）
	150164110	胃空腸吻合手術
	150164210	胃、十二指腸悪性切除術・ポリープ切除術（開腹）
	150323210	胃腸胃切除術
	150165210	胃切除術（単純切除術）
	150168010	胃切除術（悪性腫瘍手術）
	150347770	右大腸管移植加算
	150165650	十二指腸区（内切）憩室摘出術
	150357210	噴門部胃切除術（単純切除術）
	150357310	噴門部胃切除術（悪性腫瘍切除術）
	150165910	胃腸小腸
	150166110	胃全摘術（単純全摘術）
	150168110	胃全摘術（悪性腫瘍手術）
	150170110	食道下部迷走神経切除術（幹迷切）（単純）
	150170210	食道下部迷走神経切除術（幹迷切）（ドレーナージを併施）
	150170310	食道下部迷走神経切除術（幹迷切）（胃切除術を併施）
	150170610	食道下部迷走神経選択的切除術（単純）
	150170710	食道下部迷走神経選択的切除術（ドレーナージを併施）
	150170810	食道下部迷走神経選択的切除術（胃切除術を併施）
	150171210	胃冠状静脈結紮及び切除術
	150171310	胃腸吻合術（ブライアン吻合を含む）
	150171510	十二指腸空腸吻合術
	150171810	噴門形成術（結腸外漏門結切開術を含む）
	150171910	噴門形成術
	150172010	胃腸断術（静脈断手術）
	150172110	腸管切除術
	150172210	胆嚢切開結石摘出術
	150296610	胆嚢切開結石摘出術（胆嚢摘出を含む）
	150172310	胆嚢切開結石摘出術（胆嚢摘出を含まない）
	150172410	胆嚢摘出術
	150173110	胆管形成手術（胆管切除術を含む）
	150173210	総胆管拡張留置手術
	150169950	胆嚢管切除腫瘍手術、胆嚢に浸透するもの（リンパ節転移を含む）
	150362210	胆嚢悪性腫瘍手術（肝切除（亜区域切除以上））
	150324010	胆嚢悪性腫瘍手術（肝切除（葉以上）を伴う）
	150324110	胆嚢悪性腫瘍手術（経道十二指腸切除を伴う）
	150324210	胆嚢悪性腫瘍手術（経道十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴う）
	150388410	胆管悪性腫瘍手術（経道十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴う）
	150388510	胆管悪性腫瘍手術（その他）
	150347610	肝門部胆管悪性腫瘍手術（血行再建あり）
	150347910	肝門部胆管悪性腫瘍手術（血行再建なし）
	150173710	胆嚢胃（腸）吻合術
	150173910	総胆管胃（腸）吻合術
	150174110	胆嚢外瘻造設術
	150174210	胆管外瘻造設術（開腹）
	150174810	先天性胆道閉鎖症手術
	150175610	肝結紮術
	150175710	肝腫瘍切開術（開腹）
	150175910	肝嚢嚢切開又は結紮術
	150176110	肝内結石摘出術（開腹）
	150176210	肝嚢嚢、肝嚢嚢摘出術
	150362610	肝切除術（部分切除）
	150362710	肝切除術（亜区域切除）
	150362810	肝切除術（外側区域切除）
	150362910	肝切除術（1区域切除（外側区域切除を除く））
	150363010	肝切除術（2区域切除）
	150363110	肝切除術（3区域切除以上）
	150363210	肝切除術（2区域切除以上で実行再建）
	150177210	肝内胆管（肝管）胃（腸）吻合術
	150177310	肝内胆管外瘻造設術（開腹）
	150284410	移植部分肝移植術（生体）
	150284810	生体部分肝移植術
	150284910	生体部分肝移植術（提供者の療養上の費用）加算
	150324410	同種異体肝移植術
	150388210	急性胆炎手術（悪性腫瘍切除を伴う）
	150277310	急性胆炎手術（その他）
	150177810	脾結石手術（脾切除）
	150177910	脾結石手術（経十二指腸乳頭）
	150348310	脾中央切除術
	150389110	脾腫瘍摘出術
	150296810	脾臓右結紮術
	150178110	脾臓左部腫瘍切除術（脾臓部分切除術）（脾臓時切除）
	150348410	脾臓左部腫瘍切除術（脾臓部分切除術）（脾臓存在）
	150178210	脾臓左部腫瘍切除術（リンパ節・神経叢部摘等を含む腫瘍切除術）
	150277410	脾臓左部腫瘍切除術（脾臓部分切除術）
	150277510	脾臓左部腫瘍切除術（血行再建を含む腫瘍切除術）
	150178410	脾臓腫瘍切除術（経道十二指腸切除術）
	150296910	脾臓腫瘍切除術（リンパ節・神経叢部摘等を含む腫瘍切除術）
	150297010	脾臓腫瘍切除術（リンパ節・神経叢部摘等を含む腫瘍切除術）
	150297110	脾臓腫瘍切除術（脾臓部分切除術）
	150297210	脾臓腫瘍切除術（血行再建を含む腫瘍切除術）
	150178710	脾全摘術
	150179010	脾全摘術（腸）吻合術
	150179110	脾管空腸吻合術
	150179310	脾嚢嚢外瘻造設術（開腹）
	150179410	脾嚢嚢外瘻造設術
	150179590	脾嚢嚢摘出術
	150179610	脾嚢嚢摘出術
	150324610	同種異体脾臓移植術
	150324910	同種異体脾臓移植術
	150179710	脾縫合術（部分切除を含む）
	150179810	脾臓摘出術
	150180010	脾臓血管結紮術
	150180110	脾切除術
	150180210	脾嚢嚢摘出術
	150181110	脾嚢嚢摘出術（腸血管的）
	150181210	小腸切除術（腸血管性手術以外の切除術）
	150297310	小腸切除術（悪性腫瘍手術）
	150181310	小腸腫瘍、小腸憩室摘出術（メックル憩室手術を含む）
	150181610	虫垂切除術（虫垂周囲腫瘍を伴わないもの）
	150357510	虫垂切除術（虫垂周囲腫瘍を伴うもの）
	150181710	結腸切除術（小腸開切術）
	150181810	結腸切除術（結腸半側切除術）
	150181910	結腸切除術（全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術）
	150363810	全結腸・直腸切除術（腸管吻合術）
	150183110	結腸腫瘍摘出術（回盲部腫瘍摘出術を含む）
	150297410	結腸憩室摘出術
	150183510	結腸ポリープ切除術（開腹）
	150184110	腸吻合術
	150184310	腸瘻造設術
	150184410	生重瘻造設術
	150184510	人工肛門造設術
	150184610	腹壁外腸管前置術
	150184710	腸管部分閉鎖術
	150184810	腸管閉塞手術（腸管切除を伴わない）
	150184910	腸管閉塞手術（腸管切除を伴う）
	150364110	多発性小腸閉鎖症手術
	150185210	小腸腸管吻合術（腸管切除を伴わない）
	150185310	小腸腸管吻合術（腸管切除を伴う）
	150185410	結腸腸管吻合術（腸管切除を伴わない）
	150185510	結腸腸管吻合術（腸管切除を伴う）
	150185610	人工肛門閉鎖術（腸管切除を伴わない）
	150185710	人工肛門閉鎖術（腸管切除を伴う）
	150185810	盲腸結紮術
	150185910	腸管転位術
	150186010	生々性大腸腸管手術
	150402310	腸管延長術
	150186110	人工肛門形成術（開腹を伴う）
	150186710	直腸腸管吻合術（開腹）
	150187010	直腸腸管摘出術（経腹及び経肛）
	150187110	直腸腸管・切除術（切除術）
	150245410	直腸腸管・切除術（低位前方切除術）
	150297510	直腸腸管・切除術（低位前方切除術）（経肛門の結腸腸管吻合術）
	150187210	直腸腸管・切除術（切断術）
	150187510	直腸腸管形成手術
	150187710	直腸腸管手術（直腸上部固定）
	150187910	直腸腸管手術（腹会陰（腸切除を含む））
	150264010	肛門悪性腫瘍手術（直腸切除を伴うもの）
	150191610	顔肛上瘻（腹会陰式）
	150191710	顔肛上瘻（腹会陰式）
	150192310	顔肛瘻摘出術
	150245510	顔肛瘻摘出術（皮質腫瘍）
	150245610	顔肛瘻摘出術（腸管腫瘍（腸管腫瘍））

重症度、医療・看護必要度の項目	シラプト臓器処理システム用コード	診療行為名称
	150192810	脳腎悪性腫瘍手術
	150193010	腎破裂縫合術
	150193150	腎破裂手術
	150193210	腎周筋膜層切開術
	150193410	腎切除術
	150193510	集合腎摘除術
	150193610	腎被膜剥離術
	150193710	腎摘出術
	150193810	腎切石術
	150194410	腎全切石術
	150194610	腎部分切除術
	150194810	腎囊全切除縮小術
	150195010	腎摘出術
	150195210	腎（尿管）悪性腫瘍手術
	150195910	腎（腎盂）皮膚腫瘍摘除術
	150462910	腎（腎盂）腫瘍摘除術（その他）
	150196110	腎全形成手術
	150196210	移植用腎採取術（生体）
	150196310	同種移植腎移植術
	150196570	死体腎移植加算
	150238610	生体腎移植術
	150196410	生体腎移植術（提供者の療養上の費用）加算
	150196810	尿管切石術（上部及下部部）
	150196910	尿管切石術（膀胱近傍部）
	150197110	残存尿管摘出術
	150248980	尿管摘除術
	150197210	尿管膀胱吻合術
	150197310	尿管尿管吻合術
	150197410	尿管膀胱吻合術
	150197510	尿管膀胱吻合術
	150197810	尿管皮膚瘻造設術
	150197910	尿管皮膚瘻閉鎖術
	150463210	尿管瘻瘻閉鎖術（その他）
	150198110	尿管瘻瘻閉鎖術
	150198310	尿管口形成手術
	150198410	膀胱破裂閉鎖術
	150198510	膀胱内筋膜層切開術
	150198810	膀胱結石摘出術（膀胱高位切開術）
	150199210	膀胱壁切除術
	150199310	膀胱壁切除術
	150199510	膀胱全摘除術（尿管利用の尿路変更を行う）
	150199610	膀胱全摘除術（その他）
	150245810	膀胱腫瘍摘出術
	150248910	膀胱癌手術（メッシュ使用）
	150192150	膀胱後縁瘻瘻摘出術（尿管切除を伴わない）
	150192250	膀胱後縁瘻瘻摘出術（尿管切除を伴う）
	150200510	膀胱悪性腫瘍手術（切除）
	150200610	膀胱悪性腫瘍手術（全摘（尿路変更を行わない））
	150245910	膀胱悪性腫瘍手術（全摘（尿管S状結腸吻合利用で尿路変更を行う））
	150246010	膀胱悪性腫瘍手術（全摘（回腸又は結腸導管利用で尿路変更を行う））
	150246110	膀胱悪性腫瘍手術（全摘（代用膀胱利用で尿路変更を行う））
	150201010	尿管摘出術
	150463910	膀胱皮膚瘻造設術
	150404010	膀胱造設術
	150201510	膀胱皮膚瘻閉鎖術
	150201610	膀胱瘻瘻閉鎖術
	150404210	膀胱腸瘻閉鎖術（その他）
	150201810	膀胱子宮瘻閉鎖術
	150201950	膀胱子宮全摘手術
	150202010	ポアリー氏手術
	150202110	尿管利用膀胱結石摘除術
	150204310	尿管（結腸）瘻管造設術
	150349010	排尿管外反復手術（外反膀胱閉鎖術）
	150349110	排尿管外反復手術（膀胱腸管閉鎖術）
	150246310	尿管尿道瘻瘻閉鎖術（尿道）
	150246510	尿管悪性腫瘍摘出術（尿路変更を行う場合）
	150206010	尿管全摘手術（尿管固定式膀胱頸部吊上げを行うもの）
	150365610	人工尿道括約筋収縮・直腸瘻
	150214810	子宮位置矯正術（フレイミングアーム手術）
	150214910	子宮位置矯正術（開腹による位置矯正術）
	150215010	子宮位置矯正術（縮宮剤閉鎖矯正術）
	150215110	子宮全摘手術（腹壁形成手術及び子宮全摘術）（経式、腹式）
	150214910	子宮全摘術（経式）術（腹式）
	150217050	直腸前角子宮全摘手術（腹式）
	150217410	子宮頸上部切除術
	150217510	子宮全摘術
	150409010	子宮全摘術（性同一性障害）
	150217610	広範囲内臓摘出術
	150217710	子宮悪性腫瘍手術
	150218210	腫瘍子宮全摘手術
	150219410	子宮前縁血管吻合術（両側）（開腹）
	150219710	膀胱部分切除術（開腹）
	150219850	膀胱部分切除術（両側）（開腹）
	150219650	尿管口切開術（開腹）
	150220010	子宮閉鎖器摘除術（両側）（開腹）
	150409410	子宮閉鎖器摘除術（前側）（開腹）（性同一性障害）
	150220150	尿管全摘除術（前側）（開腹）
	150220250	尿管腫瘍全摘除術（両側）（開腹）
	150220450	子宮尿管留置手術（両側）（開腹）
	150220710	子宮尿管留置手術（両側）（開腹）
	150220910	尿管形成手術（尿管・尿管瘻、尿管瘻等）
	150222110	帝王切開術（緊急帝王切開）
	150222210	帝王切開術（選択帝王切開）
	150222810	子宮破裂手術（子宮全摘除を行う）
	150222910	子宮破裂手術（子宮頸上部切除を行う）
	150223010	子宮破裂手術（その他）
	150263110	尿管子宮摘出術（ヒューズ手術）
	150263310	子宮内反転摘除手術（閉式）（経血的）
	150132310	食道縫合術（穿孔、損傷）（開腹手術）
	150133210	食道食物摘出術（開腹手術）
	150134010	食道切除術（食道内臓器）
	150271050	胸壁外皮膚管形成吻合術（腹部操作）
	150267550	胸壁外皮膚管形成吻合術（パイプスのみ作成）
	150374610	非開腹食道切除術（消化管再建手術を併施）
	150135310	食道悪性腫瘍手術（消化管再建手術を併施）（腹部の操作）
	150328650	食道悪性腫瘍手術（食道再建手術を併施）（腹部の操作）
	150386970	食道再建加算（食道悪性腫瘍手術）
	150135310	食道アックマン再建手術
	150135710	食道切除後2次の再建術（皮弁形成）
	150135810	食道切除後2次の再建術（消化管利用）
	150136110	食道・胃静脈瘤手術（血行遮断術を主とする）
	150136210	食道・胃静脈瘤手術（食道静脈瘤を主とする）
	150136350	食道静脈瘤手術（開腹）
	150136710	横隔膜縫合術（経腹）
	150137050	横隔膜ヘルニア手術（経腹）
	150137310	横隔膜ヘルニア手術（経腹）
	150137810	後胸骨ヘルニア手術
	150138010	食道ヘルニア手術（経腹）
	150245110	大動脈瘤摘除術（腹部大動脈（分枝血管の再建））
	150245210	大動脈瘤摘除術（腹部大動脈（その他））
	150148410	血管縫合術（開腹を伴う）
	150148910	動脈縫合術（開腹を伴う）
	150150510	動脈形成術、吻合術（腹腔内動脈）（大動脈を除く）
	150152410	血管移植術、バイパス移植術（腹腔内動脈）
	150142110	静脈血栓摘出術（開腹を伴う）
	150145110	静脈形成術、吻合術（腹腔内静脈）
	150156910	リンパ節群摘除術（後腹膜）
	150396650	先天性胆管拡張症に対する手術（胃切除、総胆管切除等併施）
	150165850	胆嚢摘出術と十二指腸空腸吻合術
	150180350	胆管瘻手術（胆管瘻瘻閉鎖手術）
	150180550	胆管瘻手術（胆管瘻瘻瘻瘻）（経血的）
	150180650	胆管瘻手術（小腸切除術）（悪性腫瘍手術以外の切除術）
	150293350	胆管瘻手術（小腸切除術）（悪性腫瘍手術）
	150401610	移植用部分小腸採取術（生体）
	150401710	生体部分小腸移植術
	150401810	生体部分小腸移植術（提供者の療養上の費用）加算
	150180750	胆管瘻手術（結腸切除術）（小腸摘出術）
	150180850	胆管瘻手術（結腸切除術）（結腸全摘除術）
	150180950	胆管瘻手術（結腸切除術）（全切除、部分切除又は悪性腫瘍手術）
	150187750	胆管全切除術（結腸切除術・腎全尿管移行形成術併施）
	150208810	胆立腹摘除術
	150209010	胆立腹摘除術
	150209310	胆立腹摘除術
	150209910	胆管瘻手術（結腸切除術）（結腸全摘除術）
	150218310	重篤子宮手術
	150218410	双角子宮手術
	150219010	多角子宮形成手術（ストラスマン手術）
	150349310	性腺摘出術（開腹）
	150019410	骨節腫瘍的手術（下腿）
	150019610	骨節腫瘍的手術（膝蓋骨）
	150019810	骨節腫瘍的手術（足）
	150352210	腫瘍的整復術（インプラント関節置換）（大腿）
	150352410	腫瘍的整復術（インプラント関節置換）（下腿）
	150352610	腫瘍的整復術（インプラント関節置換）（足）
	150021410	骨部分切除術（肩甲骨）
	150021610	骨部分切除術（大腿）
	150021810	骨部分切除術（下腿）
	150021910	骨部分切除術（膝蓋骨）
	150022010	骨部分切除術（膝蓋骨）
	150022210	骨部分切除術（足）
	150022310	骨摘出術（肩甲骨）
	150022610	骨摘出術（大腿）
	150022710	骨摘出術（下腿）
	150022810	骨摘出術（膝蓋骨）
	150022910	骨摘出術（足）
	150023010	骨摘出術（肩甲骨）
	150023110	骨摘出術（膝蓋骨）
	150023410	骨全摘術（肩甲骨）
C 19 骨の手術（11日間）		





重症度、医療・看護必要度の項目	シナリオ別臓器処理システム用コード	診療行為名称
	100096910	中耳、側頭骨腫瘍摘出術
	100095210	中耳悪性腫瘍手術（切除）
	100095310	中耳悪性腫瘍手術（側頭骨摘出術）
	100096210	アブミ骨摘出術
	100096350	アブミ骨可動化手術
	100104210	咽頭悪性腫瘍手術
	100344810	前咽頭間隙腫瘍摘出術（経咽頭下窩（下咽腫瘍を含む））
	100345010	前咽頭間隙悪性腫瘍摘出術（経咽頭下窩（下咽腫瘍を含む））
	100111510	咽基底嚢嚢腫瘍手術
	100113610	口腔、顎、顔面悪性腫瘍切除術
	100115410	顎骨腫瘍摘出術（長さ3 c m未満）
	100115510	顎骨腫瘍摘出術（長さ3 c m以上）
	100115610	下顎骨部分切除術
	100115710	下顎骨腫瘍手術
	100115810	下顎骨悪性腫瘍手術（切除）
	100115910	下顎骨悪性腫瘍手術（切除）
	100116110	上顎骨切除術
	100116210	上顎骨全摘術
	100116310	上顎骨悪性腫瘍手術（切除）
	100116410	上顎骨悪性腫瘍手術（切除）
	100116510	上顎骨悪性腫瘍手術（全摘）
	100123610	腭骨切除術
	100119210	舌骨腫瘍の手術（全摘）
C 20 胸腔鏡・胸腔鏡の手術（5日間）	100356910	胸腔鏡下試験開胸術
	100357010	胸腔鏡下試験切除術
	100362410	胸腔鏡下肺腫瘍摘出又は胸膜肺結核切除術
	100317010	胸腔鏡下肺腫瘍摘出術
	100357210	胸腔鏡下胸骨結合術（乳癌胸手術）
	100357310	胸腔鏡下縦隔切除術
	100374210	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術
	100374310	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術
	100405910	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器使用）
	100296610	胸腔鏡下肺切除術（肺葉切除手術（機状部分切除））
	100357710	胸腔鏡下肺切除術（その他）
	100270750	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術
	100406010	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器使用）
	100270850	胸腔鏡下良性胸膜腫瘍手術
	100296750	胸腔鏡下肺結核術
	100358610	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）
	100358710	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（全摘）
	100358810	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除手術（機状部分切除））
	100406110	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除、1肺葉超・手術用支援機器使用）
	100358910	胸腔鏡下食道憩室切除術
	100399510	胸腔鏡下食道癌切除術
	100396710	胸腔鏡下先天性食道閉鎖症根治手術
	100374710	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（頸部、胸部、腹部の操作）
	100406210	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（頸、胸、腹部操作・手術用支援機器使用）
	100374810	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（頸部、腹部の操作・手術用支援機器使用）
	100406310	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（頸部、腹部の操作・手術用支援機器使用）
	100367070	右主気管支切除術（胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術）
	100399610	縦隔下食道悪性腫瘍手術
	100296310	縦隔下食道アカラシア形成手術
	100396910	縦隔下食道静脈瘤手術（胃上静脈付着断術）
	100359110	胸腔鏡下（胸腔鏡下を含む）縦隔縦断術
	100271310	胸腔鏡下食道ヘルニア手術
	100359210	胸腔鏡下心臓開窓術
	100399710	胸腔鏡下弁形成術（1弁）
	100406410	胸腔鏡下弁形成術（1弁）（内視鏡手術用支援機器使用）
	100399810	胸腔鏡下弁形成術（2弁）
	100406510	胸腔鏡下弁形成術（2弁）（内視鏡手術用支援機器使用）
	100399910	胸腔鏡下弁置換術（1弁）
	100400010	胸腔鏡下弁置換術（2弁）
	100376110	胸腔鏡下動脈管開閉断術
	100361110	胸腔鏡下骨盤内リンパ節群摘出術
	100377010	胸腔鏡下小切開後縦断リンパ節群摘出術
	100377110	胸腔鏡下小切開後縦断リンパ節群摘出術
	100361210	胸腔鏡下ヘルニア手術（縦断縦断ヘルニア）
	100361310	胸腔鏡下ヘルニア手術（大腸ヘルニア）
	100388010	胸腔鏡下ヘルニア手術（非大腸ヘルニア、自腹ヘルニア）
	100388110	胸腔鏡下ヘルニア手術（膈ヘルニア）
	100388210	胸腔鏡下ヘルニア手術（膈ヘルニア）
	100363610	胸腔鏡下拡大ヘルニア手術（両側）
	100361410	胸腔鏡下試験開腹術
	100361510	胸腔鏡下試験切除術
	100361710	胸腔鏡下大網、腸間膜、後腹膜腫瘍摘出術
	100377210	胸腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術
	100377310	胸腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
	100271650	胸腔鏡下胃、十二指腸潰瘍穿孔縫合術
	100377410	胸腔鏡下胃角上切端切除術（胃下垂症手術）
	100377510	胸腔鏡下胃結紮術
	100377610	胸腔鏡下胃腸吻合術（内視鏡処置を併用）
	100377710	胸腔鏡下胃腸吻合術（その他）
	100322410	胸腔鏡下胃切除術（単純切除術）
	100406610	胸腔鏡下胃切除術（単純切除術）（内視鏡手術用支援機器使用）
	100323510	胸腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）
	100406710	胸腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）（内視鏡手術用支援機器使用）
	100377810	胸腔鏡下噴門腫瘍切除術（単純切除術）
	100377910	胸腔鏡下噴門腫瘍切除術（悪性腫瘍手術）
	100378010	胸腔鏡下胃小腸吻合術（スリーブ切除）
	100323610	胸腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術）
	100323710	胸腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術）
	100361910	胸腔鏡下食道下部迷走神経切断術（幹迷切）
	100276610	胸腔鏡下食道下部迷走神経選択的切断術
	100362010	胸腔鏡下胃腸吻合術
	100323810	胸腔鏡下幽門形成術
	100276710	胸腔鏡下噴門形成術
	100276810	胸腔鏡下胃腸吻合術（胆嚢摘出を含む）
	100276910	胸腔鏡下胆嚢切除術（胆嚢摘出を含む）
	100254110	胸腔鏡下胆嚢摘出術
	100388310	胸腔鏡下胆嚢管拡張術
	100277110	胸腔鏡下十二指腸切除術
	100401210	胸腔鏡下胆道閉塞症手術
	100348010	胸腔鏡下肝切除術（部分切除）
	100348110	胸腔鏡下肝切除術（外側区切除）
	100388710	胸腔鏡下肝切除術（中央区切除）
	100388810	胸腔鏡下肝切除術（1区切除（外側区切除を除く））
	100388910	胸腔鏡下肝切除術（2区切除）
	100389010	胸腔鏡下肝切除術（3区切除（2区切除以上））
	100401510	胸腔鏡下脾腫瘍摘出術
	100389210	胸腔鏡下脾体尾節腫瘍切除術（脾同時切除）
	100389310	胸腔鏡下脾体尾節腫瘍切除術（脾温存）
	100271850	胸腔鏡下脾摘出術
	100271950	胸腔鏡下小腸切除術（悪性腫瘍手術以外の切除術）
	100363710	胸腔鏡下小腸切除術（悪性腫瘍手術）
	100376710	胸腔鏡下小腸切除術（全小腸切除を伴わないもの）
	100272050	胸腔鏡下生虫切除術（生虫両側腫瘍を伴うもの）
	100277810	胸腔鏡下結腸切除術（小腸同時切除、結腸半摘切除）
	100377710	胸腔鏡下結腸切除術（全切除、部分切除）
	100324910	胸腔鏡下結腸悪性腫瘍摘出術
	100364010	胸腔鏡下腸癌、虫垂囊造設術
	100396610	胸腔鏡下人工肛門造設術
	100364210	胸腔鏡下腸胃吻合術
	100364310	胸腔鏡下腸回転異常症手術
	100325110	胸腔鏡下先天性巨大結腸症手術
	100325210	胸腔鏡下直腸切除・切除術（切除術）
	100378110	胸腔鏡下直腸切除・切除術（低位前方切除術）
	100379110	胸腔鏡下直腸切除・切除術（切除術）
	100279210	胸腔鏡下肛門腫瘍摘出術
	100388110	胸腔鏡下小切開肛門腫瘍摘出術
	100378910	胸腔鏡下肛門癌腫瘍摘出術（褐色細胞腫）
	100364710	胸腔鏡下肛門癌腫瘍摘出術
	100325710	胸腔鏡下腎部分切除術
	100358210	胸腔鏡下小切開腎部分切除術
	100325810	胸腔鏡下腎囊腫切除術（小切開）
	100364810	胸腔鏡下腎囊腫切除術
	100325910	胸腔鏡下腎摘出術
	100358310	胸腔鏡下小切開腎摘出術
	100326010	胸腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術
	100358410	胸腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術
	100389910	胸腔鏡下腎癌性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる）
	100326110	胸腔鏡下腎上形成手術
	100338510	胸腔鏡下移植用腎臓摘出術（生体）
	100379010	胸腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術
	100379110	胸腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術
	100379210	胸腔鏡下膀胱部分切除術
	100379310	胸腔鏡下膀胱摘出術
	100407510	胸腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（膀胱等利用し尿路変更なし・通尿18）
	100403310	胸腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（全摘、膀胱等利用し尿路変更なし）
	100407610	胸腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（膀胱等適宜利用尿路変更あり・通尿18）
	100403410	胸腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（全摘、尿管結腸導管利用し尿路変更あり）
	100403510	胸腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（全摘、代用膀胱利用し尿路変更あり）
	100407710	胸腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（代用膀胱利用し尿路変更あり・通尿18）
	100403610	胸腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術（全摘、膀胱等利用尿路変更なし）
	100403710	胸腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術（全摘、尿管等利用尿路変更あり）
	100403810	胸腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術（全摘、代用膀胱利用尿路変更あり）
	100279510	胸腔鏡下尿管摘出術
	100365310	胸腔鏡下膀胱内手術
	100326510	胸腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
	100338810	胸腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
	100390310	胸腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる）
	100284510	胸腔鏡下子宮内内視鏡肌瘤除去術
	100390410	胸腔鏡下子宮頸固定術
	100294110	胸腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術
	100366010	胸腔鏡下子宮筋腫上部切除術
	100272250	胸腔鏡下子宮全摘術
	100327210	胸腔鏡下広範囲子宮内腫瘍摘出術
	100379810	胸腔鏡下子宮癌性腫瘍手術
	100409310	胸腔鏡下子宮癌性腫瘍手術（子宮体が人に限る・手術用支援機器使用）

重症度、医療・看護必要度の項目	レシプロト臓器処理システム用コード	診療行為名称
C 21 全身麻酔・脊椎麻酔の手術（５日間）	102098960	腹腔鏡下多発性肝原発性癌摘出術
	102039030	膵十二指腸手術（腹腔鏡）
	102027470	食道原腸摘出術（腹腔鏡下）
	102031770	食道原腸摘出術（腹腔鏡下）
	102061610	腹腔鏡下小腸憩室切除術（全摘）
	102039410	腹腔鏡下胆嚢十二指腸切離術
	1020271500	腹腔鏡下腸胃吻合術
	102039950	腹腔鏡下腸胃吻合術
	102065510	腹腔鏡下大腸手術
	102064610	子宮前屈癒着剥離術（前側）（腹腔鏡）
	102024770	卵巣部分切除術（腹腔鏡）
	102087650	卵巣部分切除術（前側）（腹腔鏡）
	1020270010	子宮前屈癒着剥離術（前側）（腹腔鏡）
	102082590	子宮卵管留置手術（両側）（腹腔鏡）
	102028180	卵巣摘出術（前側）（腹腔鏡）
	102028890	卵巣摘出術（前側）（腹腔鏡）
	1020378410	肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（２ｃｍ以内）（腹腔鏡）
	1020378610	肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（２ｃｍを超える）（腹腔鏡）
	102065510	腹腔鏡下大腸手術
	102023510	腹腔鏡下横切手術（腹会陰式）
	102040360	腹腔鏡下小切開腹腔悪性腫瘍手術（全摘（腸管等を利用して尿路変更を行わないもの））
	102040370	腹腔鏡下小切開腹腔悪性腫瘍手術（全摘（回腸又は結腸嚢嚢管を利用して尿路変更を行うもの））
	102040380	腹腔鏡下小切開腹腔悪性腫瘍手術（全摘（代用尿路管を利用して尿路変更を行うもの））
	102036410	腹腔鏡下腹腔内停留結腸癌内固定術
	1020403310	腹腔鏡下腹腔悪性腫瘍手術（全摘（腸管等を利用して尿路変更を行わないもの））
	1020403410	腹腔鏡下腹腔悪性腫瘍手術（全摘（回腸又は結腸嚢嚢管を利用して尿路変更を行うもの））
	1020403510	腹腔鏡下腹腔悪性腫瘍手術（全摘（代用尿路管を利用して尿路変更を行うもの））
	1020407510	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（全摘（腸管等を利用して尿路変更を行わないもの））（内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合）
	1020407610	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（全摘（回腸又は結腸嚢嚢管を利用して尿路変更を行うもの））（内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合）
	1020407710	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（全摘（代用尿路管を利用して尿路変更を行うもの））（内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合）
	1020364610	腹腔鏡下直腸脱手術
	102064910	子宮外妊娠手術（腹腔鏡）
	102023290	腎臓摘出術
	102032510	腎臓摘出術全身麻酔１（麻酔困難な患者）
	102032610	腎臓摘出術全身麻酔１
	102032710	腎臓摘出術全身麻酔２（麻酔困難な患者）
	102032810	腎臓摘出術全身麻酔２
	102032910	腎臓摘出術全身麻酔３（麻酔困難な患者）
	102033010	腎臓摘出術全身麻酔３
	102033110	腎臓摘出術全身麻酔４（麻酔困難な患者）
	102033210	腎臓摘出術全身麻酔４
	102032810	腎臓摘出術全身麻酔５（麻酔困難な患者）
	102023410	腎臓摘出術全身麻酔５
	102041740	硬膜外麻酔追加加算（頭・頸部）
	102047570	硬膜外麻酔追加加算（腰部）
	102047670	硬膜外麻酔追加加算（仙骨部）
	102034240	術中経食道心エコー連続観察加算（心臓手術又は冠動脈血管・弁膜症）
	102085970	術中経食道心エコー連続観察加算（カテーテル使用経皮的冠動脈手術）
	102030670	腫瘍切除術加算
	102091070	神経ブロック併用加算
	102091170	神経ブロック併用加算（神経モニタリング加算）
C 22 救命等に係る内科的治療（５日間）（①経皮的血管内治療）	102120810	緊急性肺塞栓摘出術
	102054900	脳血管内手術（１箇所）
	102044410	脳血管内手術（２箇所以上）
	102055410	脳血管内手術（脳血管内カテーテル）
	102073510	経皮的脳血管形成術
	102091110	経皮的選択的脳血栓・血栓溶解術（脳血管内血管）
	1020801210	経皮的選択的脳血栓・血栓溶解術（頸部脳血管）（内頸、椎骨動脈）
	102072510	経皮的脳血管回収術
	102080890	経皮的脳血管カテーテル留置術
	102074910	経皮的冠動脈形成術（急性心筋梗塞）
	102075010	経皮的冠動脈形成術（不安定狭心症）
	102075110	経皮的冠動脈形成術（その他）
	102060350	経皮的冠動脈形成術（高圧回転式経皮経管アブレーションカテーテル）
	102064310	経皮的冠動脈形成術（エキシマレーザー血管形成用カテーテル）
	102075210	経皮的冠動脈カテーテル留置術（急性心筋梗塞）
	102075310	経皮的冠動脈カテーテル留置術（不安定狭心症）
	102075410	経皮的冠動脈カテーテル留置術（その他）
	102075500	冠動脈内血栓溶解療法
	102031830	経皮的冠動脈血栓吸引術
	102040040	ステントグラフト内挿術（血管内挿術）
	102030330	ステントグラフト内挿術（腹部大動脈）
	102030410	ステントグラフト内挿術（腹部大動脈）
	102030510	ステントグラフト内挿術（腹部大動脈）
	102030610	血管塞栓術（頭部、頸部、腹腔内血管等）（止血術）
	1020376810	血管塞栓術（頭部、頸部、腹腔内血管等）（選択的動脈化学塞栓術）
	102030710	血管塞栓術（頭部、頸部、腹腔内血管等）（その他）
	102087330	経皮的カテーテル大動脈弁置換術（経皮的冠動脈弁置換術）
	102040710	経皮的カテーテル大動脈弁置換術（心臓中隔穿刺、心外膜アプローチ）
	102062810	経皮的カテーテル大動脈弁置換術（その他）
	102040870	三次元カテーテルマッピング加算
	102070990	術中ナビゲーション加算
	102093330	経皮的冠動脈形成術
	102070730	体外ベースメーキング術
	102040110	ベースメーキング術（心臓置換）
	102040210	ベースメーキング術（経皮的冠動脈）
	1020303210	術中ベースメーキング術
	102087410	経皮的冠動脈形成術（経皮的冠動脈）
	102083250	経皮的冠動脈形成術（経皮的冠動脈）
	102030910	経皮的冠動脈形成術（経皮的冠動脈）
	102047240	経皮的冠動脈形成術（経皮的冠動脈）
C 22 救命等に係る内科的治療（５日間）（③侵襲的な消化器治療）	102030810	内視鏡的食道括約筋切離術（早期悪性腫瘍摘出術）
	102022010	内視鏡的食道・十二指腸・小腸切離術（早期悪性腫瘍摘出術）
	102030210	内視鏡的経鼻胆管置換術（E N B D）
	1020174910	内視鏡的胆道結石除去術（胆道結石を伴う）
	102060510	内視鏡的胆道結石除去術（胆道結石を伴う）
	1020175310	内視鏡的胆道結石除去術（胆道結石を伴う）
	1020175410	内視鏡的胆道結石除去術（胆道結石を伴う）
	102026710	内視鏡的胆道結石除去術（胆道結石を伴う）
	102024410	内視鏡的胆道結石除去術（胆道結石を伴う）
	1020303610	内視鏡的胆道結石除去術（胆道結石を伴う）
	1020378510	肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（２ｃｍ以内）（その他）
	1020378710	肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（２ｃｍを超える）（その他）
	102083910	肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（２ｃｍを超える）（その他）
	102044850	内視鏡的消化管止血術
	102041450	内視鏡的消化管止血術
	102068010	経皮的経口挿入術
	1020188210	E U S - F N A
	102093150	経口挿入術
	102060510	経口挿入術
	102060510	経口挿入術
	102092110	経口挿入術
	102060580	経口挿入術
	102064510	心カテーテル（右心）
	102064610	心カテーテル（左心）
C 24 別に定める手術（６日間）	102081710	眼窩内異物除去術（存在性）（眼窩手術）
	102010000	後鼻孔閉塞手術（複雑）（骨質閉塞）
	102042210	経皮的骨質閉塞手術
	102045710	下顎関節炎起骨術（両側）
	102030710	顎関節炎起骨術（両側）
	102084890	人工口形成術
	1020109710	経口鼻気管口形成術
	102026240	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102010810	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102014510	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102047110	顎関節運動術（顎関節運動術）
	1020903510	顎関節運動術（顎関節運動術）
	1020903910	顎関節運動術（顎関節運動術）
	1020285910	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102049410	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102020450	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102011910	顎関節運動術（顎関節運動術）
	1020607910	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102014430	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102010410	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102010810	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102072610	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102046210	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102047010	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102038110	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102028710	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102044910	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102071810	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102074310	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102044250	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102028310	顎関節運動術（顎関節運動術）
	1020196710	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102013610	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102038630	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102003350	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102068210	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102019910	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102014310	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102058110	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102020910	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102033610	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102047210	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102036110	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102077910	顎関節運動術（顎関節運動術）
	1020133010	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102038810	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102038810	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102028610	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102014450	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102036210	顎関節運動術（顎関節運動術）
	1020108710	顎関節運動術（顎関節運動術）
	102068010	顎関節運動術（顎関節運動術）

重症度、医療・看護必要度の項目	シネプト電算処理システム用コード	診療行為名称
	150353010	難治性悪性性偽関節術（創外固定器）
	150095910	耳耳根治手術
	150102510	結上頸動脈窩交差神経切除術
	150292110	結上頸動脈動脈瘤摘出術
	150398210	内視鏡下パセドウ中核摘出術（嚥全摘）術（両側）
	150211110	女子外性器悪性性腫瘍手術（皮膚移植（帯皮全使用））
	150072960	骨形成的片骨移植切除術と髄液抽出術
	150109010	気管支狭窄手術
	150311510	神経系神経手術（その他）
	150345610	下顎関節突起骨折癒合の手術（片側）
	150072510	脊髄硬膜切開術
	150072610	空骨くも膜下腔ドレーナント術（脊髄空洞症）
	150082610	眼窩悪性腫瘍手術
	150392050	骨移植術（自家骨又は非生体同種骨移植と人工骨移植の併施、特殊）
	150336110	上顎骨形成術（骨移動を含む）
	150352110	硬脳の術後固定術（インプラント周囲骨術）（上顎）
	150121910	乳癌悪性腫瘍手術（拡大乳房切除術（断滅を併施する））
	150073410	脊髄血管腫摘出術
	150298810	気管支性腫瘍手術（嚥全摘）
	150213210	陰茎悪性腫瘍手術
	150274410	下顎骨折癒合の手術（両側）
	150045310	硬脳の術後固定術（股）
	150109810	気管支性手術（管状気管、気管移植等）（頸部から）
	150373110	網膜再建術
	150387610	経静脈電極除去術（レーザージェネシスを用いない）
	150494110	膀胱癌悪性腫瘍（内視鏡によるもの）
	150454510	膀胱癌悪性腫瘍（その他のもの）
	150029710	変形治療骨折矯正手術（上顎）
	150101210	仙骨圧迫骨折形成手術（組織置換）
	150101510	結石手術（仙骨圧迫）
	150398310	仙骨神経刺激装置埋込術（脊髄刺激電極を留置した場合）
	150398410	仙骨神経刺激装置埋込術（ジェネレータを留置した場合）
	150246910	後頭部形成手術
	150096610	リンパ管腫瘍摘出術
	150242550	結皮の増幅非拡張術
	150316310	口唇裂形成手術（両側）（口唇裂形成を伴う）
	150062910	外耳道悪性腫瘍手術
	150011510	四肢・軀幹部悪性性腫瘍手術（肩）
	150055410	足三関節固定（ランプリヌディ）手術
	150011710	四肢・軀幹部悪性性腫瘍手術（前腕）
	150249410	変形性性腫瘍摘出術（内視鏡）
	150005110	顔面神経麻痺形成手術（動的）
	150113110	口唇悪性腫瘍手術
	150120610	頸部悪性腫瘍手術
	150190710	肛門悪性腫瘍手術（切除）
	150404510	陰嚢腫瘍摘出術（内視鏡によるもの）
	150494610	陰嚢腫瘍摘出術（その他のもの）
	150349410	結皮の大動脈形成術
	150045710	硬脳の術後固定術（手）
	150345410	喉頭癌手術（喉頭全摘）
	150099310	鼻副鼻腔悪性性腫瘍手術（全摘）
	150345510	顎・口蓋裂形成手術（顎裂を伴う）（両側）
	150355510	速走神経刺激装置埋込術
	150264410	眼瞼挙筋修復術
	150382210	内視鏡的胆嚢癌全摘除手術（経腹部）
	150344710	前頭頭内視鏡腫瘍摘出術（経頭部）
	150011610	四肢・軀幹部悪性性腫瘍手術（上腕）
	150047910	喉頭癌形成手術（十字縫合）
	150291950	陰茎形成術
	150108110	喉頭悪性腫瘍手術（頸部、胸部、腹部等の操作による再建を含む）
	150011910	四肢・軀幹部悪性性腫瘍手術（下腕）
	150063310	椎間板摘出術（前方摘出術）
	150316410	口唇裂形成手術（両側）（鼻裂形成を伴う）
	150315310	重症症性麻痺治療薬持続内持続注入用機械的ポンプ設置術
	150262610	顔面筋修復術（両側）
	150084410	脊髄裂手術（神経損傷を伴う）
	150255110	脳動脈瘤摘出術（片側）
	150348610	結石門の内視鏡下手術（直腸腫瘍）
	150272810	脊髄硬膜下神経切開術
	150035410	関節脱臼癒合の修復術（膝）
	150296710	結石性性腫瘍手術（結石切除）
	150347310	結石性肺動脈管拡張術（先天性心疾患術後）
	150045810	硬脳の術後固定術（足）
	150253110	小児部手術（軟骨移植による耳介形成手術）
	150353210	関節鏡下関節内骨折癒合の手術（肩）
	150117810	下咽頭性腫瘍手術
	150313310	関節鏡下軟骨術変換手術（十字縫合）
	150373710	内視鏡下鼻・副鼻腔手術5型（拡大副鼻腔手術）
	150111210	口腔癌悪性腫瘍手術
	150116710	上唇形成手術（長線の場合）
	150211010	女子外性器悪性性腫瘍手術（切除）
	150076010	神経移植術
	150316710	動脈（欠・筋（皮））を用いた乳房再建術（乳房切除後）（二次的）
	150334010	全層腹皮術（200cm2以上）
	150398510	乳癌悪性腫瘍手術（乳房乳癌温存乳房切除術（断滅断滅を伴う））
	150298510	下顎骨形成術（両側）
	150290150	結石の胆動脈手術（広汎切除）
	150119810	前中状腺（上皮小体）腫瘍摘出形成手術（前中状腺全摘・一部筋内移植）
	150322810	リンパ管腫瘍摘出術（骨盤）
	150049250	内耳炎手術
	150115210	顔面多発骨折癒合の手術
	150099410	鼻副鼻腔悪性性腫瘍手術（切除）
	150384710	内視鏡下経鼻的腫瘍摘出術（頭蓋底腫瘍（下嚥性腫瘍を除く））
	150063110	椎間板摘出術（前方摘出術）
	150387510	経静脈電極除去術（レーザージェネシスを用いる）
	150274210	鼻骨変形治療骨折矯正術
	150046310	硬脳の術後固定術（膝）
	150094210	皮膚癌性腫瘍摘出術（広汎切除）
	150334210	肩関節脱臼手術（複雑）
	150054010	切開四肢再建手術（指）
	150035210	関節脱臼癒合の修復術（肩）
	150364910	腎臓癌摘出・摘出術（冷凍凝固）
	150118410	耳下腺悪性腫瘍手術（全摘）
	150118310	耳下腺悪性腫瘍手術（切除）
	150255010	内耳炎摘出術
	150365410	膀胱尿管逆流症手術（治療用注入材）
	150073310	脊髄腫瘍摘出術（頸内）
	150071010	結石性下嚥性腫瘍摘出術
	150035310	関節脱臼癒合の修復術（股）
	150264210	結尿道の腎盂尿管腫瘍摘出術
	150112210	舌癌性腫瘍手術（嚥全摘）
	150315010	喉嚢癌悪性腫瘍手術（両側）
	150052850	化膿性又は結核性関節炎摘出術（肩）
	150109310	喉頭形成手術（結舌転位術・軟骨転位術、軟骨除去術）
	150110810	顎・口蓋裂形成手術（硬口蓋に及ぶ）
	150029910	変形治療骨折矯正手術（前腕）
	150136410	リンパ管腫瘍摘出術（頸部）（限局性）
	150384410	関節鏡下関節内骨折癒合の手術（股）
	150345310	喉頭癌手術（喉頭全摘）
	150046110	硬脳の術後固定術（肩）
	150354110	関節鏡下軟骨術変換形成手術（内側膝蓋大腱移転）
	150108210	内視鏡的腫瘍摘出術（前頭・鼻頭・鼻頭等の操作による再建を含む）
	150110910	顎・口蓋裂形成手術（顎裂を伴う）（片側）
	150371710	頸部皮膚手術（頸部腫瘍血管摘付）（乳房再建術）
	150301610	水頭症手術（脳室分流術）（神経内視鏡手術による）
	150114210	口唇裂形成手術（片側）（鼻裂形成を伴う）
	150398910	直腸癌手術（結全摘）（腸管切除を伴う）
	150107810	喉頭悪性腫瘍手術（切除）
	150316610	動脈（欠・筋（皮））を用いた乳房再建術（乳房切除後）（一次的）
	150211810	乳癌悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸壁切除を併施する）
	150045610	硬脳の術後固定術（肘）
	150290950	結皮の大動脈非拡張術
	150454110	硬脳の術後固定術（股）
	150062910	黄斑動脈管化症手術
	150387810	血管移植術・バイパス移植術（膝蓋動脈）
	150308710	四肢・軀幹部悪性性腫瘍手術（軀幹）
	150107910	喉嚢癌性腫瘍手術（全摘）
	150052950	化膿性又は結核性関節炎摘出術（股）
	150294810	尿道下裂形成手術
	150011810	四肢・軀幹部悪性性腫瘍手術（大腿）
	150372210	定位脳腫瘍手術
	150384210	関節鏡下肩関節骨折形成術（腱板断裂を伴う）
	150333910	全層腹皮術（100cm2以上200cm2未満）
	150353410	関節鏡下関節内骨折癒合の手術（肘）
	150296510	人工内耳植込術
	150390510	血管移植術・バイパス移植術（下腿、足部動脈）
	150132010	腎血管性高血圧症手術（結皮の腎血管拡張術）
	150320610	結皮の心房中隔欠損閉鎖術
	150243210	体外式脊髄固定術
	150099210	自家筋膜転位組織移植術（顔面腫瘍血管摘付）
	150008010	皮膚全層移植・移動術（切開・凍結・凍結後）（100cm2以上）
	150118210	耳下腺腫瘍摘出術（耳下腺全摘）
	150112110	舌癌性腫瘍手術（切除）
	150373010	結石性手術（結石摘出術用インプラント挿入術）（プレートあり）
	150396410	乳癌悪性腫瘍手術（乳房乳癌温存乳房切除術（断滅断滅を伴わない））
	150149510	動脈血腔内腫瘍摘出術（その他）
	150396410	結石性内視鏡下腫瘍形成術（腹腔内腫瘍）
	150372310	内視鏡下脳内血腫摘出術
	150096010	結（皮）手術
	150371810	頸部皮膚手術（頸部腫瘍血管摘付）（その他）
	150063050	化膿性又は結核性関節炎摘出術（膝）
	150334310	関節鏡下肩関節骨折形成術（複雑）
	150042610	関節内骨折癒合の手術（肩）
	150045210	硬脳の術後固定術（肘）
	150295610	皮膚全層手術（その他）
	150119310	パセドウ中核摘出術（嚥全摘）術（両側）
	150197010	結尿道の尿管狭窄閉鎖術
	150120410	顔面筋修復術（片側）

重症度、医療・看護必要度の項目	レセプト電算処理システム用コード	診療行為名称
	150073210	脊髄腫瘍摘出術（腫外）
	150384610	内視鏡下経鼻的腫瘍摘出術（下垂体腫瘍）
	150346510	結皮の肺動脈形成術
	150194010	結皮の尿管結石除去術
	150088310	動脈（皮）弁術
	150006710	分層植皮術（200cm <sup>2</sup> 以上）
	150006210	角膜移植術
	150384310	頭部皮下骨間部骨形成術（腫瘍断骨を伴わない）
	150352710	動脈血栓内腫瘍摘出術（内頸動脈）
	150089410	網膜固定術
	150118110	耳下腺腫瘍摘出術（耳下腺浅葉摘出術）
	150119510	甲状腺癌性腫瘍手術（全摘及び亜全摘）
	150094110	乳突閉塞術
	150043010	関節内骨折癒合的手術（針）
	150119410	甲状腺癌性腫瘍手術（切除）
	150203710	乳房癌性腫瘍手術（乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴う））
	150337110	結皮的動脈ステント留置術
	150365710	経尿道的レーザー前立腺切除術（ホルミウムレーザー）
	150379610	経尿道的前立腺手術（経尿道電波凝固術）
	150301710	水頭症手術（シャント手術）
	150314410	内視鏡下椎間板摘出（切除）術（後方摘出術）
	150343810	関節鏡下肩関節断裂手術（関節）
	150388310	気管形成手術（耳小骨再建術）
	150398610	気管形成手術（耳小骨再建術）
	150121710	乳房癌性腫瘍手術（乳房切除術・腋窩切除を伴わない）
	150373610	内視鏡下鼻・副鼻腔手術4型（汎副鼻腔手術）
	150063210	椎間板摘出術（後方摘出術）
	150313710	関節鏡下靭帯断裂形成手術（十字靭帯）
	150392150	骨移植術（自家骨又は死牛体同種骨移植と人工骨移植の併施、その他）
	150316510	乳房癌性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない））
	150373510	内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型（選択的（複数回）副鼻腔手術）
	150303110	乳房癌性腫瘍手術（乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴わない））

## 別紙 8

### 医療区分・ADL区分等に係る評価票 評価の手引き

「医療区分・ADL区分等に係る評価票」の記入に当たっては、各項目の「項目の定義」に該当するか否かを判定すること。また、各項目の評価の単位については、「評価の単位」及び「留意点」に従うこと。

なお、「該当する」と判定した場合には、診療録にその根拠を記載すること。ただし、判定以降に患者の状態等の変化がない場合には、診療録に記載しなくても良いが、状態等の変化が見られた場合には診療録にその根拠を記載すること。

#### I. 算定期間に限りがある区分

##### (1) 【医療区分3(別表第五の二)】

###### 1. 24時間持続して点滴を実施している状態

###### 項目の定義

24時間持続して点滴を実施している状態

###### 評価の単位

1日毎

###### 留意点

本項目でいう24時間持続して点滴を実施している状態とは、経口摂取が困難な場合、循環動態が不安定な場合又は電解質異常が認められるなど体液の不均衡が認められる場合に限るものとする。(初日を含む。)  
また、連続した7日間を超えて24時間持続して点滴を行った場合は、8日目以降は該当しないものとする。ただし、一旦非該当となった後、再び病状が悪化した場合には、本項目に該当する。

##### (2) 【医療区分2(別表第五の三)】

###### 2. 尿路感染症に対する治療を実施している状態

###### 項目の定義

尿沈渣で細菌尿が確認された場合、もしくは白血球尿(>10/HPF)であって、尿路感染症に対する治療を実施している状態

###### 評価の単位

1日毎

留意点

連続する14日間を限度とし、15日目以降は該当しない。ただし、一旦非該当となった後、再び病状が悪化した場合には、本項目に該当する。

3. 傷病等によりリハビリテーションが必要な状態(原因となる傷病等の発症後、30日以内の場合で、実際にリハビリテーションを行っている場合に限る。)

項目の定義

傷病等によりリハビリテーションが必要な状態(原因となる傷病等の発症後、30日以内の場合で、実際にリハビリテーションを行っている場合に限る。)

評価の単位

1日毎

留意点

実施されるリハビリテーションは、医科点数表上のリハビリテーションの部に規定されるものであること。リハビリテーションについては、継続的に適切に行われていれば、毎日行われている必要はないものとする。

4. 脱水に対する治療を実施している状態、かつ、発熱を伴う状態

項目の定義

脱水に対する治療を実施している状態、かつ、発熱を伴う状態

評価の単位

1日毎

留意点

発熱に対する治療を行っている場合に限る。  
尿量減少、体重減少、BUN／Cre 比の上昇等が認められ、脱水に対する治療を実施している状態。  
連続した 7 日間を超えて脱水に対する治療を行った場合は、8日目以降は該当しない。ただし、一旦非該当となった後、再び病状が悪化した場合には、本項目に該当する。

5. 消化管等の体内からの出血が反復継続している状態

項目の定義

消化管等の体内からの出血が反復継続している状態

評価の単位

1日毎

留意点

本項目でいう消化管等の体内からの出血が反復継続している状態とは、例えば、黒色便、コーヒー残渣様嘔吐、咯血、痔核を除く持続性の便潜血が認められる状態をいう。  
出血を認めた日から7日間まで、本項目に該当するものとする。

6. 頻回の嘔吐に対する治療を実施している状態、かつ、発熱を伴う状態

項目の定義

頻回の嘔吐に対する治療を実施している状態(1日に複数回の嘔吐がある場合に限る。)

評価の単位

1日毎

留意点

発熱に対する治療が行われている場合に限る。  
嘔吐のあった日から3日間は、本項目に該当する。

7. せん妄に対する治療を実施している状態

項目の定義

せん妄に対する治療を実施している状態(せん妄の症状に対応する治療を行っている場合に限る。)

評価の単位

1日毎

留意点

「せん妄の兆候」は、以下の6項目のうち「この7日間は通常の状態と異なる」に該当する項目が1つ以上ある場合、本項目に該当するものとする。

- a. 注意がそらされやすい
- b. 周囲の環境に関する認識が変化する
- c. 支離滅裂な会話が時々ある
- d. 落ち着きがない
- e. 無気力
- f. 認知能力が1日の中で変動する

7日間を限度とし、8日目以降は該当しないものとする。ただし、一旦非該当となった後、再び病状が悪化した場合には、本項目に該当する。



8. 経鼻胃管や胃瘻等の経腸栄養が行われており、かつ、発熱又は嘔吐を伴う状態

項目の定義

経鼻胃管や胃瘻等の経腸栄養が行われており、かつ、発熱又は嘔吐を伴う状態

評価の単位

1日毎

留意点

発熱又は嘔吐に対する治療を行っている場合に限る。  
連続する7日間を限度とし、8日目以降は該当しないものとする。ただし、一旦非該当となった後、再び病状が悪化した場合には、本項目に該当する。

9. 頻回の血糖検査を実施している状態

項目の定義

頻回の血糖検査を実施している状態(1日3回以上の血糖検査が必要な場合に限る。)

評価の単位

1日毎

留意点

糖尿病に対するインスリン製剤又はソマトメジンC製剤の注射を1日1回以上行い、1日3回以上の頻回の血糖検査が必要な状態に限る。なお、検査日から3日間まで、本項目に該当するものとする。

Ⅱ. 算定期間に限りがない区分

(1) 【医療区分3(別表第五の二)】

10. スモン

項目の定義

スモン(「特定疾患治療研究事業について」(昭和48年4月17日衛発第242号)に定めるものを対象とする。)に罹患している状態

評価の単位

—

留意点

特定疾患医療受給者証の交付を受けているもの又は過去に当該疾患の公的な認定を受けたことが確認できる場合等をいう。

11. 欠番

12. 医師及び看護職員により、常時、監視及び管理を実施している状態

項目の定義

循環動態および呼吸状態が不安定なため、常時、動脈血酸素飽和度、血圧、心電図、呼吸等のバイタルサインを観察する必要がある等、医師及び看護職員により、24時間体制での監視及び管理を必要とする状態

評価の単位

1日毎

留意点

少なくとも連続して24時間以上「項目の定義」に該当する状態にあること。（初日を含む。）  
動脈血酸素飽和度、血圧、心電図、呼吸等のバイタルサインが、少なくとも4時間以内の間隔で観察されていること。ただし、医師による治療方針に関する確認が行われていない場合は該当しない。  
なお、当該項目は、当該項目を除く医療区分3又は医療区分2の項目に、1つ以上の該当項目がある場合に限り医療区分3として取り扱うものとし、それ以外の場合は医療区分2として取り扱うものとする。

13. 中心静脈栄養を実施している状態

項目の定義

中心静脈栄養を実施している状態

評価の単位

1日毎

留意点

本項目でいう中心静脈栄養とは、消化管の異常、悪性腫瘍等のため消化管からの栄養摂取が困難な場合に行うものに限るものとし、単に末梢血管確保が困難であるために行うものはこれに含まない。ただし、経管栄養のみでカロリー不足の場合については、離脱についての計画を作成し実施している場合に限り、経管栄養との一部併用の場合も該当するものとする。  
なお、毎月末において、当該中心静脈栄養を必要とする状態に該当しているか確認を行い、その結果を診療録等に記載すること。

14. 人工呼吸器を使用している状態

項目の定義

人工呼吸器を使用している状態

評価の単位

1日毎

留意点

診療報酬の算定方法の別表第一第2章第9部の「J045 人工呼吸」の「3 5時間を超えた場合(1日につき)」を算定している場合に限る。

15. ドレーン法又は胸腔若しくは腹腔の洗浄を実施している状態

項目の定義

ドレーン法又は胸腔若しくは腹腔の洗浄を実施している状態

評価の単位

1日毎

留意点

胸腔または腹腔のドレーン又は洗浄を実施しているものに限る。

16. 気管切開又は気管内挿管が行われており、かつ、発熱を伴う状態

項目の定義

気管切開又は気管内挿管が行われており、かつ、発熱を伴う状態

評価の単位

1日毎

留意点

投薬、処置等、発熱に対する治療が行われている場合に限る。

17. 酸素療法を実施している状態(密度の高い治療を要する状態に限る。)

項目の定義

酸素療法を実施している状態であって、次のいずれかに該当するもの

- ・常時流量3L/分以上を必要とする場合
- ・肺炎等急性増悪により点滴治療を実施した場合
- ・NYHA 重症度分類のⅢ度又はⅣ度の心不全の状態である場合

評価の単位

1日毎

留意点

酸素非投与下において、安静時、睡眠時、運動負荷いずれかで動脈血酸素飽和度が 90%以下となる状態であって、以下の(1)又は(2)の状態。

(1) 安静時に3L/分未満の酸素投与下で動脈血酸素飽和度 90%以上を維持できないが、3L/分以上で維持できる状態。

(2) 安静時に3L/分未満の酸素投与下で動脈血酸素飽和度 90%以上を維持できる状態であって、肺炎等急性増悪により点滴治療を実施した場合又は NYHA 重症度分類のⅢ度若しくはⅣ度の心不全の状態である場合。なお、肺炎等急性増悪により点滴治療を実施した場合については、点滴を実施した日から 30 日間まで、本項目に該当するものとする。

なお、毎月末において当該酸素療法を必要とする状態に該当しているか確認を行い、その結果を診療録等に記載すること。

18. 感染症の治療の必要性から隔離室での管理を実施している状態

項目の定義

感染症の治療の必要性から隔離室での管理を実施している状態

評価の単位

1日毎

留意点

感染症に対する治療又は管理が行われている期間に限る。

## (2) 医療区分2(別表第五の三)

### 19. 筋ジストロフィー

#### 項目の定義

筋ジストロフィー(難病の患者に対する医療等に関する法律第5条に規定する指定難病(同法第7条第4項に規定する医療受給者証を交付されている患者(同条第1項各号に規定する特定医療費の支給認定に係る基準を満たすものとして診断を受けたものを含む。)に係るものに限る。))として定めるものを対象とする。)に罹患している状態

#### 評価の単位

—

#### 留意点

筋ジストロフィーに罹患している患者であって、医療受給者証を交付されているもの、又は、特定医療費の支給認定に係る基準を満たす状態にあることを医療機関において確実に診断されるものに限る。

### 20. 多発性硬化症

#### 項目の定義

多発性硬化症(難病の患者に対する医療等に関する法律第5条に規定する指定難病(同法第7条第4項に規定する医療受給者証を交付されている患者(同条第1項各号に規定する特定医療費の支給認定に係る基準を満たすものとして診断を受けたものを含む。)に係るものに限る。))として定めるものを対象とする。)に罹患している状態

#### 評価の単位

—

#### 留意点

多発性硬化症に罹患している患者であって、医療受給者証を交付されているもの、又は、特定医療費の支給認定に係る基準を満たす状態にあることを医療機関において確実に診断されるものに限る。

### 21. 筋萎縮性側索硬化症

#### 項目の定義

筋萎縮性側索硬化症(難病の患者に対する医療等に関する法律第5条に規定する指定難病(同法第7条第4項に規定する医療受給者証を交付されている患者(同条第1項各号に規定する特定医療費の支給認定に係る基準を満たすものとして診断を受けたものを含む。)に係るものに限る。))として定めるものを対象とする。)に罹患している状態

#### 評価の単位

—

#### 留意点

筋萎縮性側索硬化症に罹患している患者であって、医療受給者証を交付されているもの、又は、特定医療費の支給認定に係る基準を満たす状態にあることを医療機関において確実に診断されるものに限る。

22. パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、パーキンソン病(ホーエン・ヤールの重症度分類がステージ3以上であって生活機能障害度がⅡ度又はⅢ度の状態に限る。))

#### 項目の定義

パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、パーキンソン病(ホーエン・ヤールの重症度分類がステージ3以上であって生活機能障害度がⅡ度又はⅢ度のものに限る。))に罹患している状態。  
進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病については、難病の患者に対する医療等に関する法律第5条に規定する指定難病(同法第7条第4項に規定する医療受給者証を交付されている患者(同条第1項各号に規定する特定医療費の支給認定に係る基準を満たすものとして診断を受けたものを含む。))に係るものに限る。)として定めるものを対象とする。

#### 評価の単位

—

#### 留意点

進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症又はパーキンソン病に罹患している患者であって、医療受給者証を交付されているもの、又は、特定医療費の支給認定に係る基準を満たす状態にあることを医療機関において確実に診断されるものに限る。また、パーキンソン症候群は含まない。

23. その他の指定難病等

#### 項目の定義

以下の(1)、(2)又は(3)に掲げる疾患に罹患している状態。  
(1) 難病の患者に対する医療等に関する法律第5条に規定する指定難病(同法第7条第4項に規定する医療受給者証を交付されている患者(同条第1項各号に規定する特定医療費の支給認定に係る基準を満たすものとして診断を受けたものを含む。))に係るものに限る。ただし、筋ジストロフィー、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症及びパーキンソン病関連疾患を除く。  
(2) 「特定疾患治療研究事業について」(昭和 48 年4月 17 日衛発第 242 号)に掲げる疾患(当該疾患に罹患している患者として都道府県知事から受給者証の交付を受けているものに限る。)。ただし、スモンを除く。  
(3) 「先天性血液凝固因子障害等治療研究事業実施要綱について」(平成元年7月 24 日健医発第 896 号)に掲げる疾患(当該疾患に罹患している患者として都道府県知事から受給者証の交付を受けているものに限る。)

#### 評価の単位

—

留意点

(1)については、指定難病に罹患している患者であって、医療受給者証を交付されているもの、又は、特定医療費の支給認定に係る基準を満たす状態にあることを医療機関において確実に診断されるものに限る。  
(2)及び(3)については、受給者証の交付を受けているものに限る。

24. 脊髄損傷(頸椎損傷を原因とする麻痺が四肢すべてに認められる場合に限る。)

項目の定義

脊髄損傷(頸椎損傷を原因とする麻痺が四肢すべてに認められる場合に限る。)

評価の単位

—

留意点

頸椎損傷の場合に限り該当するものとする。

25. 慢性閉塞性肺疾患(ヒュー・ジョーンズの分類がⅤ度の状態に該当する場合に限る。)

項目の定義

慢性閉塞性肺疾患(ヒュー・ジョーンズの分類がⅤ度の状態に該当する場合に限る。)

評価の単位

—

留意点

—

26. 人工腎臓、持続緩徐式血液濾過、腹膜灌流又は血漿交換療法を実施している状態

項目の定義

人工腎臓、持続緩徐式血液濾過、腹膜灌流又は血漿交換療法を実施している状態

評価の単位

月1回

留意点

人工腎臓、持続緩徐式血液濾過、腹膜灌流又は血漿交換療法について、継続的に適切に行われていれば、毎日行われている必要はないものとする。

27. 欠番

28. 省略

29. 悪性腫瘍(医療用麻薬等の薬剤投与による疼痛コントロールが必要な場合に限る。)

項目の定義

悪性腫瘍(医療用麻薬等の薬剤投与による疼痛コントロールが必要な場合に限る。)

評価の単位

1日毎

留意点

ここでいう医療用麻薬等とは、WHO's pain ladder に定められる第2段階以上のものをいう。

30. 肺炎に対する治療を実施している状態

項目の定義

肺炎に対し画像診断及び血液検査を行い、肺野に明らかな浸潤影を認め、血液検査上炎症所見を伴い、治療が必要な状態

評価の単位

1日毎

留意点

—



31. 褥瘡に対する治療を実施している状態 (DESIGN-R 分類d2以上の場合又は褥瘡が2カ所以上に認められる場合に限る。)

項目の定義

褥瘡に対する治療を実施している状態 (DESIGN-R 分類d2以上に該当する場合若しくは褥瘡が2か所以上に認められる状態に限る。)

- d0: 皮膚損傷・発赤無し
- d1: 持続する発赤
- d2: 真皮までの損傷
- D3: 皮下組織までの損傷
- D4: 皮下組織を超える損傷
- D5: 関節腔、体腔に至る損傷
- DU: 深さ判定が不能の場合

評価の単位

1日毎

留意点

部位、大きさ、深度等の褥瘡の程度について診療録に記載し、それぞれについての治療計画を立て治療を実施している場合に該当するものとする。

ただし、入院又は転院時既に発生していた褥瘡に限り、治癒又は軽快後も30日間に限り、引き続き医療区分2として取り扱うことができる。ただし、当該取り扱いを行う場合については、入院している患者に係る褥瘡の発生割合について、患者または家族の求めに応じて説明を行うこと。

32. 末梢循環障害による下肢末端の開放創に対する治療を実施している状態

項目の定義

末梢循環障害による下肢末端の開放創に対する治療を実施している状態 (以下の分類にて第2度以上に該当する場合に限る。)

- 第1度: 皮膚の発赤が持続している部位があり、圧迫を取り除いても消失しない (皮膚の損傷はない)
- 第2度: 皮膚層の部分的喪失: びらん、水疱、浅いくぼみとして表れる
- 第3度: 皮膚層がなくなり潰瘍が皮下組織にまで及ぶ。深いくぼみとして表れ、隣接組織まで及んでいることもあれば、及んでいないこともある
- 第4度: 皮膚層と皮下組織が失われ、筋肉や骨が露出している

評価の単位

1日毎

留意点

—

33. うつ症状に対する治療を実施している状態

項目の定義

うつ症状に対する治療を実施している状態(精神保健指定医の処方によりうつ症状に対する薬を投与している場合、入院精神療法、精神科作業療法及び心身医学療法など、「診療報酬の算定方法」別表第一第2章第8部の精神科専門療法のいずれかを算定している場合に限る。)

評価の単位

1日毎

留意点

「うつ症状」は、以下の7項目のそれぞれについて、うつ症状が初めてみられた日以降において、3日間のうち毎日観察された場合を2点、1日又は2日観察された場合を1点として評価を行う。

- a.否定的な言葉を言った
- b.自分や他者に対する継続した怒り
- c.現実には起こりそうもないことに対する恐れを表現した
- d.健康上の不満を繰返した
- e.たびたび不安、心配事を訴えた
- f.悲しみ、苦悩、心配した表情
- g.何回も泣いたり涙もろい

本評価によって、3日間における7項目の合計が4点以上であり、かつ、うつ症状に対する治療が行われている場合に限る。

なお、医師を含めた当該病棟(床)の医療従事者により、原因や治療方針等について検討を行い、治療方針に基づき実施したケアの内容について診療録等に記載すること。

34. 他者に対する暴行が毎日認められる状態

項目の定義

他者に対する暴行が毎日認められる状態

評価の単位

1日毎

留意点

本項目でいう他者に対する暴行が毎日認められる状態とは、例えば、他者を打つ、押す、ひっかく等が認められる状態をいう。なお、医師又は看護師の合計2名以上(ただし、少なくとも1名は医師であることとする)により「他者に対する暴行が毎日認められる」との判断の一致がある場合に限る。  
なお、医師を含めた当該病棟(床)の医療従事者により、原因や治療方針等について検討を行い、治療方針に基づき実施したケアの内容について診療録等に記載すること。

35. 1日8回以上の喀痰吸引を実施している状態

項目の定義

1日8回以上の喀痰吸引を実施している状態

評価の単位

1日毎

留意点

本項目でいう1日8回以上の喀痰吸引とは、夜間を含め3時間に1回程度の喀痰吸引を行っていることをいう。

36. 気管切開又は気管内挿管が行われている状態(発熱を伴う状態を除く。)

項目の定義

気管切開又は気管内挿管が行われている状態(発熱を伴う状態を除く。)

評価の単位

1日毎

留意点

—

37. 創傷(手術創や感染創を含む。)、皮膚潰瘍又は下腿若しくは足部の蜂巣炎、膿等の感染症に対する治療を実施している状態

項目の定義

創傷(手術創や感染創を含む。)、皮膚潰瘍又は下腿若しくは足部の蜂巣炎、膿等の感染症に対する治療を実施している状態(1日2回以上、ガーゼや創傷被覆材の交換が必要な場合に限る。)

評価の単位

1日毎

留意点

—

38. 酸素療法を実施している状態(密度の高い治療を要する状態を除く。)

項目の定義

酸素療法を実施している状態

評価の単位

1日毎

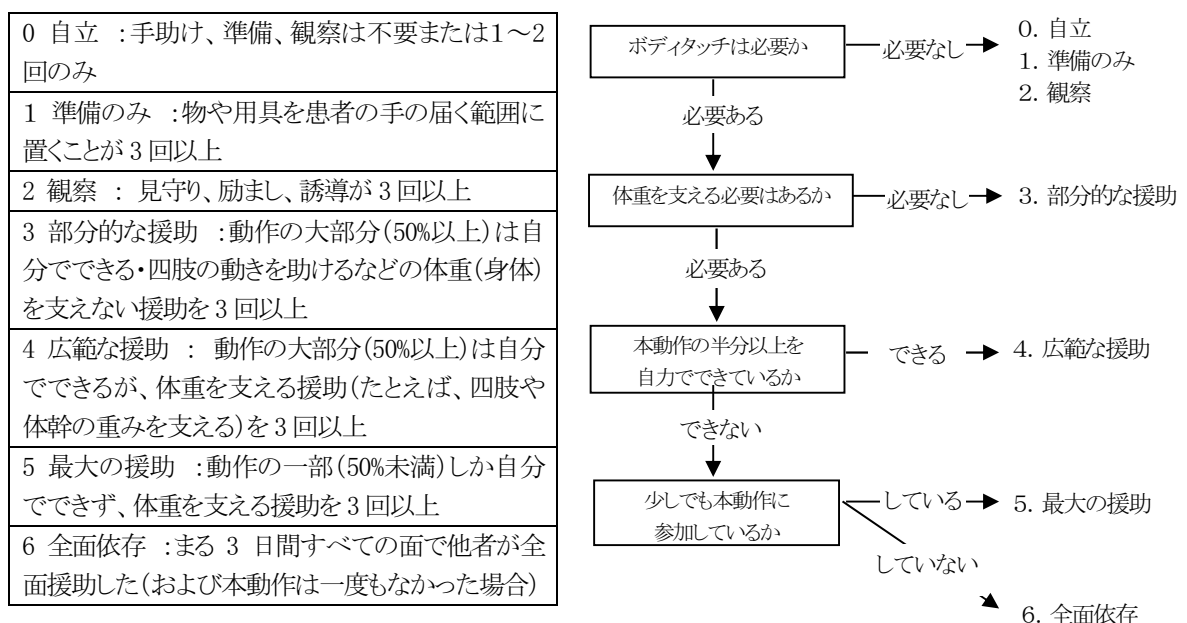
留意点

酸素非投与下において、安静時、睡眠時、運動負荷いずれかで動脈血酸素飽和度が 90%以下となる状態であって、医療区分3に該当する状態を除く。すなわち、安静時に3L／分未満の酸素投与下で動脈血酸素飽和度 90%以上を維持できる状態(肺炎等急性増悪により点滴治療を要した状態(点滴を実施した日から 30 日間までに限る。)及び NYHA 重症度分類のⅢ度又はⅣ度の心不全の状態を除く。)をいう。なお、毎月末において当該酸素療法を必要とする状態に該当しているか確認を行い、その結果を診療録等に記載すること。

### Ⅲ. ADL区分

当日を含む過去3日間の全勤務帯における患者に対する支援のレベルについて、下記の4項目(a. ～d. )に0～6の範囲で最も近いものを記入し合計する。新入院(転棟)の場合は、入院(転棟)後の状態について評価する。

項目	内容	支援のレベル
a. ベッド上の可動性	横になった状態からどのように動くか、寝返りをうったり、起き上がったり、ベッド上の身体の位置を調整する	
b. 移乗	ベッドからどのように、いすや車いすに座ったり、立ち上がるか(浴槽や便座への移乗は除く)	
c. 食事	どのように食べたり、飲んだりするか。 (上手、下手に関係なく)経管や経静脈栄養も含む	
d. トイレの使用	どのようにトイレ(ポータブルトイレ、便器、尿器を含む)を使用するか。 排泄後の始末、おむつの替え、人工肛門またはカテーテルの管理、衣服を整える(移乗は除く)	
(合計点)		



## IV. その他

### 91. 身体抑制を実施している

#### 項目の定義

次のいずれかの行為を1つでも行った場合

- ・四肢の抑制
- ・体幹部の抑制
- ・ベッドを柵(サイドレール)で囲む
- ・介護衣(つなぎ服)の着用
- ・車いすや椅子から立ち上がることができないようにする(抑制のための腰ベルトや立ち上がることができない椅子の使用)
- ・ミトンの着用(手指の機能抑制)
- ・自分の意思で開けることのできない居室等への隔離

#### 留意点

身体抑制を実施する場合は、身体抑制実施に係る3つの要件(切迫性・非代替性・一時性)に該当すること。また、3つの要件の該当状況、実施した身体抑制の行為、目的、理由及び抑制時間に関して、診療録等に記録すること。

## 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準（抜粋）

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
II a	家庭外で上記 II の状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内でも上記 II の状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の応対や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	
III a	日中を中心として上記 III の状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
III b	夜間を中心として上記 III の状態が見られる。	ランク III a に同じ
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランク III に同じ
M	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」の活用について（平成18年4月3日老発第0403003号） 厚生省老人保健福祉局長通知

## 障害老人の日常生活自立度（寝たきり度）判定基準（抜粋）

生活自立	ランク J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する 1 交通機関等を利用して外出する 2 隣近所へなら外出する
準寝たきり	ランク A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランク B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが座位を保つ 1 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2 介助により車椅子に移乗する
	ランク C	1 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1 自力で寝返りをうつ 2 自力で寝返りもうたない

※判定に当たっては補装具や自助具等の器具を使用した状態であっても差し支えない。

「障害老人の日常生活自立度（寝たきり度）判定基準」の活用について（平成3年11月18日 老健第102－2号） 厚生省大臣官房老人保健福祉部長通知



## 超重症児（者）・準超重症児（者）の判定基準

以下の各項目に規定する状態が 6 か月以上継続する場合<sup>※1</sup>に、それぞれのスコアを合算する。

1. 運動機能：座位まで	
2. 判定スコア	(スコア)
(1) レスピレーター管理 <sup>※2</sup>	=10
(2) 気管内挿管，気管切開	= 8
(3) 鼻咽頭エアウェイ	= 5
(4) O <sub>2</sub> 吸入又は SpO <sub>2</sub> 90%以下の状態が 10%以上	= 5
(5) 1 回／時間以上の頻回の吸引	= 8
6 回／日以上以上の頻回の吸引	= 3
(6) ネブライザー 6 回／日以上または継続使用	= 3
(7) IVH	=10
(8) 経口摂取（全介助） <sup>※3</sup>	= 3
経管（経鼻・胃ろう含む） <sup>※3</sup>	= 5
(9) 腸ろう・腸管栄養 <sup>※3</sup>	= 8
持続注入ポンプ使用（腸ろう・腸管栄養時）	= 3
(10) 手術・服薬にても改善しない過緊張で、 発汗による更衣と姿勢修正を 3 回／日以上	= 3
(11) 継続する透析（腹膜灌流を含む）	=10
(12) 定期導尿（3 回／日以上） <sup>※4</sup>	= 5
(13) 人工肛門	= 5
(14) 体位交換 6 回／日以上	= 3

## 〈判 定〉

1 の運動機能が座位までであり、かつ、2 の判定スコアの合計が 25 点以上の場合を超重症児（者）、10 点以上 25 点未満である場合を準超重症児（者）とする。

※1 新生児集中治療室を退室した児であって当該治療室での状態が引き続き継続する児については、当該状態が 1 か月以上継続する場合とする。ただし、新生児集中治療室を退室した後の症状増悪、又は新たな疾患の発生についてはその後の状態が 6 か月以上継続する場合とする。

※2 毎日行う機械的気道加圧を要するカマシ・NIPPV・CPAP などは、レスピレーター管理に含む。

※3 (8) (9) は経口摂取、経管、腸ろう・腸管栄養のいずれかを選択。

※4 人工膀胱を含む

別紙 14 の 2

強度行動障害児(者)の医療度判定基準

I 強度行動障害スコア

行動障害の内容	行動障害の目安の例示	1点	3点	5点
1 ひどく自分の体を叩いたり傷つけたりする等の行為	肉が見えたり、頭部が変形に至るような叩きをしたり、つめをはぐなど。	週1回以上	日1回以上	1日中
2 ひどく叩いたり蹴ったりする等の行為	噛みつき、蹴り、なぐり、髪ひき、頭突きなど、相手が怪我をしかねないような行動など。	月1回以上	週1回以上	1日に頻回
3 激しいこだわり	強く指示しても、どうしても服を脱ぐとか、どうしても外出を拒みとおす、何百メートルも離れた場所に戻り取りに行く、などの行為で止めても止めきれないもの。	週1回以上	日1回以上	1日に頻回
4 激しい器物破損	ガラス、家具、ドア、茶碗、椅子、眼鏡などをこわし、その結果危害が本人にもまわりにも大きいもの、服をなんとしてでも破ってしまうなど。	月1回以上	週1回以上	1日に頻回
5 睡眠障害	昼夜が逆転してしまっている、ベッドについていられず人や物に危害を加えるなど。	月1回以上	週1回以上	ほぼ毎日
6 食べられないものを口に入れたり、過食、反すう等の食事に関する行動	テーブルごとひっくり返す、食器ごと投げるとか、椅子に座っていれず、皆と一緒に食事できない。便や釘・石などを食べ体に異常をきたした偏食など。	週1回以上	ほぼ毎日	ほぼ毎食
7 排泄つに関する強度の障害	便を手でこねたり、便を投げたり、便を壁面になすりつける。強迫的に排尿排便行為を繰り返すなど。	月1回以上	週1回以上	ほぼ毎日
8 著しい多動	身体・生命の危険につながる飛び出しをする。目を離すと一時も座れず走り回る。ベランダの上など高く危険なところに上る。	月1回以上	週1回以上	ほぼ毎日
9 通常と違う声を上げたり、大声を出す等の行動	たえられない様な大声を出す。一度泣き始めると大泣きが何時間も続く。	ほぼ毎日	1日中	絶えず
10 パニックへの対応が困難	一度パニックが出ると、体力的にもとてもおさめられずつきあっていられない状態を呈する。			困難
11 他人に恐怖感を与える程度の粗暴な行為があり、対応が困難	日常生活のちょっとしたことを注意しても、爆発的な行動を呈し、かかわっている側が恐怖を感じさせられるような状況がある。			困難

## Ⅱ 医療度判定スコア

1 行動障害に対する専門医療の実施の有無	
① 向精神薬等による治療	5点
② 行動療法、動作法、TEACCHなどの技法を取り入れた薬物療法以外の専門医療	5点
2 神経・精神疾患の合併状態	
① 著しい視聴覚障害（全盲などがあり、かつ何らかの手段で移動する能力をもつ）	5点
② てんかん発作が週1回以上、または6ヶ月以内のてんかん重積発作の既往	5点
③ 自閉症等によりこだわりが著しく対応困難	5点
④ その他の精神疾患や不眠に対し向精神薬等による治療が必要	5点
3 身体疾患の合併状態	
① 自傷・他害による外傷、多動・てんかん発作での転倒による外傷の治療（6ヶ月以内に）	3点
② 慢性擦過傷・皮疹などによる外用剤・軟膏処置（6ヶ月以内に1ヶ月以上継続）	3点
③ 便秘のため週2回以上の浣腸、または座薬（下剤は定期内服していること）	3点
④ 呼吸器感染のための検査・処置・治療（6ヶ月以内にあれば）	3点
⑤ その他の身体疾患での検査・治療 （定期薬内服による副作用チェックのための検査以外、6ヶ月以内にあれば）	3点
4 自傷・他害・事故による外傷等のリスクを有する行動障害への対応	
① 行動障害のため常に1対1の対応が必要	3点
② 行動障害のため個室対応等が必要（1対1の対応でも開放処遇困難）	5点
③ 行動障害のため個室対応でも処遇困難（自傷、多動による転倒・外傷の危険） ※） いずれか一つを選択	10点
5 患者自身の死亡に繋がるリスクを有する行動障害への対応	
① 食事（異食、他害につながるような盗食、詰め込みによる窒息の危険など）	3. 5点
② 排泄（排泄訓練が必要、糞食やトイレの水飲み、多動による転倒・外傷の危険）	3. 5点
③ 移動（多動のためどこへ行くか分からない、多動による転倒・外傷の危険）	3. 5点
④ 入浴（多動による転倒・外傷・溺水の危険、多飲による水中毒の危険）	3. 5点
⑤ 更衣（破衣・脱衣のための窒息の危険、異食の危険） ※） 次により配点 ・常時1対1で医療的観察が必要な場合及び入院期間中の生命の危機回避のため個室対応や個別の時間での対応を行っている場合（5点） ・時に1対1で医療的観察が必要な場合（3点）	3. 5点

注)「強度行動障害児(者)の医療度判定基準 評価の手引き」に基づき評価を行うこと。  
「Ⅰ」が10点以上、かつ「Ⅱ」が24点以上。

## 「強度行動障害児(者)の医療度判定基準」評価の手引き

### I 強度行動障害スコア

- 1 行動障害は、過去半年以上その行動が続いている場合を評価する。周期性のある行動障害についても半年を基準に、その行動の出現有無でチェックする。例えば、情緒不安定でパニックを起こしても評価時から6カ月以前の行動であれば該当しない。
- 2 定期薬服用者は服用している状態で評価する（向精神薬・抗てんかん薬など）。
- 3 頓服の不穏時薬・不眠時薬・注射等は使用しない状態で評価する。
- 4 現在身体疾患で一時的にベッド安静などの場合は、半年以内であれば治癒・回復を想定して評価する。半年以上継続していれば現在の状態で評価する。
- 5 評価は年1回以上定期的に行い、複数職種（医師、児童指導員、看護師など）でチェックを行う。
- 6 項目別留意点
  - (1) 「1 ひどい自傷」は、自傷行為を防ぐための装具（ヘッドギアなど）は着用していない状態を想定して評価する。
  - (2) 「4 はげしい物壊し」は、器材や玩具などを自由に使用できる環境を想定して評価する。
  - (3) 「5 睡眠の大きな乱れ」は、問題行動があつて個室使用している場合は大部屋を想定して評価する。
  - (4) 「6 食事関係の強い障害」は、離席や盗食防止のための身体拘束があれば、開放状態を想定して評価する。問題行動のために食事場所を変える・時間をずらすなどの状態であれば本来の場所・時間を想定して評価する。
  - (5) 「7 排泄関係の著しい障害」は、オムツ使用であればその状態で評価する。つなぎなどの予防衣使用者は着用していない状態を想定して評価する。
  - (6) 「8 著しい多動」の項目は、開放病棟・行動制限なしの状況で評価する。

### II 医療度判定スコア

- 1 患者特性に応じた個別の治療をチームとして統一性と一貫性のある計画的な診療を行うため、次を実施することを前提として配点
  - (1) 多面的な治療を計画的に提供するため、医師、看護師、児童指導員、保育士、臨床心理士、作業療法士等から構成されるチームにより、カンファレンスを実施し、患者の治療・観察必要性の評価、治療目標の共有化を図り、各職種の専門性を生かした診療計画を立案。
  - (2) 当該診療計画の実施について、当該チームによる定期的なカンファレンスを実施し、評価を

行い、診療録に記載。

- (3) 患者の状態に応じ、当該診療計画に見直しも行いつつ、評価、計画、実施、再評価のサイクルを重ねる。

## 2 行動障害に対する専門医療の実施有無

- (1) ①の「向精神薬等」とは、抗精神病薬、抗うつ薬、抗躁薬、抗てんかん薬、気分安定薬（mood stabilizers）、抗不安薬、睡眠導入剤のほか、漢方薬なども含む。
- (2) ②は行動療法・動作法・TEACCHなどの技法を取り入れた薬物療法以外の治療的アプローチによる行動修正を行う専門医療。

## 3 神経・精神疾患の合併状態

- (1) ③の「自閉症等」とは広汎性発達障害全般（自閉症スペクトラム障害全般）を指す。
- (2) ④の「その他の精神疾患」とは、統合失調症、気分障害などを指す。「向精神薬等」は2－(1)と同様。

## 4 身体疾患の合併状態

- (1) ①は抗生剤等の内服・点滴、創部処置、縫合を含む。
- (2) ④は胸部レントゲン検査や抗生剤内服または点滴治療などを含む。
- (3) ⑤の「その他の身体疾患」とは、低体温、GER・反すうを繰り返すことによる嘔吐・誤嚥、眼科・耳鼻科疾患、婦人科的疾患、循環器疾患、骨折やその他の整形外科的疾患、機能悪化・維持・改善のためのリハビリなども含む。

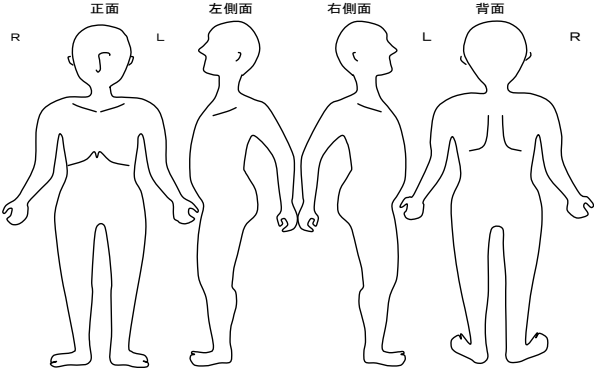
## 5 自傷・他害・事故による外傷等のリスクを有する行動障害への対応

- (1) ①、②、③はいずれか一つをチェックする。
- (2) ②の「個室対応等」とは、個別の環境設定やスケジュール調整などにより、本来は個室使用が必要な患者を個室以外で保護・重点観察している場合も含める。

## 6 患者自身の死亡に繋がるリスクを有する行動障害への対応

現在患者が生活している環境で評価するが、各項目に関連する理由で個室対応や個別の時間での対応を行っている場合は5点とみなす。

## 褥瘡リスクアセスメント票・褥瘡予防治療計画書

氏 名： 様		病棟	評価日 年 月 日
生年月日： ( 歳)		性 別 男・女	評価者名
診 断 名：	褥瘡の有無（現在） 有・無		褥瘡の有無（過去） 有・無
<p>褥瘡ハイリスク項目〔該当すべてに○〕</p> <p>ベッド上安静、ショック状態、重度の末梢循環不全、麻薬等の鎮痛・鎮静剤の持続的な使用が必要、6時間以上の手術（全身麻酔下、特殊体位）、強度の下痢の持続、極度な皮膚の脆弱（低出生体重児、GVHD、黄疸等）、医療関連機器の長期かつ持続的な使用（医療用弾性ストッキング、シーネ等）、褥瘡の多発と再発</p>			
<p>その他の危険因子〔該当すべてに○〕</p> <p>床上で自立体位変換ができない、いす上で座位姿勢が保持できない、病的骨突出、関節拘縮、栄養状態低下、皮膚の湿潤（多汗、尿失禁、便失禁）、浮腫（局所以外の部位）</p>			
<p>褥瘡の発生が予測される部位及び褥瘡の発生部位</p> 		<p>リスクアセスメント結果</p>	
		<p>重点的な褥瘡ケアの必要性</p> <p style="text-align: right;">要 ・ 不要</p>	
		<p>褥瘡管理者名</p>	
<p>褥瘡予防治療計画 〔褥瘡ハイリスク患者ケアの開始年月日 年 月 日〕</p>			
<p>褥瘡ケア結果の評価 〔褥瘡ハイリスク患者ケアの終了年月日 年 月 日〕</p>			

特定集中治療室用の重症度、医療・看護必要度に係る評価票

( 配点 )

A	モニタリング及び処置等	0 点	1 点	2 点
1	心電図モニターの管理	なし	あり	
2	輸液ポンプの管理	なし	あり	
3	動脈圧測定（動脈ライン）	なし		あり
4	シリンジポンプの管理	なし	あり	
5	中心静脈圧測定（中心静脈ライン）	なし		あり
6	人工呼吸器の管理	なし		あり
7	輸血や血液製剤の管理	なし		あり
8	肺動脈圧測定（スワンガンツカテーテル）	なし		あり
9	特殊な治療法等 (CHDF, IABP, PCPS, 補助人工心臓, ICP測定, ECMO)	なし		あり
				A 得点

B	患者の状況等	患者の状態				介助の実施			評価
		0 点	1 点	2 点		0	1		
10	寝返り	できる	何かにつかまれば できる	できない	×			×	点
11	移乗	自立	一部介助	全介助		実施なし	実施あり		点
12	口腔清潔	自立	要介助			実施なし	実施あり		点
13	食事摂取	自立	一部介助	全介助		実施なし	実施あり		点
14	衣服の着脱	自立	一部介助	全介助		実施なし	実施あり		点
15	診療・療養上の指示が通じる	はい	いいえ						点
16	危険行動	ない		ある					点
									B 得点

注) 特定集中治療室用の重症度、医療・看護必要度に係る評価票の記入にあたっては、  
「特定集中治療室用の重症度、医療・看護必要度に係る評価票 評価の手引き」に基づき行うこと。  
・ A については、評価日において実施されたモニタリング及び処置等の合計点数を記載する。  
・ B については、評価日の「患者の状態」及び「介助の実施」に基づき判断した患者の状況等の点数を記載する。

< 特定集中治療室用の重症度、医療・看護必要度に係る基準 >  
モニタリング及び処置等に係る得点（A 得点）が 4 点以上かつ患者の状況等に係る得点（B 得点）が 3 点以上。

## 特定集中治療室用の重症度、医療・看護必要度に係る評価票 評価の手引き

### アセスメント共通事項

#### 1. 評価の対象

評価の対象は、救命救急入院料及び特定集中治療室管理料を届け出ている治療室に入院している患者であり、短期滞在手術等基本料を算定する患者及びD P C対象病院において短期滞在手術等基本料2又は3の対象となる手術、検査又は放射線治療を行った患者（基本診療料の施設基準等第十の三（3）及び四に係る要件以外の短期滞在手術等基本料に係る要件を満たす場合に限る。）は評価の対象としない。

#### 2. 評価日及び評価項目

評価は、患者に行われたモニタリング及び処置等（A項目）、患者の状況等（B項目）について、毎日評価を行うこと。

#### 3. 評価対象時間

評価対象時間は、0時から24時の24時間であり、重複や空白時間を生じさせないこと。

外出・外泊や検査・手術等の理由により、全ての評価対象時間の観察を行うことができない患者の場合であっても、当該治療室に在室していた時間があつた場合は、評価の対象とすること。ただし、評価対象日の0時から24時の間、外泊している患者は、当該外泊日については、評価対象とならない。

退室日は、当日の0時から退室時までを評価対象時間とする。退室日の評価は行いが、基準を満たす患者の算出にあたり延べ患者数には含めない。ただし、入院した日に退院（死亡退院を含む）した患者は、延べ患者数に含めるものとする。

#### 4. 評価対象場所

当該治療室内を評価の対象場所とし、当該治療室以外で実施された治療、処置、看護及び観察については、評価の対象場所に含めない。

#### 5. 評価対象の処置・介助等

当該治療室で実施しなければならない処置・介助等の実施者、又は医師の補助の実施者は、当該治療室に所属する看護職員でなければならない。ただし、一部の評価項目において、薬剤師、理学療法士等が治療室内において実施することを評価する場合は、治療室所属の有無は問わない。

なお、A項目の評価において、医師が単独で処置等を行った後に、当該治療室の看護職員が当該処置等を確認し、実施記録を残す場合も評価に含めるものとする。

A項目の処置の評価においては、訓練や退院指導等の目的で実施する行為は評価の対象に含めないが、B項目の評価においては、患者の訓練を目的とした行為であっても評価の対象に含めるものとする。

A項目の薬剤の評価については、臨床試験であっても評価の対象に含めるものとする。

#### 6. 評価者

評価は、院内研修を受けた者が行うこと。医師、薬剤師、理学療法士等が一部の項目の評価を行う場合も院内研修を受けること。

#### 7. 評価の判断

評価の判断は、アセスメント共通事項、B項目共通事項及び項目ごとの選択肢の判断基準等に従って実施すること。独自に定めた判断基準により評価してはならない。

#### 8. 評価の根拠

評価は、観察と記録に基づいて行い、推測は行わないこと。当日の実施記録が無い場合は評価できないため、A項目では「なし」、B項目では自立度の一番高い評価とする。A項目の評価においては、後日、第三者が確認を行う際に、記録から同一の評価を導く



根拠となる記録を残しておく必要があるが、項目ごとの記録を残す必要はない。

記録は、媒体の如何を問わず、当該医療機関において正式に承認を得て保管されているものであること。また、原則として医師及び当該治療室の看護職員による記録が評価の対象となるが、評価項目によっては、医師及び当該治療室の看護職員以外の職種の記録も評価の根拠となり得るため、記録方法について院内規定を設ける等、工夫すること。

なお、B項目については、「患者の状態」が評価の根拠となることから、重複する記録を残す必要はない。

## A モニタリング及び処置等

### 1 心電図モニターの管理

#### 項目の定義

心電図モニターの管理は、持続的に看護職員が心電図のモニタリングを実施した場合に評価する項目である。

#### 選択肢の判断基準

「なし」

持続的な心電図のモニタリングを実施しなかった場合をいう。

「あり」

持続的な心電図のモニタリングを実施した場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

心電図の誘導の種類や誘導法の種類は問わない。

機器の設置・準備・後片付けは含めない。心電図モニターの装着時間や回数は問わないが、医師の指示により、心機能や呼吸機能障害を有する患者等に対して常時観察を行っている場合であって、看護職員による心電図の評価の記録が必要である。心電図の機器による自動的な記録のみの場合は心電図モニターの管理の対象に含めない。

心電図検査として一時的に測定を行った場合は含めない。ホルター心電図は定義に従い、看護職員による持続的な評価の記録がある場合に限り含める。

### 2 輸液ポンプの管理

#### 項目の定義

輸液ポンプの管理は、末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して、静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたり輸液ポンプを使用し、看護職員が使用状況（投与時間、投与量等）を管理している場合に評価する項目である。

#### 選択肢の判断基準

「なし」

末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたり輸液ポンプの管理をしなかった場合をいう。

「あり」

末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたり輸液ポンプの管理をした場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して、静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたり輸液ポンプにセットしていても、作動させていない場合や、灌流等患部の洗浄に使用している場合には使用していないものとする。

携帯用であっても輸液ポンプの管理に含めるが、看護職員が投与時間と投与量の両方の管理を行い、持続的に注入している場合のみ含める。

### 3 動脈圧測定（動脈ライン）

#### 項目の定義

動脈圧測定は、動脈ラインを挿入し、そのラインを介して直接的に動脈圧測定を実施した場合を評価する項目である。

#### 選択肢の判断基準

「なし」

動脈圧測定を実施していない場合をいう。

「あり」

動脈圧測定を実施している場合をいう。

### 4 シリンジポンプの管理

#### 項目の定義

シリンジポンプの管理は、末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して、静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたりシリンジポンプを使用し、看護職員が使用状況（投与時間、投与量等）を管理している場合に評価する項目である。

#### 選択肢の判断基準

「なし」

末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたりシリンジポンプの管理をしなかった場合をいう。

「あり」

末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたりシリンジポンプの管理をした場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して、静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたりシリンジポンプにセットしていても、作動させていない場合には使用していないものとする。

携帯用であってもシリンジポンプの管理の対象に含めるが、PCA（自己調節鎮痛法）によるシリンジポンプは、看護職員が投与時間と投与量の両方の管理を行い、持続的に注入している場合のみ含める。

### 5 中心静脈圧測定（中心静脈ライン）

#### 項目の定義

中心静脈圧測定は、中心静脈ラインを挿入し、そのラインを介して直接的に中心静脈圧測定を実施した場合を評価する項目である。

#### 選択肢の判断基準

「なし」  
中心静脈圧測定（中心静脈ライン）を実施していない場合をいう。  
「あり」  
中心静脈圧測定（中心静脈ライン）を実施している場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

スワンガンツカテーテルによる中心静脈圧測定についても中心静脈圧測定（中心静脈ライン）の対象に含める。  
中心静脈圧の測定方法は、水柱による圧測定、圧トランスデューサーによる測定のいずれでもよい。

### 6 人工呼吸器の管理

#### 項目の定義

人工呼吸器の管理は、人工換気が必要な患者に対して、人工呼吸器を使用し管理した場合を評価する項目である。

#### 選択肢の判断基準

「なし」  
人工呼吸器を使用していない場合をいう。  
「あり」  
人工呼吸器を使用している場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

人工呼吸器の種類や設定内容、あるいは気道確保の方法については問わないが、看護職員等が、患者の人工呼吸器の装着状態の確認、換気状況の確認、機器の作動確認等の管理を実施している必要がある。また、人工呼吸器の使用に関する医師の指示が必要である。  
NPPV（非侵襲的陽圧換気）の実施は含める。

### 7 輸血や血液製剤の管理

#### 項目の定義

輸血や血液製剤の管理は、輸血（全血、濃厚赤血球、新鮮凍結血漿等）や血液製剤（アルブミン製剤等）の投与について、血管を通して行った場合、その投与後の状況を看護職員が管理した場合に評価する項目である。

#### 選択肢の判断基準

「なし」  
輸血や血液製剤の使用状況の管理をしなかった場合をいう。  
「あり」  
輸血や血液製剤の使用状況の管理をした場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

輸血、血液製剤の種類及び単位数については問わないが、腹膜透析や血液透析は輸血や血液製剤の管理の対象に含めない。自己血輸血、腹水を濾過して輸血する場合は

含める。

## 8 肺動脈圧測定（スワンガンツカテーテル）

### 項目の定義

肺動脈圧測定は、スワンガンツカテーテルを挿入し、そのカテーテルを介して直接的に肺動脈圧測定を実施した場合を評価する項目である。

### 選択肢の判断基準

「なし」  
肺動脈圧測定を実施していない場合をいう。  
「あり」  
肺動脈圧測定を実施している場合をいう。

### 判断に際しての留意点

スワンガンツカテーテル以外の肺動脈カテーテルによる肺動脈圧測定についても肺動脈圧測定の評価に含める。

## 9 特殊な治療法等（CHDF, IABP, PCPS, 補助人工心臓, ICP 測定, ECMO）

### 項目の定義

特殊な治療法等は、CHDF（持続的血液濾過透析）、IABP（大動脈バルーンパンピング）、PCPS（経皮的心肺補助法）、補助人工心臓、ICP（頭蓋内圧）測定、ECMO（経皮的肺補助法）を実施した場合を評価する項目である。

### 選択肢の判断基準

「なし」  
特殊な治療法等のいずれも行っていない場合をいう。  
「あり」  
特殊な治療法等のいずれかを行っている場合をいう。

## B 患者の状況等

### B 項目共通事項

1. 義手・義足・コルセット等の装具を使用している場合には、装具を装着した後の状態に基づいて評価を行う。
2. 評価時間帯のうちに状態が変わり、異なる状態の記録が存在する場合には、自立度の低い方の状態をもとに評価を行うこと。
3. 当該動作が制限されていない場合には、可能であれば動作を促し、観察した結果をもとに「患者の状態」を評価すること。動作の確認をできなかった場合には、通常、介助が必要な状態であっても「できる」又は「自立」とする。
4. 医師の指示によって、当該動作が制限されていることが明確である場合には、各選択肢の留意点を参考に評価する。この場合、医師の指示に係る記録があること。ただし、動作が禁止されているにもかかわらず、患者が無断で当該動作を行ってしまった場合には「できる」又は「自立」とする。
5. B11「移乗」、B12「口腔清潔」、B13「食事摂取」、B14「衣服の着脱」については、「患者の状態」と「介助の実施」とを乗じた点数とすること。

## 1 0 寝返り 項目の定義

寝返りが自分でできるかどうか、あるいはベッド柵、ひも、バー、サイドレール等の何かにつかまればできるかどうかを評価する項目である。  
ここでいう『寝返り』とは、仰臥位から（左右どちらかの）側臥位になる動作である。

### 選択肢の判断基準

「できる」  
何にもつかまらず、寝返り（片側だけでよい）が1人でできる場合をいう。  
「何かにつかまればできる」  
ベッド柵、ひも、バー、サイドレール等の何かにつかまれば1人で寝返りができる場合をいう。  
「できない」  
介助なしでは1人で寝返りができない等、寝返りに何らかの介助が必要な場合をいう。

### 判断に際しての留意点

「何かにつかまればできる」状態とは、看護職員等が事前に環境を整えておくことによって患者自身が1人で寝返りができる状態であり、寝返りの際に、ベッド柵に患者の手をつかまらせる等の介助を看護職員等が行っている場合は「できない」となる。  
医師の指示により、自力での寝返りを制限されている場合は「できない」とする。

## 1 1 移乗 項目の定義

移乗時の介助の必要の有無と、介助の実施状況の評価する項目である。  
ここでいう『移乗』とは、「ベッドから車椅子へ」、「ベッドからストレッチャーへ」、「車椅子からポータブルトイレへ」等、乗り移ることである。

### 選択肢の判断基準

（患者の状態）  
「自立」  
介助なしで移乗できる場合をいう。這って動いても、移乗が1人でできる場合も含む。  
「一部介助」  
患者の心身の状態等の理由から、事故等がないように見守る必要がある場合、あるいは1人では移乗ができないため他者が手を添える、体幹を支える等の一部介助が必要な場合をいう。  
「全介助」  
1人では移乗が全くできないために、他者が抱える、運ぶ等の全面的に介助が必要な場合をいう。  
（介助の実施）  
「実施なし」  
評価日に看護職員等が介助を行わなかった場合をいう。  
「実施あり」  
評価日に看護職員等が介助を行った場合をいう。

## 判断に際しての留意点

患者が1人では動けず、スライド式の移乗用補助具の使用が必要な場合は「全介助」となる。  
車椅子等への移乗の際に、立つ、向きを変える、数歩動く等に対して、患者自身も行うことができている（力が出せる）場合は「一部介助」となる。  
医師の指示により、自力での移乗を制限されている場合は「全介助」とする。また、介助による移乗も制限されている場合は、「全介助」かつ「実施なし」とする。

## 1 2 口腔清潔 項目の定義

口腔内を清潔にするための一連の行為が1人でできるかどうか、1人でできない場合に看護職員等が見守りや介助を実施したかどうかを評価する項目である。  
一連の行為とは、歯ブラシやうがい用の水等を用意する、歯磨き粉を歯ブラシにつける等の準備、歯磨き中の見守りや指示、磨き残しの確認等も含む。  
口腔清潔に際して、車椅子に移乗する、洗面所まで移動する等の行為は、口腔清潔に関する一連の行為には含まれない。

## 選択肢の判断基準

（患者の状態）  
「自立」  
口腔清潔に関する一連の行為すべてが1人でできる場合をいう。  
「要介助」  
口腔清潔に関する一連の行為のうち部分的、あるいはすべてに介助が必要な場合をいう。患者の心身の状態等の理由から見守りや指示が必要な場合も含まれる。  
（介助の実施）  
「実施なし」  
評価日に看護職員等が介助を行わなかった場合をいう。  
「実施あり」  
評価日に看護職員等が介助を行った場合をいう。

## 判断に際しての留意点

口腔内の清潔には、『歯磨き、うがい、口腔内清拭、舌のケア等の介助から義歯の手入れ、挿管中の吸引による口腔洗浄、ポピドンヨード剤等の薬剤による洗浄』も含まれる。舌や口腔内の硼砂グリセリンの塗布、口腔内吸引のみは口腔内清潔に含まない。  
また、歯がない場合は、うがいや義歯の清潔等、口腔内の清潔に関する類似の行為が行われているかどうかに基づいて判断する。  
医師の指示により、自力での口腔清潔が制限されている場合は「要介助」とする。また、介助による口腔清潔も制限されている場合は、「要介助」かつ「実施なし」とする。

## 1 3 食事摂取 項目の定義

食事介助の必要の有無と、介助の実施状況を評価する項目である。  
ここでいう食事摂取とは、経口栄養、経管栄養を含み、朝食、昼食、夕食、補食等、個々の食事単位で評価を行う。中心静脈栄養は含まれない。  
食事摂取の介助は、患者が食事を摂るための介助、患者に応じた食事環境を整える食卓上の介助をいう。厨房での調理、配膳、後片付け、食べこぼしの掃除、車椅子へ

の移乗の介助、エプロンをかける等は含まれない。

#### 選択肢の判断基準

(患者の状態)

「自立」

介助・見守りなしに1人で食事が摂取できる場合をいう。また、箸やスプーンのほかに、自助具等を使用する場合も含まれる。

「一部介助」

必要に応じて、食事摂取の行為の一部に介助が必要な場合をいう。また、食卓で食べやすいように配慮する行為(小さく切る、ほぐす、皮をむく、魚の骨をとる、蓋をはずす等)が必要な場合をいう。患者の心身の状態等の理由から見守りや指示が必要な場合も含まれる。

「全介助」

1人では全く食べることができず全面的に介助が必要な場合をいい、食事開始から終了までにすべてに介助を要する場合は「全介助」とする。

(介助の実施)

「実施なし」

評価日に看護職員等が介助を行わなかった場合をいう。

「実施あり」

評価日に看護職員等が介助を行った場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

食事の種類は問わず、一般(普通)食、プリン等の経口訓練食、水分補給食、経管栄養すべてをさし、摂取量は問わない。経管栄養の評価も、全面的に看護職員等が行う必要がある場合は「全介助」となり、患者が自立して1人で行うことができる場合は「自立」となる。ただし、経口栄養と経管栄養のいずれも行っている場合は、「自立度の低い方」で評価する。

家族が行った行為、食欲の観察は含めない。また、看護職員等が、パンの袋切り、食事の温め、果物の皮むき、卵の殻むき等を行う必要がある場合は「一部介助」とする。

医師の指示により、食止めや絶食となっている場合は、「全介助」かつ「実施なし」とする。セッティングしても患者が食事摂取を拒否した場合は「実施なし」とする。

#### 14 衣服の着脱

##### 項目の定義

衣服の着脱について、介助の必要の有無と、介助の実施状況を評価する項目である。衣服とは、患者が日常生活上必要とし着用しているものをいう。パジャマの上衣、ズボン、寝衣、パンツ、オムツ等を含む。

#### 選択肢の判断基準

(患者の状態)

「自立」

介助なしに1人で衣服を着たり脱いだりすることができる場合をいう。自助具等を使って行うことができる場合も含む。

「一部介助」

衣服の着脱に一部介助が必要な場合をいう。例えば、途中までは自分で行っているが、最後に看護職員等がズボン・パンツ等を上げる必要がある場合等は、「一部介助」に含む。看護職員等が手を出して介助する必要はないが、患者の心身の状態等の理由から、転倒の防止等のために、見守りや指示を行う必要がある場合

<p>等も「一部介助」とする。</p> <p>「全介助」 衣服の着脱の行為すべてに介助が必要な場合をいう。患者自身が、介助を容易にするために腕を上げる、足を上げる、腰を上げる等の行為を行うことができても、着脱行為そのものを患者が行うことができず、看護職員等がすべて介助する必要がある場合も「全介助」とする。</p> <p>(介助の実施)</p> <p>「実施なし」 評価日に看護職員等が介助を行わなかった場合をいう。</p> <p>「実施あり」 評価日に看護職員等が介助を行った場合をいう。</p>
---

#### 判断に際しての留意点

<p>衣服の着脱に要する時間の長さは判断には関係しない。</p> <p>通常は自分で衣服の着脱をしているが、点滴が入っているために介助を要している場合は、その介助の状況で評価する。</p> <p>靴や帽子は、衣服の着脱の評価に含めない。</p>
--

### 1 5 診療・療養上の指示が通じる

#### 項目の定義

<p>指示内容や背景疾患は問わず、診療・療養上の指示に対して、指示通りに実行できるかどうかを評価する項目である。</p>
--

#### 選択肢の判断基準

<p>「はい」 診療・療養上の指示に対して、指示通りの行動が常に行われている場合をいう。</p> <p>「いいえ」 診療・療養上の指示に対して、指示通りでない行動が1回でもみられた場合をいう。</p>
--

#### 判断に際しての留意点

<p>精神科領域、意識障害等の有無等、背景疾患は問わない。指示の内容は問わないが、あくまでも診療・療養上で必要な指示であり、評価日当日の指示であること、及びその指示が適切に行われた状態で評価することを前提とする。</p> <p>医師や看護職員等の話を理解したように見えても、意識障害等により指示を理解できない場合や自分なりの解釈を行い結果的に、診療・療養上の指示から外れた行動をした場合は「いいえ」とする。</p>
---

### 1 6 危険行動

#### 項目の定義

<p>患者の危険行動の有無を評価する項目である。</p> <p>ここでいう「危険行動」は、「治療・検査中のチューブ類・点滴ルート等の自己抜去、転倒・転落、自傷行為」の発生又は「そのまま放置すれば危険行動に至ると判断する行動」を過去1週間以内の評価対象期間に看護職員等が確認した場合をいう。</p>
--

#### 選択肢の判断基準

<p>「ない」</p>
-------------



過去 1 週間以内に危険行動がなかった場合をいう。  
「ある」  
過去 1 週間以内に危険行動があった場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

危険行動の評価にあたっては、適時のアセスメントと適切な対応、並びに日々の危険行動への対策を前提としている。この項目は、その上で、なお発生が予測できなかった危険行動の事実とその対応の手間を評価する項目であり、対策をもたない状況下で発生している危険行動を評価するものではない。対策がもたれている状況下で発生した危険行動が確認でき、評価当日にも当該対策がもたれている場合に評価の対象に含める。

認知症等の有無や、日常生活動作能力の低下等の危険行動を起こす疾患・原因等の背景や、行動の持続時間等の程度を判断の基準としない。なお、病室での喫煙や大声を出す・暴力を振るう等の、いわゆる迷惑行為は、この項目での定義における「危険行動」には含めない。

他施設からの転院、他病棟からの転棟の際は、看護職員等が記載した記録物により評価対象期間内の「危険行動」が確認できる場合は、評価の対象に含める。

ハイケアユニット用の重症度、医療・看護必要度に係る評価票

(配点)

A	モニタリング及び処置等	0点	1点
1	創傷処置 (①創傷の処置(褥瘡の処置を除く)、 ②褥瘡の処置)	なし	あり
2	蘇生術の施行	なし	あり
3	呼吸ケア (喀痰吸引のみの場合及び人工呼吸器の装着の場 合を除く)	なし	あり
4	点滴ライン同時3本以上の管理	なし	あり
5	心電図モニターの管理	なし	あり
6	輸液ポンプの管理	なし	あり
7	動脈圧測定(動脈ライン)	なし	あり
8	シリンジポンプの管理	なし	あり
9	中心静脈圧測定(中心静脈ライン)	なし	あり
10	人工呼吸器の管理	なし	あり
11	輸血や血液製剤の管理	なし	あり
12	肺動脈圧測定(スワンガンツカテーテル)	なし	あり
13	特殊な治療法等 (CHDF, IABP, PCPS, 補助人工心臓, ICP測定, ECMO)	なし	あり
		A得点	

B	患者の状況等	患者の状態				介助の実施			評価
		0点	1点	2点		0	1		
14	寝返り	できる	何かにつかまれば できる	できない	×			×	点
15	移乗	自立	一部介助	全介助		実施なし	実施あり		点
16	口腔清潔	自立	要介助			実施なし	実施あり		点
17	食事摂取	自立	一部介助	全介助		実施なし	実施あり		点
18	衣服の着脱	自立	一部介助	全介助		実施なし	実施あり		点
19	診療・療養上の指示が通じる	はい	いいえ						点
20	危険行動	ない		ある					点
B得点									

注) ハイケアユニット用の重症度、医療・看護必要度に係る評価票の記入にあたっては、  
「ハイケアユニット用の重症度、医療・看護必要度に係る評価票 評価の手引き」に基づき行うこと。  
・Aについては、評価日において実施されたモニタリング及び処置等の合計点数を記載する。  
・Bについては、評価日の「患者の状態」及び「介助の実施」に基づき判断した患者の状況等の点数を記載する。

＜ハイケアユニット用の重症度、医療・看護必要度に係る基準＞  
モニタリング及び処置等に係る得点（A得点）が3点以上かつ患者の状況等に係る得点（B得点）が4点以上。

## アセスメント共通事項

### 1. 評価の対象

評価の対象は、ハイケアユニット入院医療管理料を届け出ている治療室に入院している患者であり、短期滞在手術等基本料を算定する患者及びD P C対象病院において短期滞在手術等基本料2又は3の対象となる手術、検査又は放射線治療を行った患者（基本診療料の施設基準等第十の三（3）及び四に係る要件以外の短期滞在手術等基本料に係る要件を満たす場合に限る。）は評価の対象としない。

### 2. 評価日及び評価項目

評価は、患者に行われたモニタリング及び処置等（A項目）、患者の状況等（B項目）について、毎日評価を行うこと。

### 3. 評価対象時間

評価対象時間は、0時から24時の24時間であり、重複や空白時間を生じさせないこと。外出・外泊や検査・手術等の理由により、全ての評価対象時間の観察を行うことができない患者の場合であっても、当該治療室に在室していた時間があつた場合は、評価の対象とすること。ただし、評価対象日の0時から24時の間、外泊している患者は、当該外泊日については、評価対象とならない。

退室日は、当日の0時から退室時までを評価対象時間とする。退室日の評価は行うが、基準を満たす患者の算出にあたり延べ患者数には含めない。ただし、入院した日に退院（死亡退院を含む）した患者は、延べ患者数に含めるものとする。

### 4. 評価対象場所

当該治療室内を評価の対象場所とし、当該治療室以外で実施された治療、処置、看護及び観察については、評価の対象場所に含めない。

### 5. 評価対象の処置・介助等

当該治療室で実施しなければならない処置・介助等の実施者、又は医師の補助の実施者は、当該治療室に所属する看護職員でなければならない。ただし、一部の評価項目において、薬剤師、理学療法士等が治療室内において実施することを評価する場合は、治療室所属の有無は問わない。

なお、A項目の評価において、医師が単独で処置等を行った後に、当該治療室の看護職員が当該処置等を確認し、実施記録を残す場合も評価に含めるものとする。

A項目の処置の評価においては、訓練や退院指導等の目的で実施する行為は評価の対象に含めないが、B項目の評価においては、患者の訓練を目的とした行為であっても評価の対象に含めるものとする。

A項目の薬剤の評価については、臨床試験であっても評価の対象に含めるものとする。

### 6. 評価者

評価は、院内研修を受けた者が行うこと。医師、薬剤師、理学療法士等が一部の項目の評価を行う場合も院内研修を受けること。

### 7. 評価の判断

評価の判断は、アセスメント共通事項、B項目共通事項及び項目ごとの選択肢の判断基準等に従って実施すること。独自に定めた判断基準により評価してはならない。

### 8. 評価の根拠

評価は、観察と記録に基づいて行い、推測は行わないこと。当日の実施記録が無い場合は評価できないため、A項目では「なし」、B項目では自立度の一番高い評価とする。A項目の評価においては、後日、第三者が確認を行う際に、記録から同一の評価を導く

根拠となる記録を残しておく必要があるが、項目ごとの記録を残す必要はない。

記録は、媒体の如何を問わず、当該医療機関において正式に承認を得て保管されているものであること。また、原則として医師及び当該治療室の看護職員による記録が評価の対象となるが、評価項目によっては、医師及び当該治療室の看護職員以外の職種の記録も評価の根拠となり得るため、記録方法について院内規定を設ける等、工夫すること。

なお、B項目については、「患者の状態」が評価の根拠となることから、重複する記録を残す必要はない。

## A モニタリング及び処置等

### 1 創傷処置

#### 項目の定義

創傷処置は、①創傷の処置（褥瘡の処置を除く）、②褥瘡の処置のいずれかの処置について、看護職員が医師の介助をした場合、あるいは医師又は看護職員が自ら処置を実施した場合に評価する項目である。

#### 選択肢の判断基準

「なし」  
創傷処置のいずれも実施しなかった場合をいう。  
「あり」  
創傷処置のいずれかを実施した場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

創傷処置に含まれる内容は、各定義及び留意点に基づいて判断すること。

#### ① 創傷の処置（褥瘡の処置を除く）

##### 【定義】

創傷の処置（褥瘡の処置を除く）は、創傷があり、創傷についての処置を実施した場合に評価する項目である。

##### 【留意点】

ここでいう創傷とは、皮膚又は粘膜が破綻をきたした状態であり、その数、深さ、範囲の程度は問わない。

縫合創は創傷処置の対象に含めるが、縫合のない穿刺創は含めない。粘膜は、鼻、口腔、膣及び肛門の粘膜であって、外部から粘膜が破綻をきたしている状態であることが目視できる場合に限り含める。気管切開口、胃瘻及びストーマ等については、造設から抜糸までを含め、抜糸後は、滲出液が見られ処置を必要とする場合を含める。

ここでいう処置とは、創傷の治癒を促し感染を予防する目的で、洗浄、消毒、止血、薬剤の注入及び塗布、ガーゼやフィルム材等の創傷被覆材の貼付や交換等の処置を実施した場合をいい、診察、観察だけの場合やガーゼを剥がすだけの場合は含めない。

また、陰圧閉鎖療法、眼科手術後の点眼及び排泄物の処理に関するストーマ処置は含めない。

#### ② 褥瘡の処置

##### 【定義】

褥瘡の処置は、褥瘡があり、褥瘡についての処置を実施した場合に評価する項目である。

### 【留意点】

ここでいう褥瘡とは、NPUAP分類Ⅱ度以上又はDESIGN-R分類d2以上の状態をいう。この状態に達していないものは、褥瘡の処置の対象に含めない。

ここでいう処置とは、褥瘡に対して、洗浄、消毒、止血、薬剤の注入及び塗布、ガーゼやフィルム材等の創傷被覆材の貼付や交換等の処置を実施した場合をいい、診察、観察だけの場合やガーゼを剥がすだけの場合は含めない。また、陰圧閉鎖療法は含めない。

### 【参考】

NPUAP分類 (National Pressure Ulcer of Advisory Panel) Ⅱ度以上  
DESIGN-R分類 (日本褥瘡学会によるもの) d2 以上

## 2 蘇生術の施行

### 項目の定義

蘇生術の施行は、気管内挿管・気管切開術・人工呼吸器装着・除細動・心マッサージのいずれかが、蘇生を目的に施行されたかどうかを評価する項目である。

### 選択肢の判断基準

「なし」  
蘇生術の施行がなかった場合をいう。  
「あり」  
蘇生術の施行があった場合をいう。

### 判断に際しての留意点

当該治療室以外での評価は含まないため、手術室、救急外来等で蘇生術が行われたとしても、当該治療室で行われていなければ蘇生術の施行の対象に含めない。

蘇生術の施行に含まれている人工呼吸器の装着とは、いままで装着していない患者が蘇生のために装着したことであり、蘇生術以外の人工呼吸器管理は、「A-10 人工呼吸器の管理」の項目において評価される。

## 3 呼吸ケア（喀痰吸引のみの場合及び人工呼吸器の装着の場合を除く）

### 項目の定義

呼吸ケアは、酸素吸入、痰を出すための体位ドレナージ、スクウィーピングのいずれかの処置に対して、看護職員等が自ら行うか医師の介助を行った場合に評価する項目である。

### 選択肢の判断基準

「なし」  
呼吸ケアを実施しなかった場合をいう。  
「あり」  
呼吸ケアを実施した場合をいう。

### 判断に際しての留意点

喀痰吸引のみの場合は呼吸ケアの対象に含めない。

呼吸ケアにおける時間の長さや回数は問わない。酸素吸入の方法は問わない。

なお、気管切開の患者が喀痰吸引を行っているだけの場合は含めない。また、エアウェイ挿入、ネブライザー吸入は呼吸ケアには含めない。

## 4 点滴ライン同時3本以上の管理

## 項目の定義

点滴ライン同時3本以上の管理は、持続的に点滴ライン（ボトル、バッグ、シリンジ等から末梢静脈、中心静脈、動静脈シャント、硬膜外、動脈、皮下に対する点滴、持続注入による薬液、輸血・血液製剤の流入経路）を3本以上同時に使用し、看護職員が管理を行った場合に評価する項目である。

## 選択肢の判断基準

「なし」  
同時に3本以上の点滴の管理を実施しなかった場合をいう。  
「あり」  
同時に3本以上の点滴の管理を実施した場合をいう。

## 判断に際しての留意点

施行の回数や時間の長さ、注射針の刺入個所の数は問わない。  
2つのボトルを連結管で連結させて1つのルートで滴下した場合は、点滴ラインは1つとして数える。1カ所に刺入されていても三方活栓等のコネクターで接続された点滴ラインは本数に数える。これら点滴ラインを利用して、側管から持続的に点滴する場合は数えるが、手動で注射を実施した場合は、持続的に使用しているといえないため本数に数えない。  
スワングアンツカテーテルの加圧バッグについては、薬液の注入が目的ではないため本数に数えない。PCA（自己調節鎮痛法）による点滴ライン（携帯用を含む）は、看護職員が投与時間と投与量の両方の管理を行い、持続的に注入している場合のみ本数に数える。

## 5 心電図モニターの管理

### 項目の定義

心電図モニターの管理は、持続的に看護職員が心電図のモニタリングを実施した場合に評価する項目である。

## 選択肢の判断基準

「なし」  
持続的な心電図のモニタリングを実施しなかった場合をいう。  
「あり」  
持続的な心電図のモニタリングを実施した場合をいう。

## 判断に際しての留意点

心電図の誘導の種類や誘導法の種類は問わない。  
機器の設置・準備・後片付けは含めない。心電図モニターの装着時間や回数は問わないが、医師の指示により、心機能や呼吸機能障害を有する患者等に対して常時観察を行っている場合であって、看護職員による心電図の評価の記録が必要である。心電図の機器による自動的な記録のみの場合は心電図モニターの管理の対象に含めない。  
心電図検査として一時的に測定を行った場合は含めない。ホルター心電図は定義に従い、看護職員による持続的な評価の記録がある場合に限り含める。

## 6 輸液ポンプの管理

### 項目の定義

輸液ポンプの管理は、末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して、静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたり輸液ポンプを使用し、看護職員が使用状況（投与時間、投与量等）を管理している場合に評価する項目である。

## 選択肢の判断基準

「なし」

末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたり輸液ポンプの管理をしなかった場合をいう。

「あり」

末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたり輸液ポンプの管理をした場合をいう。

## 判断に際しての留意点

末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して、静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたり輸液ポンプにセットしていても、作動させていない場合や、灌流等患部の洗浄に使用している場合には使用していないものとする。

携帯用であっても輸液ポンプの管理に含めるが、看護職員が投与時間と投与量の両方の管理を行い、持続的に注入している場合のみ含める。

## 7 動脈圧測定（動脈ライン）

### 項目の定義

動脈圧測定は、動脈ラインを挿入し、そのラインを介して直接的に動脈圧測定を実施した場合を評価する項目である。

## 選択肢の判断基準

「なし」

動脈圧測定を実施していない場合をいう。

「あり」

動脈圧測定を実施している場合をいう。

## 8 シリンジポンプの管理

### 項目の定義

シリンジポンプの管理は、末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して、静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたりシリンジポンプを使用し、看護職員が使用状況（投与時間、投与量等）を管理している場合に評価する項目である。

## 選択肢の判断基準

「なし」

末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたりシリンジポンプの管理をしなかった場合をいう。

「あり」

末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたりシリンジポンプの管理をした場合をいう。

## 判断に際しての留意点

末梢静脈・中心静脈・硬膜外・動脈・皮下に対して、静脈注射・輸液・輸血・血液製剤・薬液の微量持続注入を行うにあたりシリンジポンプにセットしていても、作動させていない場合には使用していないものとする。

携帯用であってもシリンジポンプの管理の対象に含めるが、PCA（自己調節鎮痛法）によるシリンジポンプは、看護職員が投与時間と投与量の両方の管理を行い、持続的に注入している場合のみ含める。

## 9 中心静脈圧測定（中心静脈ライン）

### 項目の定義

中心静脈圧測定は、中心静脈ラインを挿入し、そのラインを介して直接的に中心静脈圧測定を実施した場合を評価する項目である。

### 選択肢の判断基準

「なし」  
中心静脈圧測定（中心静脈ライン）を実施していない場合をいう。  
「あり」  
中心静脈圧測定（中心静脈ライン）を実施している場合をいう。

### 判断に際しての留意点

スワングアンツカテーテルによる中心静脈圧測定についても中心静脈圧測定（中心静脈ライン）の対象に含める。  
中心静脈圧の測定方法は、水柱による圧測定、圧トランスデューサーによる測定のいずれでもよい。

## 10 人工呼吸器の管理

### 項目の定義

人工呼吸器の管理は、人工換気が必要な患者に対して、人工呼吸器を使用した場合を評価する項目である。

### 選択肢の判断基準

「なし」  
人工呼吸器を使用していない場合をいう。  
「あり」  
人工呼吸器を使用している場合をいう。

### 判断に際しての留意点

人工呼吸器の種類や設定内容、あるいは気道確保の方法については問わないが、看護職員等が、患者の人工呼吸器の装着状態の確認、換気状況の確認、機器の作動確認等の管理を実施している必要がある。また、人工呼吸器の使用に関する医師の指示が必要である。  
NPPV（非侵襲的陽圧換気）の実施は含める。

## 11 輸血や血液製剤の管理

### 項目の定義

輸血や血液製剤の管理は、輸血（全血、濃厚赤血球、新鮮凍結血漿等）や血液製剤（アルブミン製剤等）の投与について、血管を通して行った場合、その投与後の状況を看護職員が管理した場合に評価する項目である。

### 選択肢の判断基準

「なし」  
輸血や血液製剤の使用状況の管理をしなかった場合をいう。  
「あり」  
輸血や血液製剤の使用状況の管理をした場合をいう。

### 判断に際しての留意点



輸血、血液製剤の種類及び単位数については問わないが、腹膜透析や血液透析は輸血や血液製剤の管理の対象に含めない。自己血輸血、腹水を濾過して輸血する場合は含める。

## 1 2 肺動脈圧測定（スワンガンツカテーテル）

### 項目の定義

肺動脈圧測定は、スワンガンツカテーテルを挿入し、そのカテーテルを介して直接的に肺動脈圧測定を実施した場合を評価する項目である。

### 選択肢の判断基準

「なし」  
肺動脈圧測定を実施していない場合をいう。  
「あり」  
肺動脈圧測定を実施している場合をいう。

### 判断に際しての留意点

スワンガンツカテーテル以外の肺動脈カテーテルによる肺動脈圧測定についても肺動脈圧測定の評価に含める。

## 1 3 特殊な治療法等（CHDF, IABP, PCPS, 補助人工心臓, ICP測定, ECMO）

### 項目の定義

特殊な治療法等は、CHDF（持続的血液濾過透析）、IABP（大動脈バルーンパンピング）、PCPS（経皮的心肺補助法）、補助人工心臓、ICP（頭蓋内圧）測定、ECMO（経皮的肺補助法）を実施した場合を評価する項目である。

### 選択肢の判断基準

「なし」  
特殊な治療法等のいずれも行っていない場合をいう。  
「あり」  
特殊な治療法等のいずれかを行っている場合をいう。

## B 患者の状況等

### B項目共通事項

1. 義手・義足・コルセット等の装具を使用している場合には、装具を装着した後の状態に基づいて評価を行う。
2. 評価時間帯のうちに状態が変わり、異なる状態の記録が存在する場合には、自立度の低い方の状態をもとに評価を行うこと。
3. 当該動作が制限されていない場合には、可能であれば動作を促し、観察した結果をもとに「患者の状態」を評価すること。動作の確認をできなかった場合には、通常、介助が必要な状態であっても「できる」又は「自立」とする。
4. 医師の指示によって、当該動作が制限されていることが明確である場合には、各選択肢の留意点を参考に評価する。この場合、医師の指示に係る記録があること。ただし、動作が禁止されているにもかかわらず、患者が無断で当該動作を行ってしまった場合には「できる」又は「自立」とする。
5. B15「移乗」、B16「口腔清潔」、B17「食事摂取」、B18「衣服の着脱」については、「患者の状態」と「介助の実施」とを乗じた点数とすること。

## 1 4 寝返り

## 項目の定義

寝返りが自分でできるかどうか、あるいはベッド柵、ひも、バー、サイドレール等の何かにつかまればできるかどうかを評価する項目である。  
ここでいう『寝返り』とは、仰臥位から（左右どちらかの）側臥位になる動作である。

## 選択肢の判断基準

「できる」  
何にもつかまらず、寝返り（片側だけでよい）が1人でできる場合をいう。  
「何かにつかまればできる」  
ベッド柵、ひも、バー、サイドレール等の何かにつかまれば1人で寝返りができる場合をいう。  
「できない」  
介助なしでは1人で寝返りができない等、寝返りに何らかの介助が必要な場合をいう。

## 判断に際しての留意点

「何かにつかまればできる」状態とは、看護職員等が事前に環境を整えておくことによって患者自身が1人で寝返りができる状態であり、寝返りの際に、ベッド柵に患者の手をつかませる等の介助を看護職員等が行っている場合は「できない」となる。  
医師の指示により、自力での寝返りを制限されている場合は「できない」とする。

## 15 移乗 項目の定義

移乗時の介助の必要の有無と、介助の実施状況の評価する項目である。  
ここでいう『移乗』とは、「ベッドから車椅子へ」、「ベッドからストレッチャーへ」、「車椅子からポータブルトイレへ」等、乗り移ることである。

## 選択肢の判断基準

（患者の状態）  
「自立」  
介助なしで移乗できる場合をいう。這って動いても、移乗が1人でできる場合も含む。  
「一部介助」  
患者の心身の状態等の理由から、事故等がないように見守る必要がある場合、あるいは1人では移乗ができないため他者が手を添える、体幹を支える等の一部介助が必要な場合をいう。  
「全介助」  
1人では移乗が全くできないために、他者が抱える、運ぶ等の全面的に介助が必要な場合をいう。  
（介助の実施）  
「実施なし」  
評価日に看護職員等が介助を行わなかった場合をいう。  
「実施あり」  
評価日に看護職員等が介助を行った場合をいう。

## 判断に際しての留意点

患者が1人では動けず、スライド式の移乗用補助具の使用が必要な場合は「全介助」となる。  
車椅子等への移乗の際に、立つ、向きを変える、数歩動く等に対して、患者自身も行うことができる（力が出せる）場合は「一部介助」となる。  
医師の指示により、自力での移乗を制限されている場合は「全介助」とする。また、介助による移乗も制限されている場合は、「全介助」かつ「実施なし」とする。

## 1.6 口腔清潔 項目の定義

口腔内を清潔にするための一連の行為が1人でできるかどうか、1人でできない場合に看護職員等が見守りや介助を実施したかどうかを評価する項目である。  
一連の行為とは、歯ブラシやうがい用の水等を用意する、歯磨き粉を歯ブラシにつける等の準備、歯磨き中に見守りや指示、磨き残しの確認等も含む。  
口腔清潔に際して、車椅子に移乗する、洗面所まで移動する等の行為は、口腔清潔に関する一連の行為には含まれない。

### 選択肢の判断基準

（患者の状態）  
「自立」  
口腔清潔に関する一連の行為すべてが1人でできる場合をいう。  
「要介助」  
口腔清潔に関する一連の行為のうち部分的、あるいはすべてに介助が必要な場合をいう。患者の心身の状態等の理由から見守りや指示が必要な場合も含まれる。  
（介助の実施）  
「実施なし」  
評価日に看護職員等が介助を行わなかった場合をいう。  
「実施あり」  
評価日に看護職員等が介助を行った場合をいう。

### 判断に際しての留意点

口腔内の清潔には、『歯磨き、うがい、口腔内清拭、舌のケア等の介助から義歯の手入れ、挿管中の吸引による口腔洗浄、ポピドンヨード剤等の薬剤による洗浄』も含まれる。舌や口腔内の硼砂グリセリンの塗布、口腔内吸引のみは口腔内清潔に含まない。  
また、歯がない場合は、うがいや義歯の清潔等、口腔内の清潔に関する類似の行為が行われているかどうかに基づいて判断する。  
医師の指示により、自力での口腔清潔が制限されている場合は「要介助」とする。また、介助による口腔清潔も制限されている場合は、「要介助」かつ「実施なし」とする。

## 1.7 食事摂取 項目の定義

食事介助の必要の有無と、介助の実施状況の評価する項目である。  
ここでいう食事摂取とは、経口栄養、経管栄養を含み、朝食、昼食、夕食、補食等、個々の食事単位で評価を行う。中心静脈栄養は含まれない。  
食事摂取の介助は、患者が食事を摂るための介助、患者に応じた食事環境を整える食卓上の介助をいう。厨房での調理、配膳、後片付け、食べこぼしの掃除、車椅子への移乗の介助、エプロンをかける等は含まれない。

### 選択肢の判断基準

（患者の状態）

「自立」

介助・見守りなしに1人で食事が摂取できる場合をいう。また、箸やスプーンのほかに、自助具等を使用する場合も含まれる。

「一部介助」

必要に応じて、食事摂取の行為の一部に介助が必要な場合をいう。また、食卓で食べやすいように配慮する行為（小さく切る、ほぐす、皮をむく、魚の骨をとる、蓋をはずす等）が必要な場合をいう。患者の心身の状態等の理由から見守りや指示が必要な場合も含まれる。

「全介助」

1人では全く食べることができず全面的に介助が必要な場合をいい、食事開始から終了までにすべてに介助を要する場合は「全介助」とする。

(介助の実施)

「実施なし」

評価日に看護職員等が介助を行わなかった場合をいう。

「実施あり」

評価日に看護職員等が介助を行った場合をいう。

判断に際しての留意点

食事の種類は問わず、一般（普通）食、プリン等の経口訓練食、水分補給食、経管栄養すべてをさし、摂取量は問わない。経管栄養の評価も、全面的に看護職員等が行う必要がある場合は「全介助」となり、患者が自立して1で行うことができる場合は「自立」となる。ただし、経口栄養と経管栄養のいずれも行っている場合は、「自立度の低い方」で評価する。

家族が行った行為、食欲の観察は含めない。また、看護職員等が、パンの袋切り、食事の温め、果物の皮むき、卵の殻むき等を行う必要がある場合は「一部介助」とする。

医師の指示により、食止めや絶食となっている場合は、「全介助」かつ「実施なし」とする。セッティングしても患者が食事摂取を拒否した場合は「実施なし」とする。

18 衣服の着脱

項目の定義

衣服の着脱について、介助の必要の有無と、介助の実施状況を評価する項目である。衣服とは、患者が日常生活上必要とし着用しているものをいう。パジャマの上衣、ズボン、寝衣、パンツ、オムツ等を含む。

選択肢の判断基準

(患者の状態)

「自立」

介助なしに1人で衣服を着たり脱いだりすることができる場合をいう。自助具等を使って行うことができる場合も含む。

「一部介助」

衣服の着脱に一部介助が必要な場合をいう。例えば、途中までは自分で行っているが、最後に看護職員等がズボン・パンツ等を上げる必要がある場合等は、「一部介助」に含む。看護職員等が手を出して介助する必要はないが、患者の心身の状態等の理由から、転倒の防止等のために、見守りや指示を行う必要がある場合等も「一部介助」とする。

「全介助」

衣服の着脱の行為すべてに介助が必要な場合をいう。患者自身が、介助を容易にするために腕を上げる、足を上げる、腰を上げる等の行為を行うことができて、着脱行為そのものを患者が行うことができず、看護職員等がすべて介助する必要がある場合も「全介助」とする。

(介助の実施)

「実施なし」  
評価日に看護職員等が介助を行わなかった場合をいう。  
「実施あり」  
評価日に看護職員等が介助を行った場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

衣服の着脱に要する時間の長さは判断には関係しない。  
通常は自分で衣服の着脱をしているが、点滴が入っているために介助を要している場合は、その介助の状況で評価する。  
靴や帽子は、衣服の着脱の評価に含めない。

### 19 診療・療養上の指示が通じる

#### 項目の定義

指示内容や背景疾患は問わず、診療・療養上の指示に対して、指示通りに実行できるかどうかを評価する項目である。

#### 選択肢の判断基準

「はい」  
診療・療養上の指示に対して、指示通りの行動が常に行われている場合をいう。  
「いいえ」  
診療・療養上の指示に対して、指示通りでない行動が1回でもみられた場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

精神科領域、意識障害等の有無等、背景疾患は問わない。指示の内容は問わないが、あくまでも診療・療養上で必要な指示であり、評価日当日の指示であること、及びその指示が適切に行われた状態で評価することを前提とする。  
医師や看護職員等の話を理解したように見えても、意識障害等により指示を理解できない場合や自分なりの解釈を行い結果的に、診療・療養上の指示から外れた行動をした場合は「いいえ」とする。

### 20 危険行動

#### 項目の定義

患者の危険行動の有無を評価する項目である。  
ここでいう「危険行動」は、「治療・検査中のチューブ類・点滴ルート等の自己抜去、転倒・転落、自傷行為」の発生又は「そのまま放置すれば危険行動に至ると判断する行動」を過去1週間以内の評価対象期間に看護職員等が確認した場合をいう。

#### 選択肢の判断基準

「ない」  
過去1週間以内に危険行動がなかった場合をいう。  
「ある」  
過去1週間以内に危険行動があった場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

危険行動の評価にあたっては、適時のアセスメントと適切な対応、並びに日々の危険行動への対策を前提としている。この項目は、その上で、なお発生が予測できなかった危険行動の事実とその対応の手間を評価する項目であり、対策をもたない状況下で発生している危険行動を評価するものではない。対策がもたれている状況下で発生した危険行動が確認でき、評価当日にも当該対策がもたれている場合に評価の対象に

含める。

認知症等の有無や、日常生活動作能力の低下等の危険行動を起こす疾患・原因等の背景や、行動の持続時間等の程度を判断の基準としない。なお、病室での喫煙や大声を出す・暴力を振るう等の、いわゆる迷惑行為は、この項目での定義における「危険行動」には含めない。

他施設からの転院、他病棟からの転棟の際は、看護職員等が記載した記録物により評価対象期間内の「危険行動」が確認できる場合は、評価の対象に含める。

リハビリテーション総合実施計画書

計画評価実施日 年 月 日

患者氏名	男・女		生年月日(明・大・昭・平・令) 年 月 日( 歳)		利き手	右・右(矯正)・左										
主治医	リハ担当医		PT	OT	ST	看護	SW等									
原因疾患(発症・受傷日)			合併疾患・コントロール状態 (高血圧, 心疾患, 糖尿病等)		廃用症候群 <input type="checkbox"/> 軽度 <input type="checkbox"/> 中程度 <input type="checkbox"/> 重度 <input type="checkbox"/> 起立性低血圧 <input type="checkbox"/> 静脈血栓		リハビリテーション歴									
日常生活自立度: J1, J2, A1, A2, B1, B2, C1, C2			認知症高齢者の日常生活自立度判定基準: I, IIa, IIb, IIIa, IIIb, IV, M													
評価項目・内容(コロン(:)の後に具体的内容を記入)																
心身機能・構造	<input type="checkbox"/> 意識障害:(3-3-9: ) <input type="checkbox"/> 認知症: <input type="checkbox"/> 知的障害: <input type="checkbox"/> 精神障害: <input type="checkbox"/> 中枢性麻痺 (ステージ・グレード)右上肢: 右手指: 右下肢: 左上肢: 左手指: 左下肢: <input type="checkbox"/> 筋力低下(部位, MMT: ) <input type="checkbox"/> 不随意運動・協調運動障害:				<input type="checkbox"/> 知覚障害( <input type="checkbox"/> 視覚, <input type="checkbox"/> 表在覚, <input type="checkbox"/> 深部覚, <input type="checkbox"/> その他: ) <input type="checkbox"/> 音声・発話障害( <input type="checkbox"/> 構音障害, <input type="checkbox"/> 失語症)(種類: ) <input type="checkbox"/> 失行・失認: <input type="checkbox"/> 摂食機能障害: <input type="checkbox"/> 排泄機能障害: <input type="checkbox"/> 呼吸・循環機能障害: <input type="checkbox"/> 拘縮: <input type="checkbox"/> 褥瘡: <input type="checkbox"/> 疼痛:											
	基本動作	立位保持(装具: ) <input type="checkbox"/> 手放し, <input type="checkbox"/> つかまり, <input type="checkbox"/> 不可 平行棒内歩行(装具: ) <input type="checkbox"/> 独立, <input type="checkbox"/> 一部介助, <input type="checkbox"/> 全介助 訓練室内歩行(装具: ) <input type="checkbox"/> 独立, <input type="checkbox"/> 一部介助, <input type="checkbox"/> 全介助														
活動	自立度 ADL・ASL等		日常生活(病棟)実行状況:「している“活動”」			訓練時能力:「できる“活動”」										
			自立	監視	一部介助	全介助	非実	使用用具 杖・装具	姿勢・実行場所 介助内容 等	自立	監視	一部介助	全介助	非実	使用用具 杖・装具	姿勢・実行場所 介助内容 等
	屋外歩行							杖・装具:							杖・装具:	
	階段昇降							杖・装具:							杖・装具:	
	廊下歩行							杖・装具:							杖・装具:	
	病棟トイレへの歩行							杖・装具:							杖・装具:	
	病棟トイレへの車椅子駆動(昼)							装具:							装具:	
	車椅子・ベッド間移乗							装具:							装具:	
	椅子座位保持							装具:							装具:	
	ベッド起き上がり															
食事							用具:							用具:		
排尿(昼)							便器:							便器:		
排尿(夜)							便器:							便器:		
整容							移動方法・姿勢:							移動方法・姿勢:		
更衣							姿勢:							姿勢:		
装具・靴の着脱							姿勢:							姿勢:		
入浴							浴槽:							浴槽:		
コミュニケーション																
活動度		日中臥床: <input type="checkbox"/> 無, <input type="checkbox"/> 有(時間帯: )理由( ) 日中座位: <input type="checkbox"/> 椅子(背もたれなし), <input type="checkbox"/> 椅子(背もたれあり), <input type="checkbox"/> 椅子(背もたれ, 肘うけあり), <input type="checkbox"/> 車椅子, <input type="checkbox"/> ベッド上, <input type="checkbox"/> ギャッチアップ														
栄養※	身長 <sup>#1</sup> : ( )cm, 体重: ( )kg, BMI <sup>#1</sup> : ( )kg/m <sup>2</sup> <sup>#1</sup> 身長測定が困難な場合は省略可 栄養補給方法(複数選択可): <input type="checkbox"/> 経口( <input type="checkbox"/> 食事, <input type="checkbox"/> 補助食品), <input type="checkbox"/> 経管栄養, <input type="checkbox"/> 静脈栄養( <input type="checkbox"/> 末梢, <input type="checkbox"/> 中心) 嚥下調整食の必要性: <input type="checkbox"/> 無, <input type="checkbox"/> 有(学会分類コード: ) 栄養状態: <input type="checkbox"/> 問題なし, <input type="checkbox"/> 低栄養, <input type="checkbox"/> 低栄養リスク, <input type="checkbox"/> 過栄養, <input type="checkbox"/> その他( ) 【「問題なし」以外に該当した場合、以下も記入】 必要栄養量: ( )kcal, たんぱく質( )g 総摂取栄養量 <sup>#2</sup> (経口・経管・静脈全て含む): ( )kcal, たんぱく質( )g <sup>#2</sup> 入院直後等で不明の場合は総提供栄養量でも可															
参加	職業 ( <input type="checkbox"/> 無職, <input type="checkbox"/> 病欠中, <input type="checkbox"/> 休職中, <input type="checkbox"/> 発症後退職, <input type="checkbox"/> 退職予定) (職種・業種・仕事内容: )				社会参加(内容・頻度等)											
	経済状況( )				余暇活動(内容・頻度等)											
心理	障害の受容( <input type="checkbox"/> ショック期, <input type="checkbox"/> 否認期, <input type="checkbox"/> 怒り・恨み期, <input type="checkbox"/> 悲観・抑うつ期, <input type="checkbox"/> 解決への努力期, <input type="checkbox"/> 受容期) 機能障害改善への固執( <input type="checkbox"/> 強い, <input type="checkbox"/> 中程度, <input type="checkbox"/> 普通, <input type="checkbox"/> 弱い)				依存欲求( <input type="checkbox"/> 強い, <input type="checkbox"/> 中程度, <input type="checkbox"/> 普通, <input type="checkbox"/> 弱い) 独立欲求( <input type="checkbox"/> 強い, <input type="checkbox"/> 中程度, <input type="checkbox"/> 普通, <input type="checkbox"/> 弱い)											
環境	同居家族: 親族関係:				家屋: 家屋周囲: 交通手段:											
第三者の	発病による家族の変化 <input type="checkbox"/> 社会生活: <input type="checkbox"/> 健康上の問題の発生: <input type="checkbox"/> 心理的問題の発生:															

※回復期リハビリテーション病棟入院料1を算定する場合は必ず記入のこと(本計画書上段に管理栄養士の氏名も記入)

基本方針	本人の希望
リスク・疾病管理(含:過用・誤用)	家族の希望
リハビリテーション終了の目安・時期	外泊訓練の計画

	目標(到達時期)	具体的アプローチ
参加目標	退院先 <input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 親族宅 <input type="checkbox"/> 医療機関 <input type="checkbox"/> その他: 復職 <input type="checkbox"/> 現職復帰 <input type="checkbox"/> 転職 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> その他: (仕事内容: ) 通勤方法の変更 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有: 家庭内役割: 社会活動: 趣味:	
すべて実況	自宅内歩行 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 介助: (装具・杖等: ) 屋外歩行 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 介助: (装具・杖等: ) 交通機関利用 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 介助: (種類: ) 車椅子 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 電動 <input type="checkbox"/> 手動 (使用場所: ) (駆動 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 介助)(移乗 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 介助: ) 排泄 <input type="checkbox"/> 自立:形態 <input type="checkbox"/> 洋式 <input type="checkbox"/> 和式 <input type="checkbox"/> 立ち便器 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 介助: 食事 <input type="checkbox"/> 箸自立 <input type="checkbox"/> フォーク等自立 <input type="checkbox"/> 介助: 整容 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 介助: 更衣 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 介助: 入浴 <input type="checkbox"/> 自宅浴槽自立 <input type="checkbox"/> 介助: 家事 <input type="checkbox"/> 全部実施 <input type="checkbox"/> 非実施 <input type="checkbox"/> 一部実施: 書字 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 利き手交換後自立 <input type="checkbox"/> その他: コミュニケーション <input type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり:	
心身機能構造	基本動作(訓練室歩行等) 要素的機能(拘縮・麻痺等)	
心理	機能障害改善への固執からの脱却:	
環境	自宅改造 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要: 福祉機器 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要: 社会保障サービス <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 身障手帳 <input type="checkbox"/> 障害年金 <input type="checkbox"/> その他: 介護保険サービス <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要:	
第三者の不利	退院後の主介護者 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要: 家族構成の変化 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要: 家族内役割の変化 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要: 家族の社会活動変化 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要:	

退院後又は終了後のリハビリテーション計画(種類・頻度・期間)	備考
--------------------------------	----

本人・家族への説明	年	月	日	本人サイン		家族サイン		説明者サイン	
-----------	---	---	---	-------	--	-------	--	--------	--

(リハビリテーション実施計画書及びリハビリテーション総合実施計画書記入上の注意)

- 日常生活自立度の欄については、「障害老人の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準」の活用について(平成3年11月18日 老健第102-2号)厚生省大臣官房老人保健福祉部長通知によるランクⅠ,Ⅱ,A1,A2,B1,B2,C1又はC2に該当するものであること。
- 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準の欄については、「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」の活用について(平成5年10月26日 老健第135号)厚生省老人保健福祉局長通知によるランクⅠ,Ⅱa,Ⅱb,Ⅲa,Ⅲb,Ⅳ又はMに該当するものであること。
- 日常生活(病棟)実行状況:「している“活動”」の欄については、自宅又は病棟等における実生活で実行している状況についてであること。
- 訓練時能力:「できる“活動”」の欄については、機能訓練室又は病棟等における訓練・評価時に行うことができる能力についてであること。



## リハビリテーション総合実施計画書

計画評価実施日： 年 月 日

患者氏名：		男・女		生年月日(西暦)		年		月		日( 歳)		利き手	右・右(矯正)・左	
主治医		リハ担当医		PT		OT		ST		看護		SW等		
診断名、障害名(発症日、手術日、診断日)：				合併症(コントロール状態)：						リハビリテーション歴：				
日常生活自立度： J1、J2、A1、A2、B1、B2、C1、C2				認知症高齢者の日常生活自立度判定基準： I , II a, II b, III a, III b, IV, M										

評価項目・内容 (コロン( )の後ろに具体的内容を記入)					短期目標 ( 月後)	具体的アプローチ		
心身機能・構造	<input type="checkbox"/> 意識障害 (JCS、GCS) : <input type="checkbox"/> 見当識障害: <input type="checkbox"/> 記銘力障害: <input type="checkbox"/> 運動障害: <input type="checkbox"/> 感覚障害: <input type="checkbox"/> 摂食障害: <input type="checkbox"/> 排泄障害: <input type="checkbox"/> 呼吸、循環障害: <input type="checkbox"/> 音声、発話障害(構音、失語): <input type="checkbox"/> 関節可動域制限: <input type="checkbox"/> 筋力低下: <input type="checkbox"/> 褥瘡: <input type="checkbox"/> 疼痛: <input type="checkbox"/> 半側空間無視: <input type="checkbox"/> 注意力障害: <input type="checkbox"/> 構成障害: <input type="checkbox"/> その他:							
	基本動作	寝返り ( <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助 ): 起き上がり ( <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助 ): 座位 ( <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助 ): 立ち上がり ( <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助 ): 立位 ( <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助 ):						
活動	活動度 (安静度の制限とその理由、活動時のリスクについて)							
	ADL (B, I.)	自立	一部介助	全介助	使用用具(杖、装具)、介助内容	短期目標	具体的アプローチ	
	食事	10	5	0				
	移乗	15	10 ←監視下					
	座れるが移れない→		5	0				
	整容	5	0	0				
	トイレ動作	10	5	0				
	入浴	5	0	0				
	平地歩行	15	10←歩行器等		歩行:			
	車椅子操作が可能 →		5	0	車椅子:			
	階段	10	5	0				
	更衣	10	5	0				
	排便管理	10	5	0				
	排尿管理	10	5	0				
	合計(0~100点)				点			
コミュニケーション	理解							
	表出							

	評価	短期目標	具体的アプローチ
参加	職業（ <input type="checkbox"/> 無職、 <input type="checkbox"/> 病欠中、 <input type="checkbox"/> 休職中、 <input type="checkbox"/> 発症後退職、 <input type="checkbox"/> 退職予定） 職種・業種・仕事内容： 経済状況： 社会参加（内容、頻度等）： 余暇活動（内容、頻度等）：	退院先（ <input type="checkbox"/> 自宅、 <input type="checkbox"/> 親族宅、 <input type="checkbox"/> 医療機関、 <input type="checkbox"/> その他） 復職（ <input type="checkbox"/> 現職復帰、 <input type="checkbox"/> 転職、 <input type="checkbox"/> 配置転換、 <input type="checkbox"/> 復職不可、 <input type="checkbox"/> その他） 復職時期： 仕事内容： 通勤方法： 家庭内役割： 社会活動： 趣味：	
栄養 (※)	身長 <sup>#1</sup> : ( )cm、体重: ( )kg、 BMI <sup>#1</sup> : ( )kg/m <sup>2</sup> #1 身長測定が困難な場合は省略可 栄養補給方法（複数選択可）： <input type="checkbox"/> 経口（ <input type="checkbox"/> 食事、 <input type="checkbox"/> 補助食品） <input type="checkbox"/> 経管栄養、 <input type="checkbox"/> 静脈栄養（ <input type="checkbox"/> 末梢、 <input type="checkbox"/> 中心） 嚥下調整食の必要性： <input type="checkbox"/> 無、 <input type="checkbox"/> 有（学会分類コード: ） 栄養状態: <input type="checkbox"/> 問題なし、 <input type="checkbox"/> 低栄養、 <input type="checkbox"/> 低栄養リスク <input type="checkbox"/> 過栄養、 <input type="checkbox"/> その他( )  【「問題なし」以外に該当した場合、以下も記入】 必要栄養量: ( )kcal、たんぱく質( )g 総摂取栄養量 <sup>#2</sup> (経口・経管・静脈全て含む): ( )kcal、たんぱく質( )g #2 入院直後等で不明な場合は総提供栄養量でも可	摂取栄養量: (目標: kcal) 体重増加/減量: (目標: kg)  栄養補給方法（複数選択可）： <input type="checkbox"/> 経口（ <input type="checkbox"/> 食事、 <input type="checkbox"/> 補助食品） <input type="checkbox"/> 経管栄養 <input type="checkbox"/> 静脈栄養（ <input type="checkbox"/> 末梢、 <input type="checkbox"/> 中心） その他:	
心理	抑うつ： 障害の否認： その他:		
環境	同居家族： 親族関係： 家屋： 家屋周囲： 交通手段:	自宅改造 <input type="checkbox"/> 不要、 <input type="checkbox"/> 要： 福祉機器 <input type="checkbox"/> 不要、 <input type="checkbox"/> 要： 社会保障サービス <input type="checkbox"/> 不要、 <input type="checkbox"/> 身障手帳、 <input type="checkbox"/> 障害年金 <input type="checkbox"/> その他： 介護保険サービス <input type="checkbox"/> 不要、 <input type="checkbox"/> 要:	
第三者の 不利	発病による家族の変化 社会生活： 健康上の問題の発生： 心理的問題の発生:	退院後の主介護者 <input type="checkbox"/> 不要、 <input type="checkbox"/> 要： 家族構成の変化 <input type="checkbox"/> 不要、 <input type="checkbox"/> 要： 家族内役割の変化 <input type="checkbox"/> 不要、 <input type="checkbox"/> 要： 家族の社会活動変化 <input type="checkbox"/> 不要、 <input type="checkbox"/> 要:	
1ヵ月後の目標:		本人の希望:  家族の希望:	
リハビリテーションの治療方針:			外泊訓練計画:
退院時の目標と見込み時期 :			
退院後のリハビリテーション計画（種類・頻度・期間）:			

退院後の社会参加の見込み:	説明者署名:
---------------	--------

本人・家族への説明:     年     月     日	説明を受けた人:本人、家族(                      ) 署名:
------------------------------	---

(リハビリテーション実施計画書及びリハビリテーション総合実施計画書記入上の注意)

1. 日常生活自立度の欄については、「障害老人の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準」の活用について」(平成3年1月18日 老健第102-2号)厚生省大臣官房老人保健福祉部長通知によるランクJ1, J2, A1, A2, B1, B2, C1又はC2に該当するものであること。
2. 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準の欄については、「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」の活用について」(平成5年 10 月 26 日 老健第 135 号)厚生省老人保健福祉局長通知によるランクⅠ,Ⅱa,Ⅱb,Ⅲa,Ⅲb,Ⅳ又は M に該当するものであること。
3. 活動の欄におけるADLの評価に関しては、Barthel Index に代えてFIMを用いてもよい。

※ 回復期リハビリテーション病棟入院料1を算定する場合は、「栄養」欄も必ず記入のこと(本計画書上段に管理栄養士の氏名も記入)

## 日常生活機能評価票

患者の状況	得 点		
	0 点	1 点	2 点
床上安静の指示	なし	あり	
どちらかの手を胸元まで持ち上げられる	できる	できない	
寝返り	できる	何かにつかまればできる	できない
起き上がり	できる	できない	
座位保持	できる	支えがあればできる	できない
移乗	介助なし	一部介助	全介助
移動方法	介助を要しない移動	介助を要する移動 (搬送を含む)	
口腔清潔	介助なし	介助あり	
食事摂取	介助なし	一部介助	全介助
衣服の着脱	介助なし	一部介助	全介助
他者への意思の伝達	できる	できる時と できない時がある	できない
診療・療養上の指示が通じる	はい	いいえ	
危険行動	ない	ある	
※ 得点：0～19点 ※ 得点が低いほど、生活自立度が高い。		合計得点	点

## 日常生活機能評価票 評価の手引き

1. 評価の対象は、回復期リハビリテーション病棟入院料を届け出ている病棟に入院している患者とし、日常生活機能評価について、入院時と退院時又は転院時に評価を行うこと。ただし、産科患者、15歳未満の小児患者、短期滞在手術等基本料を算定する患者及びDPC対象病院において短期滞在手術等基本料2又は3の対象となる手術、検査又は放射線治療を行った患者（入院した日から起算して5日までに退院した患者に限る。）は評価の対象としない。
2. 評価対象時間は、0時から24時の24時間であり、重複や空白時間を生じさせないこと。
3. 評価は、院内研修を受けた者が行うこと。院内研修の指導者は、関係機関あるいは評価に習熟した者が行う指導者研修を概ね2年以内に受けていることが望ましい。
4. 評価の判断は、項目ごとの選択肢の判断基準等に従って実施すること。独自に定めた判断基準により評価してはならない。
5. 評価は、観察と記録に基づいて行い、推測は行わないこと。
6. 義手・義足・コルセット等の装具を使用している場合には、装具を装着した後の状態に基づいて評価を行う。
7. 評価時間帯のうちに状態が変わった場合には、自立度の低い方の状態をもとに評価を行うこと。
8. 医師の指示によって、当該動作が制限されていることが明確である場合には、「できない」又は「全介助」とする。この場合、医師の指示に係る記録があること。
9. 当該動作が制限されていない場合には、可能であれば動作を促し、観察した結果を評価すること。動作の確認をしなかった場合には、通常、介助が必要な状態であっても「できる」又は「介助なし」とする。
10. ただし、動作が禁止されているにもかかわらず、患者が無断で当該動作を行ってしまった場合には「できる」又は「介助なし」とする。
11. 日常生活機能評価に係る患者の状態については、看護職員、理学療法士等によって記録されていること。

### 1 床上安静の指示 項目の定義

医師の指示書やクリニカルパス等に、床上安静の指示が記録されているかどうかを評価する項目である。『床上安静の指示』は、ベッドから離れることが許可されていないことである。

#### 選択肢の判断基準

「なし」  
床上安静の指示がない場合をいう。  
「あり」  
床上安静の指示がある場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

床上安静の指示は、記録上「床上安静」という語句が使用されていなくても、「ベッド上フリー」、「ベッド上ヘッドアップ30度まで可」等、ベッドから離れることが許可されていないことを意味する語句が指示内容として記録されていれば『床上安静の指示』とみなす。

一方、「ベッド上安静、ただしポータブルトイレのみ可」等、日常生活上、部分的にでもベッドから離れることが許可されている指示は「床上安静の指示」とみなさない。

「床上安静の指示」の患者でも、車椅子、ストレッチャー等で検査、治療、リハビリテーション等に出棟する場合があるが、日常生活上は「床上安静の指示」であるため「あり」とする。

### 2 どちらかの手を胸元まで持ち上げられる 項目の定義

『どちらかの手を胸元まで持ち上げられる』は、患者自身で自分の手を胸元まで持

っていくことができるかどうかを評価する項目である。  
ここでいう「胸元」とは、首の下くらいまでと定め、「手」とは手関節から先と定める。座位、臥位等の体位は問わない。

#### 選択肢の判断基準

「できる」  
いずれか一方の手を介助なしに胸元まで持ち上げられる場合をいう。座位ではできなくても、臥位ではできる場合は、「できる」とする。  
「できない」  
評価時間帯を通して、介助なしにはいずれか一方の手も胸元まで持ち上げられない場合、あるいは関節可動域が制限されているために介助しても持ち上げられない場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

関節拘縮により、もともと胸元に手がある場合や、不随意運動等により手が偶然胸元まで上がったことが観察された場合は、それらを自ら動かせないことから「できない」と判断する。上肢の安静・ギプス固定等の制限があり、自ら動かない、動かすことができない場合は「できない」とする。評価時間内にどちらかの手を胸元まで持ち上げる行為が観察できなかった場合は、この行為を促して観察する。

### 3 寝返り 項目の定義

寝返りが自分でできるかどうか、あるいはベッド柵、ひも、バー、サイドレール等の何かにつかまればできるかどうかを評価する項目である。  
ここでいう『寝返り』とは、仰臥位から（左右どちらかの）側臥位になる動作である。

#### 選択肢の判断基準

「できる」  
何にもつかまらず、寝返り（片側だけでよい）が1人でできる場合をいう。  
「何かにつかまればできる」  
ベッド柵、ひも、バー、サイドレール等の何かにつかまれば1人で寝返りができる場合をいう。  
「できない」  
介助なしでは1人で寝返りができない等、寝返りに何らかの介助が必要な場合をいう。

#### 判断に際しての留意点

「何かにつかまればできる」状態とは、看護職員等が事前に環境を整えておくことによって患者自身が1人で寝返りができる状態であり、寝返りの際に、ベッド柵に患者の手をつかませる等の介助を看護職員等が行っている場合は「できない」となる。

### 4 起き上がり 項目の定義

起き上がりが自分でできるかどうか、あるいはベッド柵、ひも、バー、サイドレール等、何かにつかまればできるかどうかを評価する項目である。  
ここでいう『起き上がり』とは、寝た状態（仰臥位）から上半身を起こす動作である。

#### 選択肢の判断基準

「できる」

1人で起き上がることができる場合をいう。ベッド柵、ひも、バー、サイドレール等につかまれば起き上がることが可能な場合も含まれる。また、電動ベッドを自分で操作して起き上がれる場合も「できる」となる。

「できない」

介助なしでは1人で起き上がることができない等、起き上がりに何らかの介助が必要な場合をいう。途中まで自分でできて最後の部分に介助が必要である場合も含まれる。

判断に際しての留意点

自力で起き上がるための補助具の準備、環境整備等は、介助に含まれない。起き上がる動作に時間がかかっても、補助具等を使って自力で起き上がることができれば「できる」となる。

## 5 座位保持 項目の定義

座位の状態を保持できるかどうかを評価する項目である。ここでいう『座位保持』とは、上半身を起こして座位の状態を保持することである。

「支え」とは、椅子・車椅子・ベッド等の背もたれ、患者自身の手による支持、あるいは他の座位保持装置等をいう。

選択肢の判断基準

「できる」

支えなしで座位が保持できる場合をいう。

「支えがあればできる」

支えがあれば座位が保持できる場合をいう。ベッド、車椅子等を背もたれとして座位を保持している場合「支えがあればできる」となる。

「できない」

支えがあつたり、ベルト等で固定しても座位が保持できない場合をいう。

判断に際しての留意点

寝た状態（仰臥位）から座位に至るまでの介助の有無は関係ない。さらに、尖足・亀背等の身体の状態にかかわらず、「座位がとれるか」についてのみ判断する。

ベッド等の背もたれによる「支え」は、背あげ角度がおおよそ 60 度以上を目安とする。

## 6 移乗 項目の定義

移乗時の介助の状況の評価する項目である。

ここでいう『移乗』とは、「ベッドから車椅子へ」、ベッドからストレッチャーへ、「車椅子からポータブルトイレへ」等、乗り移ることである。

選択肢の判断基準

「介助なし」

介助なしで移乗できる場合をいう。這って動いても、移乗が1人でできる場合も含む。

「一部介助」

患者の心身の状態等の理由から、事故等がないように見守る場合、あるいは1

人では移乗ができないため他者が手を添える、体幹を支える等の一部介助が行われている場合をいう。

「全介助」

1人では移乗が全くできないために、他者が抱える、運ぶ等の全面的に介助が行われている場合をいう。

判断に際しての留意点

患者が1人では動けず、スライド式の移乗用補助具を使用する場合は「全介助」となる。

車椅子等への移乗の際に、立つ、向きを変える、数歩動く等に対して、患者自身も行い（力が出せており）、看護職員等が介助を行っている場合は「一部介助」となる。

医師の指示により、自力での移乗を制限されていた場合は「全介助」とする。

移乗が制限されていないにもかかわらず、看護職員等が移乗を行わなかった場合は「介助なし」とする。

## 7 移動方法

項目の定義

『移動方法』は、ある場所から別の場所へ移る場合の方法を評価する項目である。

選択肢の判断基準

「介助を要しない移動」

杖や歩行器等を使用せずに自力で歩行する場合、あるいは、杖、手すり、歩行器等につかまって歩行する場合をいう。また、車椅子を自力で操作して、自力で移動する場合も含む。

「介助を要する移動（搬送を含む）」

搬送（車椅子、ストレッチャー等）を含み、介助によって移動する場合をいう。

判断に際しての留意点

この項目は、患者の能力を評価するのではなく、移動方法を選択するものであるため、本人が疲れているからと、自力走行を拒否し、車椅子介助で移動した場合は「介助を要する移動」とする。

## 8 口腔清潔

項目の定義

口腔内を清潔にするための一連の行為が1人でできるかどうか、あるいは看護職員等が見守りや介助を行っているかどうかを評価する項目である。

一連の行為とは、歯ブラシやうがい用の水等を用意する、歯磨き粉を歯ブラシにつける等の準備、歯磨き中に見守りや指示、磨き残しの確認等も含む。

口腔清潔に際して、車椅子に移乗する、洗面所まで移動する等の行為は、口腔清潔に関する一連の行為には含まれない。

選択肢の判断基準

「介助なし」

口腔清潔に関する一連の行為すべてが1人でできる場合をいう。

「介助あり」

口腔清潔に関する一連の行為のうち部分的、あるいはすべてに介助が行われている場合をいう。患者の心身の状態等の理由から見守りや指示が必要な場合も含まれる。

判断に際しての留意点



口腔内の清潔には、『歯磨き、うがい、口腔内清拭、舌のケア等の介助から義歯の手入れ、挿管中の吸引による口腔洗浄、ポピドンヨード剤等の薬剤による洗浄』も含まれる。舌や口腔内の硼砂グリセリンの塗布、口腔内吸引のみは口腔内清潔に含まない。

また、歯がない場合は、うがいや義歯の清潔等、口腔内の清潔に関する類似の行為が行われているかどうかに基づいて判断する。

ただし、口腔清潔が制限されていないにもかかわらず、看護職員等による口腔清潔がされなかった場合は、「介助なし」とする。

## 9 食事摂取

### 項目の定義

食事介助の状況进行评估する項目である。

ここでいう食事摂取とは、経口栄養、経管栄養を含み、朝食、昼食、夕食、補食等、個々の食事単位で評価を行う。中心静脈栄養は含まれない。

食事摂取の介助は、患者が食事を摂るための介助、患者に応じた食事環境を整える食卓上の介助をいう。厨房での調理、配膳、後片付け、食べこぼしの掃除、車椅子への移乗の介助、エプロンをかける等は含まれない。

### 選択肢の判断基準

「介助なし」

介助・見守りなしに1人で食事が摂取できる場合をいう。また、箸やスプーンのほか、自助具等を使用する場合も含まれる。食止めや絶食となっている場合は、食事の動作を制限しているとはいえ、介助は発生しないため「介助なし」とする。

「一部介助」

必要に応じて、食事摂取の行為の一部を介助する場合をいう。また、食卓で食べやすいように配慮する行為（小さく切る、ほぐす、皮をむく、魚の骨をとる、蓋をはずす等）が行われている場合をいう。患者の心身の状態等かの理由から見守りや指示が必要な場合も含まれる。

「全介助」

1人では全く食べることができず全面的に介助されている場合をいい、食事開始から終了までにすべてに介助を要した場合は「全介助」とする。

### 判断に際しての留意点

食事の種類は問わず、一般（普通）食、プリン等の経口訓練食、水分補給食、経管栄養すべてをさし、摂取量は問わない。経管栄養の評価も、全面的に看護職員等が行っている場合は「全介助」となり、患者が自立して1人で行った場合は「介助なし」となる。ただし、経口栄養と経管栄養のいずれも行っている場合は、「自立度の低い方」で評価する。

家族が行った行為、食欲の観察は含めない。また、看護職員等が行う、パンの袋切り、食事の温め、果物の皮むき、卵の殻むき等は「一部介助」とする。

セッティングしても患者が食事摂取を拒否した場合は「介助なし」とする。

## 10 衣服の着脱

### 項目の定義

衣服の着脱を看護職員等が介助する状況进行评估する項目である。衣服とは、患者が日常生活上必要とし着用しているものをいう。パジャマの上衣、ズボン、寝衣、パンツ、オムツ等を含む。

### 選択肢の判断基準

「介助なし」

介助なしに1人で衣服を着たり脱いだりしている場合をいう。また、当日、衣服の着脱の介助が発生しなかった場合をいう。自助具等を使って行っている場

合も含む。

「一部介助」

衣服の着脱に一部介助が行われている場合をいう。例えば、途中までは自分で行っているが、最後に看護職員等がズボン・パンツ等を上げている場合等は、「一部介助」に含む。看護職員等が手を出して介助はしていないが、患者の心身の状態等の理由から、転倒の防止等のために、見守りや指示が行われている場合等も「一部介助」とする。

「全介助」

衣服の着脱の行為すべてに介助が行われている場合をいう。患者自身が、介助を容易にするために腕を上げる、足を上げる、腰を上げる等の行為を行っても、着脱行為そのものを患者が行わず、看護職員等がすべて介助した場合も「全介助」とする。

判断に際しての留意点

衣類の着脱に要する時間の長さは判断には関係しない。

通常は自分で衣服の着脱をしているが、点滴が入っているために介助を要している場合は、その介助の状況で評価する。

靴や帽子は、衣服の着脱の評価に含めない。

## 1 1 他者への意思の伝達

項目の定義

患者が他者に何らかの意思伝達ができるかどうかを評価する項目である。  
背景疾患や伝達できる内容は問わない。

選択肢の判断基準

「できる」

常時、誰にでも確実に意思の伝達をしている状況をいう。筆談、ジェスチャー等で意思伝達が図れる時は「できる」と判断する。

「できる時とできない時がある」

患者が家族等の他者に対して意思の伝達ができるが、その内容や状況等によって、できる時とできない時がある場合をいう。例えば、家族には通じるが、看護職員等に通じない場合は、「できる時とできない時がある」とする。

「できない」

どのような手段を用いても、意思の伝達ができない場合をいう。また、重度の認知症や意識障害によって、自発的な意思の伝達ができない、あるいは、意思の伝達ができるか否かを判断できない場合等も含む。

判断に際しての留意点

背景疾患や伝達できる内容は問わない。

## 1 2 診療・療養上の指示が通じる

項目の定義

指示内容や背景疾患は問わず、診療・療養上の指示に対して、指示通りに実行できるかどうかを評価する項目である。

選択肢の判断基準

「はい」

診療・療養上の指示に対して、指示通りの行動が常に行われている場合をいう。

「いいえ」

診療・療養上の指示に対して、指示通りでない行動が1回でもみられた場合をいう。

## 判断に際しての留意点

精神科領域、意識障害等の有無等、背景疾患は問わない。指示の内容は問わないが、あくまでも診療・療養上で必要な指示であり、評価日当日の指示であること、及びその指示が適切に行われた状態で評価することを前提とする。

医師や看護職員等の話を理解したように見えても、意識障害等により指示を理解できない場合や自分なりの解釈を行い結果的に、診察・療養上の指示から外れた行動をした場合は「いいえ」とする。

## 1.3 危険行動

### 項目の定義

患者の危険行動の有無を評価する項目である。

ここでいう「危険行動」は、「治療・検査中のチューブ類・点滴ルート等の自己抜去、転倒・転落、自傷行為」の発生又は「そのまま放置すれば危険行動に至ると判断する行動」を過去1週間以内の評価対象期間に看護職員等が確認した場合をいう。

### 選択肢の判断基準

「ない」

過去1週間以内に危険行動がなかった場合をいう。

「ある」

過去1週間以内に危険行動があった場合をいう。

## 判断に際しての留意点

危険行動の評価にあたっては、適時のアセスメントと適切な対応、並びに日々の危険行動への対策を前提としている。この項目は、その上で、なお発生が予測できなかった危険行動の事実とその対応の手間を評価する項目であり、対策をもたない状況下で発生している危険行動を評価するものではない。対策がもたれている状況下で発生した危険行動が確認でき、評価当日にも当該対策がもたれている場合に評価の対象に含める。

認知症等の有無や、日常生活動作能力の低下等の危険行動を起こす疾患・原因等の背景や、行動の持続時間等の程度を判断の基準としない。なお、病室での喫煙や大声を出す・暴力を振るう等の、いわゆる迷惑行為は、この項目での定義における「危険行動」には含めない。

他施設からの転院、他病棟からの転棟の際は、看護職員等が記載した記録物により評価対象期間内の「危険行動」が確認できる場合は、評価の対象に含める。

計画作成日 . . .

病棟

担当医師名

担当管理栄養士名

--

--

目標					
栄養補給に関する事項					
栄養補給量 ・エネルギー           kcal   ・たんぱく質                 g ・水分                          ・ ・                                 ・		栄養補給方法 <input type="checkbox"/> 経口 <input type="checkbox"/> 経腸栄養 <input type="checkbox"/> 静脈栄養  嚥下調整食の必要性 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり（学会分類コード：                                 ）  食事内容  留意事項			
栄養食事相談に関する事項					
入院時栄養食事指導の必要性		<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり（内容	実施予定日：           月           日		
栄養食事相談の必要性		<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり（内容	実施予定日：           月           日		
退院時の指導の必要性		<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり（内容	実施予定日：           月           日		
<u>備考</u>					
その他栄養管理上解決すべき課題に関する事項					
栄養状態の再評価の時期		実施予定日：           月           日			
退院時及び終了時の総合的評価					

感染防止対策地域連携加算チェック項目表

評価基準	A:適切に行われている、あるいは十分である B:適切に行われているが改善が必要、あるいは十分ではない C:不適切である、あるいは行われていない X:判定不能(当該医療機関では実施の必要性がない項目、確認が行えない項目等)
------	---

評価実施日：            年            月            日            評価対象医療機関名： \_\_\_\_\_

A. 感染対策の組織		評価	コメント
1. 院内感染対策委員会	1)委員会が定期的に開催されている		
	2)病院長をはじめとする病院管理者が参加している		
	3)議事録が適切である		
2. 感染制御を実際に行う組織(ICT) ※医師または看護師のうち 1人は専従であること	1)専任の院内感染管理者を配置、感染防止に係る部門を設置している		
	2)感染対策に3年以上の経験を有する専任の常勤医師がいる		
	3)感染対策に5年以上の経験を有し、感染管理に関わる適切な研修を修了した専任看護師がいる		
	4)3年以上の勤務経験を有し、感染対策に関わる専任の薬剤師がいる		
	5)3年以上の勤務経験を有し、感染対策に関わる専任の検査技師がいる		
B. ICT活動		評価	コメント
1. 感染対策マニュアル	1)感染対策上必要な項目についてのマニュアルが整備されている		
	2)必要に応じて改定がなされている		
2. 教育	1)定期的に病院感染対策に関する講習会が開催されている		
	2)講習会に職員1名あたり年2回出席している		
	3)必要に応じて部署ごとの講習会や実習が行われている		
	4)全職員に対し院内感染について広報を行う手段がある		
	5)外部委託職員に教育を実施している(または適切に指導している)		
3. サーベイランスと インターベンション	1)部署を決めて必要なサーベイランスが行われている		
	2)サーベイランスデータを各部署にフィードバックしている		
	3)サーベイランスのデータに基づいて必要な介入を行っている		

	4)アウトブレイクに介入している		
	5)検査室データが疫学的に集積され、介入の目安が定められている		
4. 抗菌薬適正使用	1)抗菌薬の適正使用に関する監視・指導を行っている		
	2)抗MRSA薬の使用に関する監視・指導を行っている		
	3)抗菌薬の適正使用に関して病棟のラウンドを定期的に行っている		
	4)抗MRSA薬やカルバペネム系抗菌薬などの広域抗菌薬に対して使用制限や許可制を含めて使用状況を把握している		
5. コンサルテーション	1)病院感染対策に関するコンサルテーションを日常的に行っている		
	2)コンサルテーションの結果が記録され、院内感染対策に活用されている		
	3)迅速にコンサルテーションを行うシステムが整っている		
6. 職業感染曝露の防止	1)職員のHBs抗体の有無を検査している		
	2)HB抗体陰性者にはワクチンを接種している		
	3)結核接触者検診にQFTを活用している		
	4)麻疹、風疹、ムンプス、水痘に関する職員の抗体価を把握し、必要に応じてワクチン接種を勧奨している		
	5)針刺し、切創事例に対する対応、報告システムが整っている		
	6)安全装置付きの機材を導入している		
7. ICTラウンド	1)定期的なICTラウンドを実施している		
	2)感染対策の実施状況についてチェックを行っている		
	3)病棟のみならず、外来、中央診療部門等にもラウンドを行っている		
C. 外 来		評価	コメント
1. 外来患者の感染隔離	1)感染性の患者を早期に検出できる(ポスターなど)		
	2)感染性の患者に早期にマスクを着用させている		
	3)感染性の患者とそれ以外の患者を分けて診療できる		
2. 外来診察室	1)診察室に手洗いの設備がある		

	2)各診察室に擦式速乾性手指消毒薬がある		
	3)各診察室に聴診器などの医療器具の表面を消毒できるアルコール綿などがある		
3. 外来処置室	1)鋭利器材の廃棄容器が安全に管理されている (廃棄容器の蓋が開いていない、など)		
	2)鋭利器材の廃棄容器が処置を行う場所の近くに設置してある		
	3)検査検体が適切に保管してある		
4. 抗がん化学療法外来	1)薬剤の無菌調製が適切に実施されている		
	2)咳エチケットが確実に実施されている		
	3)患者および職員の手指衛生が適切に行われている		
D. 病棟		評価	コメント
1. 病室	1)部屋ごとに手洗い場がある		
	2)床や廊下に物品が放置されていない		
	3)必要なコホーティングが行われている		
	4)隔離個室の医療器具は専用化されている		
	5)隔離個室には必要なPPEが準備されている		
	6)空調のメンテナンスが行われ、HEPA filterが定期的に交換されている		
2. スタッフステーション	1)水道のシンク外周が擦拭され乾燥している		
	2)鋭利機材の廃棄容器が適切に管理されている		
	3)鋭利機材の廃棄容器が必要な場所に設置されている		
	4)臨床検体の保存場所が整備されている		
3. 処置室	1)清潔区域と不潔区域を区別している		
	2)滅菌機材が適切に保管され、使用期限のチェックが行われている		
	3)包交車が清潔と不潔のゾーニングがなされている		
	4)包交車に不要な滅菌機材が積まれていない		

4. 薬剤の管理	1) 清潔な状況下で輸液調整が実施されている		
	2) 希釈調製したヘパリン液は室温に放置されていない		
	3) 薬品保管庫の中が整理されている		
	4) 薬剤の使用期限のチェックが行われている		
	5) 薬剤開封後の使用期限の施設内基準を定めている		
	6) 保冷庫の温度管理が適切になされている		
E. ICU		評価	コメント
1. 着衣および環境	1) 入室時に手指衛生を実施している		
	2) 処置者は半そでの着衣である		
	3) 処置者は腕時計をはずしている		
	4) ベッド間隔に十分なスペースがある		
	5) 手洗いや速乾式手指消毒薬が適切に配置されている		
F. 標準予防策		評価	コメント
1. 手洗い	1) 職員の手指消毒が適切である		
	2) 職員の手洗いの方法が適切である		
	3) 手袋を着用する前後で手洗いを行っている		
	4) 手指消毒実施の向上のための教育を継続的に行っている		
2. 手袋	1) 手袋を適切に使用している		
	2) 手袋を使用した後、廃棄する場所が近くにある		
3. 個人防護具(PPE)	1) 必要なときにすぐ使えるように個人防護具(PPE)が整っている		
	2) マスク、ゴーグル、フェイスシールド、キャップ、ガウンなどのPPEの使用基準、方法を職員が理解している		
	3) 個人防護具(PPE)の着脱方法を教育している		
G. 感染経路別予防策		評価	コメント
1. 空気感染予防策	1) 結核発症時の対応マニュアルが整備されている*		



	2)陰圧個室が整備されている		
	3)麻疹発症時の対応マニュアルが整備されている*		
	4)水痘発生時の対応マニュアルが整備されている*		
	5)N95マスクが常備してある		
2. 飛沫感染予防対策	1)インフルエンザ発症時の対応マニュアルが整備されている*		
	2)風疹発症時の対応マニュアルが整備されている*		
	3)流行性耳下腺炎発症時の対応マニュアルが整備されている*		
	4)可能ならば個室隔離としている		
	5)個室隔離が困難な場合、コホーティングしている		
	6)ベッド間隔が1メートル以上取られている		
	7)サージカルマスクの着用が入室前に可能である		
	8)飛沫感染対策が必要な患者であることが職員に周知されている		
3. 接触感染予防策	1)MRSAが検出された場合の対応マニュアルが整備されている*		
	2)手袋が適切に使用されている		
	3)必要なPPEが病室ごとに用意されている		
	4)処置時にはディスポのエプロンを用いている		
	5)処置時必要な場合はマスクを着用している		
	6)必要な場合には保菌者のスクリーニングを行っている		
	7)シーツやリネン類の処理が適切である		
	* マニュアルの評価項目：連絡体制。感受性者サーベイランスの期間、範囲が明瞭である。ワクチンやγ-グロブリンの接種対象者が明確である。消毒薬の選択と実施方法、接触感受性職員の就業制限が規定してある、などを確認する		
H. 術後創感染予防		評価	コメント
	1)除毛は術直前に行っている		
	2)周術期抗菌薬がマニュアルで規定されている		

	3) 必要な場合、抗菌薬の術中追加投与が行われている		
	4) バンコマイシンをルーチンに使用していない(または使用基準がある)		
I. 医療器材の管理		評価	コメント
1. 尿道カテーテル	1) 集尿バッグが膀胱より低い位置にあり、かつ床についていない		
	2) 閉塞や感染がなければ、留置カテーテルは定期的に交換しない		
	3) 集尿バッグの尿の廃棄は、排尿口と集尿器を接触させない		
	4) 尿の廃棄後は患者毎に未滅菌手袋を交換している		
	5) 日常的に膀胱洗浄を施行していない		
	6) 膀胱洗浄の際に抗菌薬や消毒薬をルーチンに局所に用いることはない		
2. 人工呼吸器	1) 加湿器には滅菌水を使用している		
	2) 気管内吸引チューブはディスポのシングルユース又は閉鎖式である		
	3) 定期的に口腔内清拭を行っている		
3. 血管内留置カテーテル	1) 中心静脈カテーテル管理についてのマニュアルがある		
	2) 中心静脈カテーテルの挿入はマキシマルバリアプリコーション(滅菌手袋、滅菌ガウン、マスク、帽子、大きな覆布)が行われている		
	3) 高カロリー輸液製剤への薬剤の混入はクリーンベンチ内で行っている		
	4) 輸液ラインやカテーテルの接続部の消毒には消毒用エタノールを用いている		
	5) ラインを確保した日付が確実に記載されている		
	6) ライン刺入部やカテ走行部の皮膚が観察できる状態で固定されている		
	7) 末梢動脈血圧モニタリングにはディスポーザブルセットを使用している		
J. 洗浄・消毒・滅菌		評価	コメント
1. 医療器具	1) 病棟での一次洗浄、一次消毒が廃止されている(計画がある)		
	2) 生物学的滅菌保証・化学的滅菌保証が適切に行われている		
	3) 消毒薬の希釈方法、保存、交換が適切である		

	4)乾燥が適切に行われている		
2. 内視鏡	1)内視鏡洗浄・管理が中央化されている(計画がある)		
	2)専任の内視鏡検査技師もしくは看護師が配置されている		
	3)用手洗浄が適切に行われている		
	4)管腔を有する内視鏡は消毒ごとにアルコールフラッシュを行っている		
	5)消毒薬のバリデーションが定期的に行われている		
	6)自動洗浄・消毒機の管理責任者がいる		
	7)自動洗浄・消毒機の液の交換が記録されている		
	8)自動洗浄・消毒機のメンテナンスの期日が記録されている		
	9)内視鏡の保管が適切である		
	10)内視鏡の表面に損傷がない		
K. 医療廃棄物		評価	コメント
	1)廃棄物の分別、梱包、表示が適切である		
	2)感染性廃棄物の収納袋に適切なバイオハザードマークが付いている		
	3)最終保管場所が整備されている		
	4)廃棄物の処理過程が適切である		
L. 微生物検査室		評価	コメント
1. 設備・機器	1)安全キャビネット(クラスⅡ以上)を備えている		
	2)安全キャビネットは定期点検(HEPAフィルターのチェック・交換等)が行われている		
	3)菌株保存庫(冷凍庫等)は、カギを掛けている		
	4)検査材料の一時保管場所が定められている		
2. 検査業務	1)安全対策マニュアル等が整備されている		
	2)業務内容によりN95マスク、手袋、専用ガウン等を着用している		

3)抗酸菌検査、検体分離等は安全キャビネット内で行っている		
4)遠心操作は、安全装置付き遠心機を使用している		
5)感染性検査材料用輸送容器が準備されている		
6)廃棄容器にバイオハザードマークが表示されている		
7)感染防止のための手洗い対策が適正である		
8)感染性廃棄物が適正に処理されている		
9)関係者以外の立ち入りを制限している		

評価実施医療機関名：

(評価責任者名：

- [記載上の注意]
- 1) チェック項目について、当該医療機関の実情に合わせて適宜増減しても差し支えない。

2) 評価を受ける医療機関は、当日までに根拠となる書類等を準備しておくこと。

3) 評価を実施する医療機関は、コメント欄で内容を説明すること。特にB、C判定については、その理由を説明すること。

4) 評価を実施した医療機関は、できるだけ早期に本チェック項目表を完成させ、報告書として評価を受けた医療機関へ送付すること。また、評価を実施した医療機関は、報告書の写しを保管しておくこと。